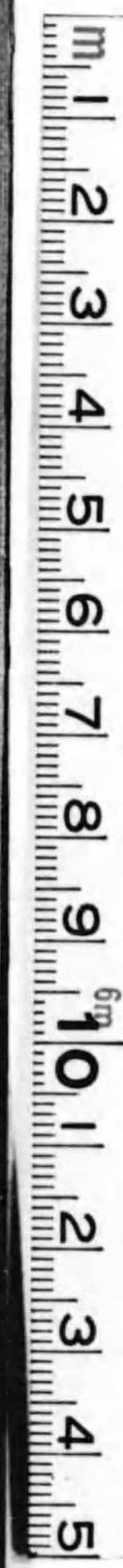


品川區
鄉土讀本



品川區教育研究會



始



特234
258



鄉土讀本



品川區教育研究會



はしがき

一、私達の郷土品川區は、私達の生活の場所であり、活動の舞臺です。いつまでたつても忘れることの出来ないのは、この郷土品川の土地でせう。

郷土の歴史や地理がよくわかれば、學校でのお勉強もほんとに身につけて生きて來ることとせう。近所隣り互に親切にしなければならぬことや、公園の樹木を大切にしたり、道路を綺麗にすることなど、自然と立派に出来るやうになります。この心は、郷土を愛する心であつて、やがて尊い愛國心となります。

一、この讀本は、皆さんに一番わかり易く、又面白く品川區の過ぎ去つた昔の事や、今日の様子を書きました。皆さんはこれによつて、將來品川區民として、又東京市民として、どうしなければならぬかを大いに

考へていただきたいものです。

一、私達の郷土品川區は、昔も今も大東京の表玄關であつて、立派な歴史をたくさんもつてゐます。又大へん立派な土地柄でもあります。今後京濱運河が出来上り、大東京港が完成した時は、ほんとに海陸交通の大切な場所となつてもつとく立派な住心地のよい街となることとせう。私達は帝都の市民として、又品川區民としてはづかしくない、立派な行が出来るやう一層努力いたしませう。

一、この書物は、大體尋常四年生以上の方の課外讀本として出来上りました。紙數の都合で書き足りない處もありますが、これをもととして、更に研究して行きたいと思ひます。

昭和十四年三月

東京市品川區教育研究會

品川區郷土讀本目次

一、大 東 京	一
二、品川の今昔	七
三、品川區の大觀	一六
四、聖 蹟	二二
五、神 社	三二
六、品川寺の鐘	三八
七、品川名所寫眞帖	四八
八、交 通	五六
九、通 信	七二
一〇、工場の話	八五

一一、商店街……………九〇

一二、中央卸賣市場荏原分場見學……………九六

一三、貯金と利息……………一〇四

一四、お臺場……………一〇九

一五、淺草海苔……………一一二

一六、埋立地……………一一九

一七、水道……………一二三

一八、電氣と瓦斯……………一二六

一九、衛生施設……………一三二

二〇、學校の話……………一三九

二一、區政……………一五六

二二、財政の話……………一六七

二三、逓信省電氣試驗所……………一七四

二四、警察署と消防署……………一八〇

二五、品川區の將來……………一八五

二六、我等の覺悟……………一九〇

附錄

- 一、品川區年中行事表
- 二、品川區郷土史年表
- 三、品川區地圖

品川區郷土讀本

品川區教育研究會著

一、大東京

我等の大東京は、北は埼玉縣川口市附近、南は多摩川、東は江戸川、西は井之頭公園の近く迄の廣い土地を占め、面積五百五十平方軒餘り、人口六百萬を越える世界第三の大都會である。大東京は、我が日本の首府で、市の中央の丘の上には、一億の同胞がひとしく仰ぐ宮城が神々しく平和な森につままれて拜される。

かやうに光榮ある大東京も、今から千百餘年前は、奈良や京



宮城二重橋

都のはなやかさに引きかへ、武藏野と呼ばれる草深い荒野に過ぎなかつた。その頃のやうすを都の人々は、

あふ人にとへど

かはらぬおなじ名の

幾日になりぬ

武藏野の原

(續古今集 後鳥羽院)

行くすゑはそらも

一つの武藏野に

東鑑 五十一巻
北條氏祐筆の著といふ
鎌倉幕府の日記文

草の原より出づる月かけ
などよんだ。

(新古今集 藤原良經)

この草原ばかりの武藏野に、何時の頃からか江戸といふ地名の所が出来た。江戸とは、多分入江の所といふ意味であらう。昔は海が深く入込んで、今の日比谷公園のあたりから京橋日本橋にかけては一面に海で、舟をとめるのに便利であつた。

「東鑑」といふ書物の中に、治承四年源頼朝が平家を討つたために兵を起し、安房國から隅田川まで来た時、江戸太郎重長といふ武士が駆けつけて、頼朝の味方に加はつたといふ事が書いてある。これは今から八百年の昔の事で、其の頃、重長は江戸の地に居て、非常に勢があつた。其の子孫は三百餘年間こゝ

に居て、よく領内を治めた。

江戸氏に代つて、太田道灌どうくわんが此の地に住み城を築いたのはおよそ四百八十年前で、これが江戸城の起である。

道灌の居た約三十年間に、松原つゞきのさびしい海岸の村は、城下町としてだん／＼にぎやかになつた。しかしをしい事に、道灌の死後此の地は小田原に居た北條氏のものとなつたので、小田原の繁昌に引きかへ、だん／＼さびれて行つた。

それを再び立派な町に仕上げたのは、徳川家康である。家康は北條氏が亡びて後、江戸の地形のすぐれたのを見て、長く此の地に住む決心をして、今までの城に手入をし、もつと大きく立派にした。

其の後約二百八十年の長い間、徳川氏はずつと此の江戸城

に居て、全國の大名達に指圖をして居たので、何時しか江戸は日本の中心のやうになり、次第に榮えて行つた。

さうして、後には江戸八百八町と呼ばれ、人口も二百萬を數へたと言はれて居る。

明治の初、官軍が江戸に攻寄せた時、危く江戸の町は焼拂はれるところであつたが、官軍の參謀西郷隆盛や徳川氏の重臣勝安芳等の働によつて、江戸城は無事に官軍に明渡される事になり、人々は戦争の災難からのがれる事が出来た。

其の後間もなく、明治天皇は江戸を東京とお改めになり、明治元年十月には長い間の都であつた京都から行幸になつて、江戸城を皇居とお定めになり、長く此處にお止まりになる事になつた。

葛向板荒豊中澁蒲荏品
 飾島橋川島野谷田原川
 新市城二十區
 深淺本牛赤芝日麴
 川草郷込坂橋町
 舊市十五區
 江城足王瀧杉淀田大日
 戸野ヶ
 川東立子川並橋谷森黒
 本下小四麻京神
 石
 所谷川谷布橋田



帝都となつてから
 の東京は、日本の中心
 としていよいよ榮え
 に榮えて來たが、大正
 十二年九月一日の關
 東大震災は、これまで
 の東京市民の努力の
 大半を奪つてしまつ
 た。しかし市民は一
 生けんめいになつて
 復興に力をつくした
 ので、忽ち前よりも立

大森貝塚
 品川區大井鹿島町
 殿村氏邸内米人モ
 ルス氏發見

派な都會となり、昭和七年十月には近郊の町や村八十二を一
 しよにして、今の大東京が生まれた。

二、品川の今昔

「叔父さん、大森驛の近くに大森貝塚といふ碑がありますね。
 あれは何ですか。」

「ほほう一郎はえらい事を知つてゐる……あれはね、石器時
 代にあそこに人が住んで居たといふしるしなんだ。」

「石器時代つて何ですか。」
 「石器時代といふのはね、人類がまだ石の道具を使つてゐた
 頃の事で、國史にも出てゐないずっと大昔のことだ。そんな
 古い時代にあの邊に人が住んで居たといふのは、一寸面白い

だらう。」

「面白いですね。それはどんな人間ですか。」

「たゞの人間だよ。しかしまだ開けてゐなかつた。農業なども知らなかつたやうだ。それで、近くの川や海で魚や貝等を取つたり、山や林に入つて鳥獸等を取つて食べるやうなごく簡単な暮らしをして居た。貝塚といふのは、ごみ箱のやうなもので、食べた貝の殻などいらぬ物を捨てた所だ。大森貝



大森貝塚



廣重筆品川宿

塚は明治十一年頃発見されたのだが、貝殻に混つて動物の骨や、石で作つた斧や石の庖刀のかけら等も出て来た。つまり此の頃の人類はまだ金属を使ふ事を知らず、道具は主に石で作つてゐたので、石器時代といふのだ。」

「おや、叔父さん、あの額の繪は前のと變つて居ますね。」

「あゝ、さつき取りかへた所だ、昔の品川の繪だ。廣重といふ人が書いた東海道五十三次の繪の一つだよ。」

「海が見えてゐますね。今のどの邊ですか。」

「八つ山の所だ。あの省線の上にかゝつた鐵橋のある所なんだが、今は此の繪に見える右側の山も掘取られ、海も埋立てられたから、まるで變つてゐる。此の繪は諸侯出立のところて、歩いてゐるのは大名行列の一部分だ。」

江戸時代には、品川は品川宿といつて江戸への入口であつたから、旅人の往來が多く宿屋・茶店等はとてにぎはつた



八つ山附近

ものだ。」

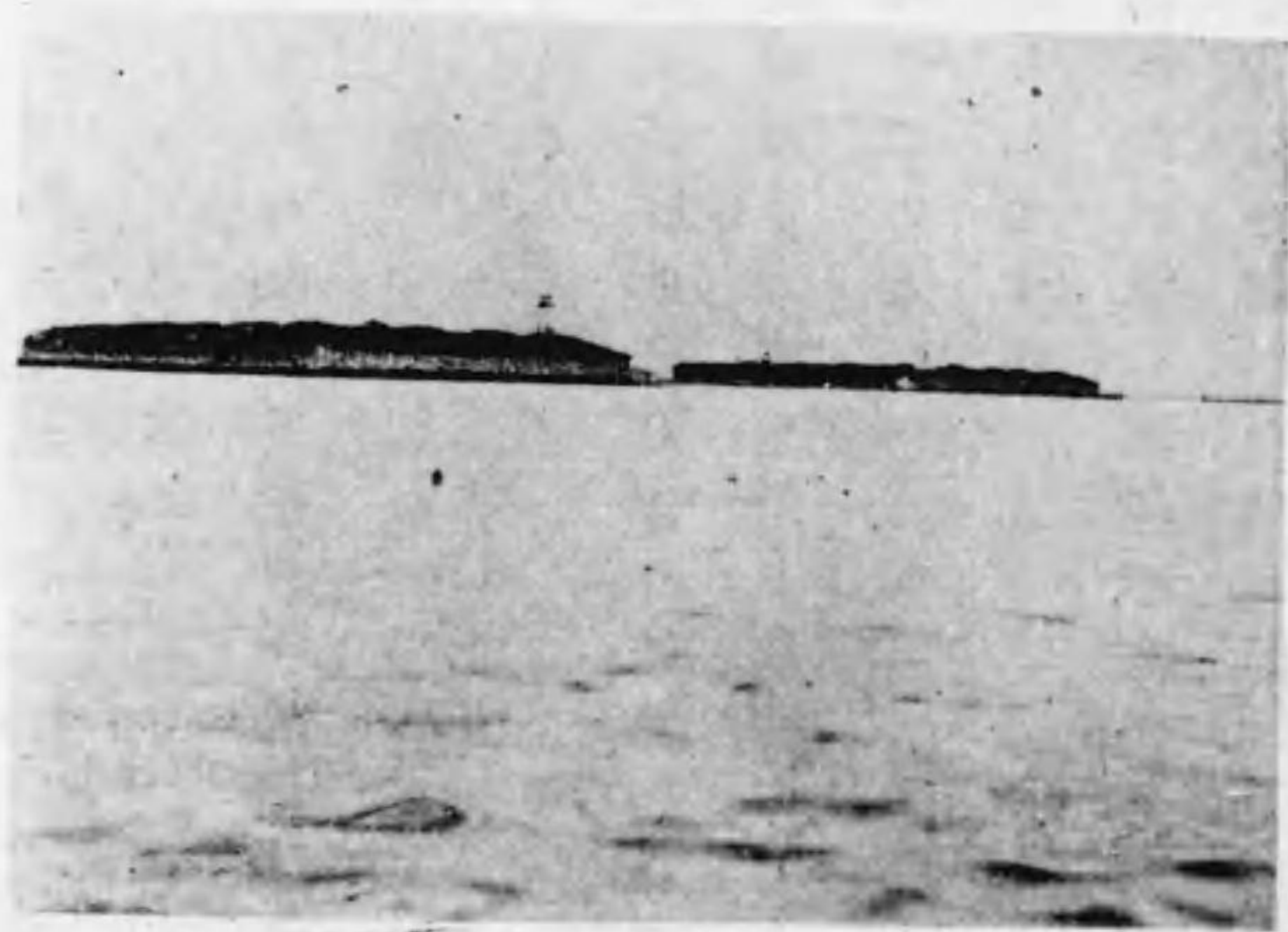
「八つ山までは、どんな道を通つたんですか。」

「今の京濱國道から少し海岸寄りの道を通つたんだ。」

「今舊國道と言つて居るだらう。」

「えゝ。」

「あれが昔の東海道なんだ。以前はあの道はもつとせまかつたが、御殿山をけづつて道路をひろげ、大江戸の玄關としてはづかしくないやうにし



お臺場

たのださうだ。」

「御殿山つて、どうして言ふのですか。」

「徳川氏が此處に御殿を造つたので、さう言ふらしい。徳川氏は此處に櫻を植ゑ、公園のやうにしたので、花見時にはずる分にぎはつたさうだ。」

「今は櫻はそんなにありませんね。」

「さうだ。幕末になつて外國船が度々来るやうになつたので、品川のお臺場を造るため、此の山の大半を削り取つてしまつたのだ。今は櫻の名所は残つてゐない。」

「お臺場には、大砲を備へつけたんですか。」

「さうだ。あそこに大砲を備へつけて、外國船が來たら、其の船の横腹を撃抜くつもりであつた。江川太郎左衛門といふ

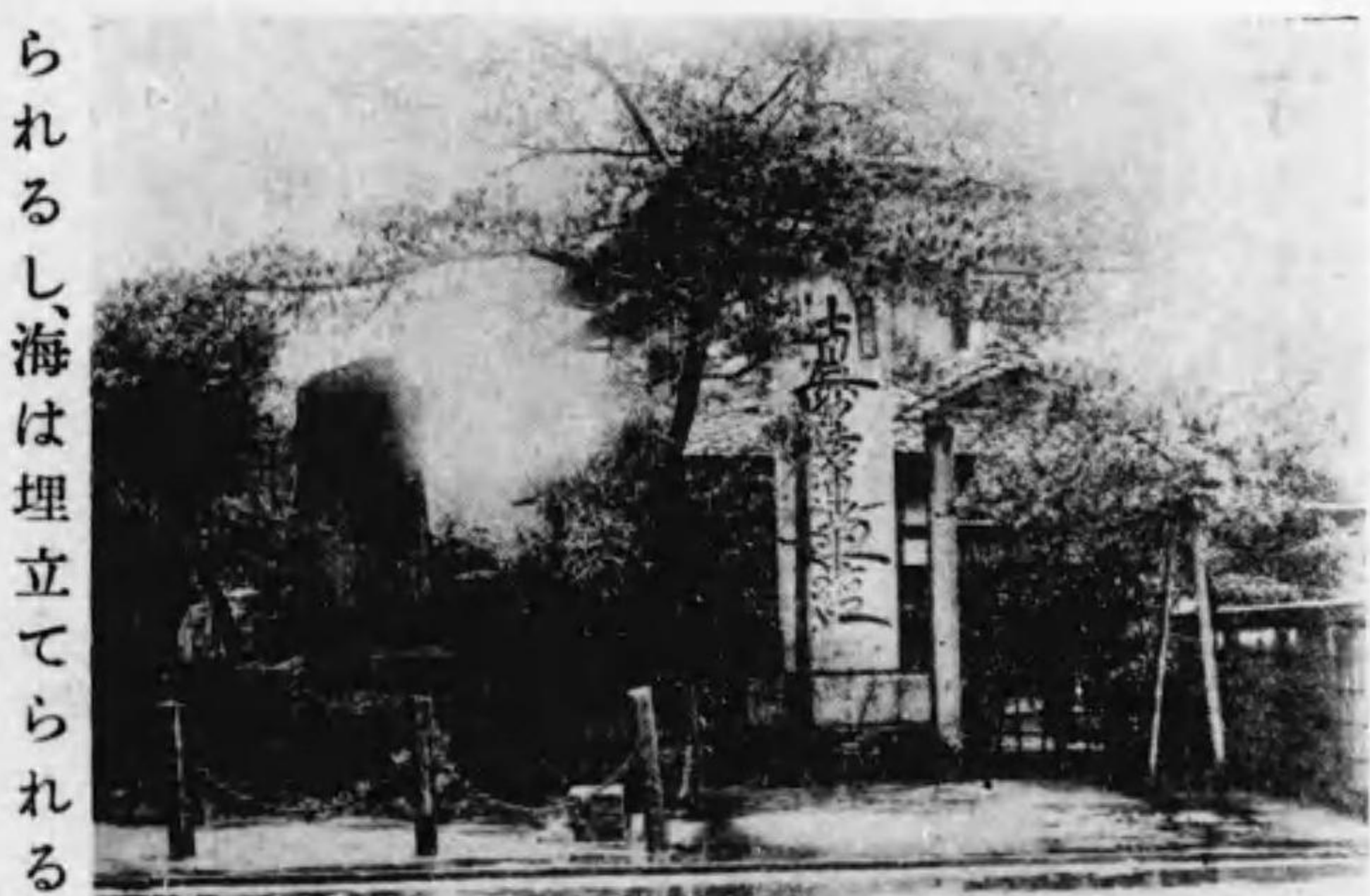
人の設計で始め十二造るつもりであつたが、仕事が困難で、それにずる分お金がかゝるので、七つ目を作りかけて止めたのだ。すつかり出來上つたのは五つだが、それでも其の頃のお金で七十五萬兩もかゝつたさうだ。今のお金にするとざつと二千萬圓といふところだらう。」

「大へんなものですね。それで、お臺場の大砲でどんどん外國船を撃沈めたのですか。」

「いや、實際にはあまり役に立たなかつた。しかしこれが出來たゝめ、人々は外國船が來ても大丈夫だと、びくびくしないですんだ。」

「さうですか。それからまだ昔の品川で何か名高いものがありますか。」

「さうだな。怖い話だが鈴ヶ森には昔、刑場があつた。今は



鈴ヶ森刑場址

とてもにぎやかで、まるで夢のやうな話だが江戸時代の初、こゝに刑場が作られた頃は、一軒の家もなく、道の両側に松並木が續いてゐるばかりで、非常に淋しい所だつた。」

「どこもこゝも、ずる分昔と今では變つてゐますね。」
「さうだ。品川位變つた所も珍しいだらう。山は掘取られるし、海は埋立てられるし、すつかりやうすが變つて來た。」

明治からでもずる分變つたよ。東京市になるまでは、品川區は荏原郡の一部で、品川町・大井町・大崎町と分れて居た事は、お前も知つて居るだらう。」

「えゝ、でもそれは僕がまだ學校に上らない頃のことです。品川區はこれからでも變るでせうか。」

「あゝ、どんく變つて行くよ。そして、帝都の一部として、益々立派になつて行くんだ。だが、そこに住む人が陛下の御膝下に暮す恵まれた人達であること、日本人の模範であり、世界に誇る東京市民であることをよく考へて、立派な行をして行かなければ、いくら形ばかりが整つても役に立たない。人の多い事ばかりで決して大東京とはいはれないからね。」

三、品川區の大観

品川神社の見晴臺みはらしだいにのぼると、さすがは眺望の名所だけあつて、品川區の大部分を見渡すことが出来るばかりでなく、晴れた日には東京灣の彼方に、房總半島ぼうそうや三浦半島を望むことが出来、又西に遠く富士山を見ることも出来る。

北を眺めると、東京港の北西から南に向かつてのびてゐる樹木の多い臺地がある。これは芝の高輪臺附近で、その南に御殿山臺地がつゞき、品川神社の境内はその南端になつてゐる。その臺地の東側から東と南へ低地がつゞき、大小の煙突が立並んでゐる。このやうな低地は隅田川附近では、大そう廣い土地を占めてゐて、下町と呼ばれてゐる。



品川神社より東を眺む

と浮かんで見える。

東を眺めると、東京港の入口に、黒い石垣に囲まれたお臺場の島が幾つも見える。緑の土手の中に白い小さな燈臺の見えるのは第二お臺場である。お臺場の北は東京港で、何時でも大きな貨物船かぶねが澤山入港してゐる。又、東京灣汽船會社の大島・下田方面行の客船も見える。お臺場の南は廣々とした東京灣で、小さな漁船が點々

南を望むと、埋立地の南端が入込んで、鮫洲海岸となり、それに向かつて浅間臺の森が、急な坂を作つてゐる。浅間臺は低い臺地で、住宅地となつてゐる。

その西は鐵道省線を境に低く掘下げられ、そこに東京鐵道局大井工場の赤煉瓦の建物が立並んでゐる。その向かふの稍高い處に、デパートかと思はれる高い建物があるが、これは日本光學工業株式會社である。それから南は又大森區の馬込や山王に續く臺地となつてゐる。それと浅間臺との間を立會川が流れてゐるが、こゝからは見えない。

西を望むと、日本光學工業株式會社の少し北から三木小學校、芳水小學校のあたりへかけて長く臺地が續いてゐる。これは荏原臺地の北東部であつて、樹木が多く住宅地をなして

暴風信號所觀測		昭和十一年 三箇年平均	
月	氣温	降水量	湿度
1	二、六	七、一	六〇
2	三、六	六、九	六三
3	六、一	七、五	六七
4	一、七	一、七	七二
5	一、六	一、〇	七七
6	二、五	一、〇	七六
7	三、四	一、三	八二
8	五、六	九、四	八一
9	一、九	三、三	八四
10	二、五	一、〇	七八
11	二、〇	八、三	七二
12	五、九	六、五	七二
全年	三、八	三、五	七四

る。

見晴臺からすぐ下を見下すと、京濱國道が南北に家々の間を廣く貫いて走つてゐる。その左手寄りの屋根越しに、暴風信號所の鐵の塔が見える。こゝでは毎日品川區の天氣について、くはしい觀測をしてゐる。京濱國道を南へ少し行つた右側には、品川區役所の新しい鐵筋の三階建がある。その向かふに東海橋がある。東海橋は目黒川にかゝつてゐるのだが、川の姿は全く見えない。目黒川は立派に改修されてゐて、だるま船や傳馬船が通つてゐるが、これも見えてゐない。よく注意すると、區役所の裏手の東海寺の向側から、白い湯氣を吹出しているのが見られる。これは明治ゴム製造所の排水口で、それから西へかけて、日本ペイント・三共製藥等の大工場

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
降水 日數	五、七	八、〇	一〇、〇	一五、七	一三、〇	一三、〇	一三、七	一三、〇	一七、七	一〇、三	八、〇	一〇、一	一三、七
快晴 日數	一六、〇	七、七	一〇、〇	三、七	六、七	七、七	七、七	〇、三	〇、三	七、〇	四、七	六、三	七、五
平均 風速	二、六	三、〇	三、三	三、三	二、八	二、九	二、六	二、七	二、二	二、六	二、五	二、五	二、八

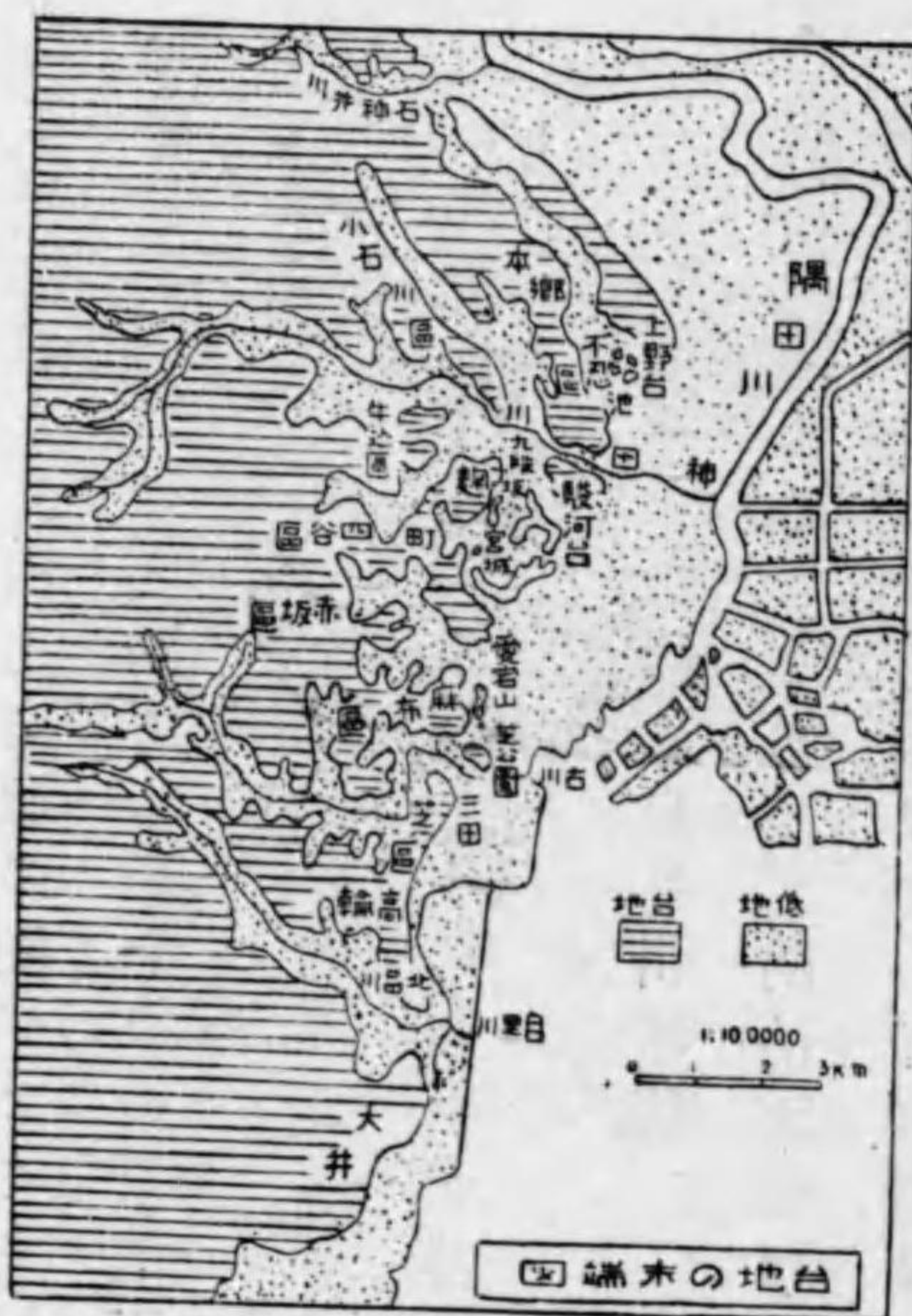
が立並んでゐる。それらの工場のこちら側を、目黒川がゆるやかに流れてゐるわけだ。お晝のサイレンが鳴つた後で此處に立つてゐると、三共製薬の屋上で白シャツを着た職工さん達が、盛に體操をやつてゐる姿が見られる。

品川神社の見晴臺から見た品川區は以上の通りであるが、更に臺地や低地に就いて少し説明を加へよう。

隅田川方面を下町といふのに對して、その西方の臺地を山の手と言つてゐる。山の手は海拔二十米から三十米の高さを持つてゐるが、その東の端は長い間に土地をけづつて行つた流れの力の爲に、幾つかの小さな臺地に切離されてゐる。

御殿山臺地は其の一つで、二十餘米の高さである。品川神社の境内・権現山公園・八つ山等は何れも御殿山臺地の高い部分

である。荏原臺地は御殿山臺地よりやゝ低く、その高い部分は谷山と呼ばれてゐる。



これ等の臺地上は日當りが良く、樹木が多いので、静かな住宅地となつてゐる所が多く、又これらの上には神社・寺院・學校・公園等が造られてゐる。

品川區の低地は、下町につゞくもので、主に目黒川が御殿山臺地と荏原臺地との間に作つた幅約一軒の低地と、埋立地と

立會川附近の低地とである。これらの低地は臺地の上に比べると、日當りが悪く、濕氣も多いので、住宅地としては劣つてゐるが、水運や又陸上交通の便がよくて、原料や製品を運ぶに都合がよいので、我國でも指をりの京濱工業地帯の一部となつてゐる。

四、聖蹟

(一) 明治天皇品川聖蹟

明治元年のことである。明治天皇は江戸を東京とお改めになり、その年の十月、今まで一千年餘も都であつた京都をあとに、こゝへ行幸なさることになつた。これを聞いて喜んだのは東京の人々である。いよく鳳輦がお着きになるとい



明治天皇品川聖蹟

ふ日の品川宿は、御行列を拜む人々で一ばいだつた。御先導の騎馬が白砂をけつて走つて行くと、はるか向かふから錦の御旗が風になびいてしづくくと近づいて來るのが見える。

「あゝ、見えた、天子様の御旗だ。」

「今日は品川御本陣にお泊りなされるとのことだ。」

川本陣は鳥山金右衛門の宅であつた。明治天皇はこゝにお泊りになつて、長い旅のおつかれをお

休めになつた。そして明くる日は、晴の東京宮城へお入り遊ばされたのである。幾日かたつと品川宿はおかへりの鳳輦を迎へた。

「天子様はずつと東京においてになるのではないのか。」
御本陣へお入りになる鳳輦を拜みながら、人々は悲しさうに話し合つた。

「いや、來年は 皇后さまも御一しよにおいてになるのだ。何でも京都の人々がさわぐので、御母君さまだけがあのこり遊ばされるさうだ。」

天皇が東京におうつりになつてしまへば、京都は太陽のない都のやうにさびしくならなければならなかつた。翌年には 天皇皇后兩陛下が東京へおうつりになつて、永久の都と

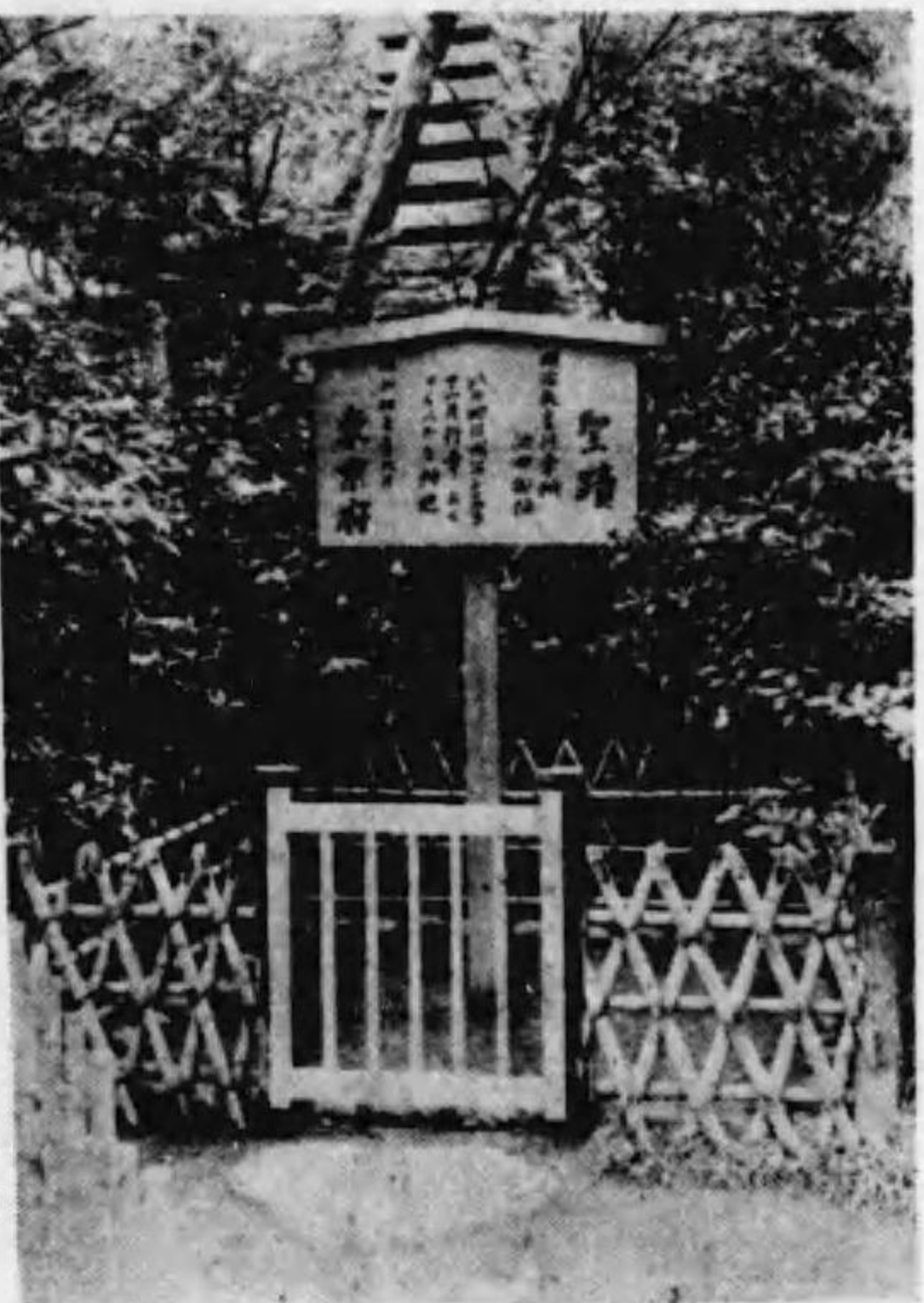
お定めになつたのである。品川本陣はこの時も御駐泊所であつた。明治五年四月にはいよいよ 英照皇太后さまも御東上なさることになつた。その日は 明治天皇はお出迎へのため、御乗馬で品川へ行幸をなされ、御本陣で御母君さまと、久方振の御對面をなされたのである。

この由緒ある品川御本陣跡は、京濱北馬場驛きたばんばの近くにあり、今は品川聖蹟公園として保存されてゐる。

(二) 明治天皇行幸の跡 (齋藤茂一郎氏邸)

明治天皇の聖蹟として由緒ある齋藤茂一郎氏邸は、もと備前の大藩池田侯爵大崎邸の跡である。池田邸がまだこゝにあつた明治二十四年十一月十六日は、かしこくも 明治天皇は、舊大藩の維新の際における忠勤を賞される思召で、この池

田邸へも行幸あらせられたのである。其の日は池田侯を始め家族一同謹んでお迎へ申上げ、又御行列の沿道は菊花で埋められて其のおごそかさは何ともたとへやうがなかつた。



(明徳天皇蹟) 齋藤一郎氏邸

遠見の者が御行列の近づいたことを知らせると、とどんとと花火が青空にひびく。わき起る樂の音につれて、御馬車がしづしづと表門におつきになると、車寄にお待ち申し上げてゐた侯爵が便殿へ御先導申上げたのである。天皇は、少しお休みになつてから、能樂を御覽遊ばされた。

午後は庭園で花火があげられ、講談等の催しもあつた。この日 天皇は御機嫌いとうるはしく、午後十時まで御覽遊ばされたとのことである。

當邸へは、更に明治廿四年十一月廿日に 皇后陛下、皇太后陛下の行啓があり、重ねての光榮に浴してゐる。池田邸は、今は芝南町に移され、舊大崎邸の跡は池田山といはれてゐる。

(三) 明治天皇 英照皇太后 照憲皇

太后行幸啓の跡 (鮫洲 川崎屋)

川崎屋といへば、今から三百年も前から繁昌してゐる京濱鮫洲驛の近くにある料亭である。川崎屋が初めて行啓の光榮に浴したのは明治十六年で、英照皇太后さまが産業御奨励のため、品川東海寺の境内にあつた硝子工場を御覽遊ばさ

れた時である。その御歸途、こゝでお休みになり、投網・鵜縄等

で魚を捕る有様を御覽遊ばされ、また御親ら築洲に立たれて釣をなされたとのことである。

明治十七年三月 明治天

皇が蒲田の梅屋敷及び小向井村の梅林へ行幸遊ばされた時も、こゝでお休みなされた。この時は鮫洲海上で、魚とりの實況を御覽に入れた。照憲皇太后がやはり梅屋敷に行



川崎屋(鶴の間)

尙明治十七年十一月には、

照憲皇太后がやはり梅屋敷に行

啓遊ばされ、かへり咲の梅の花を賞でさせられた。その時も

この川崎屋でお休み遊ばされた。

かやうに御三方が親しくお休みになつた鶴の間は、今も昔のまゝに保存されてゐる。

(四) 大正天皇行幸の跡 (島津公爵邸)

島津忠重公は、數年前から新築中であつた大崎袖ヶ崎の本邸が、この頃やうやく出来上つたので、麻布の舊邸からこゝへうつることになつた。五月の太陽は流れるやうにふりそゝいで、見事な庭のつゞじは、色美しく今を盛りと咲亂れてゐた。

明治天皇の御在世中には、島津家へは、しばしば行幸を仰いだことがあるので、何とかしてこの新邸へも、天皇后兩陛下の御臨幸を仰げないものであらうかと、島津公は、しばしば

其の筋へお願い申し上げたが、遂に望みがかなつて、兩陛下がお揃ひで行幸啓遊ばされたのは、大正六年五月八日のことであつた。鳥津家の光榮はこの上もないことである。この



(鳥津島)跡聖皇天正大

日 兩陛下には、午前
十時に宮城を御出門
遊ばされ、十時四十五
分に鳥津邸へお着き
になつた。少しお休
みになつてから、公爵
を始め家族一同に拜謁をたまはり、後別室でいろ／＼の陳列
品を御覽遊ばされた。午後は庭園へお出ましになつて、つゝ
じにかこまれた小高い所の四阿から、大崎・品川一面の民家や

工場を御覽になつた。それから、樂焼や音楽等の餘興を、まこと
に御興深く御覽遊ばされた。

兩陛下には午後五時にこゝを御出門遊ばされて還御あら
せられた。

この鳥津邸は、五反田驛の北東鳥津山といはれる、四時縁に
包まれた小高い丘にある。

五、神社

我が日本は神國であつて、どこへ行つても神様をお祀りし
てゐない所はない。

明治天皇は、

あし原の瑞穂の國の萬代も

みだれぬ道は神ぞひらきし

とお詠みになつて、我が國が神國であるわけをおさとし遊ばされた。我が國にお祀りしてある神々は、我々子孫の幸福繁榮の爲に非常な御苦心をなされて、この國土をお開きになり、今もなほ我々をお護りになつてゐる尊い祖先の御靈なのである。我が品川區にも、かやうにありがたい神様が方々にお祀りされてゐる。

品川神社 京濱線北馬場驛を下りると、國道の西側に高くそびえてゐる岡がある。これが品川神社の神域で、この神社は昔から「北の天王様」と呼ばれ、品川宿の總鎮守であつた。凡そ八百年前源頼朝が建立したのだといはれ、天比理刀咩命をはじめ、宇賀乃賣神、素戔鳴尊が合祀されて居り、以前は徳川家

品川神社
北品川二丁目

大 祭 日
四月十三日、十四日
祇園祭
六月七日、八日



品川神社

の守護神のやうなものであつた。家康が關原合戦に出陣の際は、わざ／＼この社に参詣して心から其の戦勝を祈り、二代將軍秀忠も大阪出陣の時、神樂を奏して勝利を祈願した。三代將軍家光も亦獵に出た時には必ず参詣したといはれてゐる。元は准勅祭社であつたが、今は東京府郷社である。今この社にお参りして、雲の果に消えてゆく品川沖を望み、武藏野がまだ開けなかつた

荏原神社
南品川一丁目

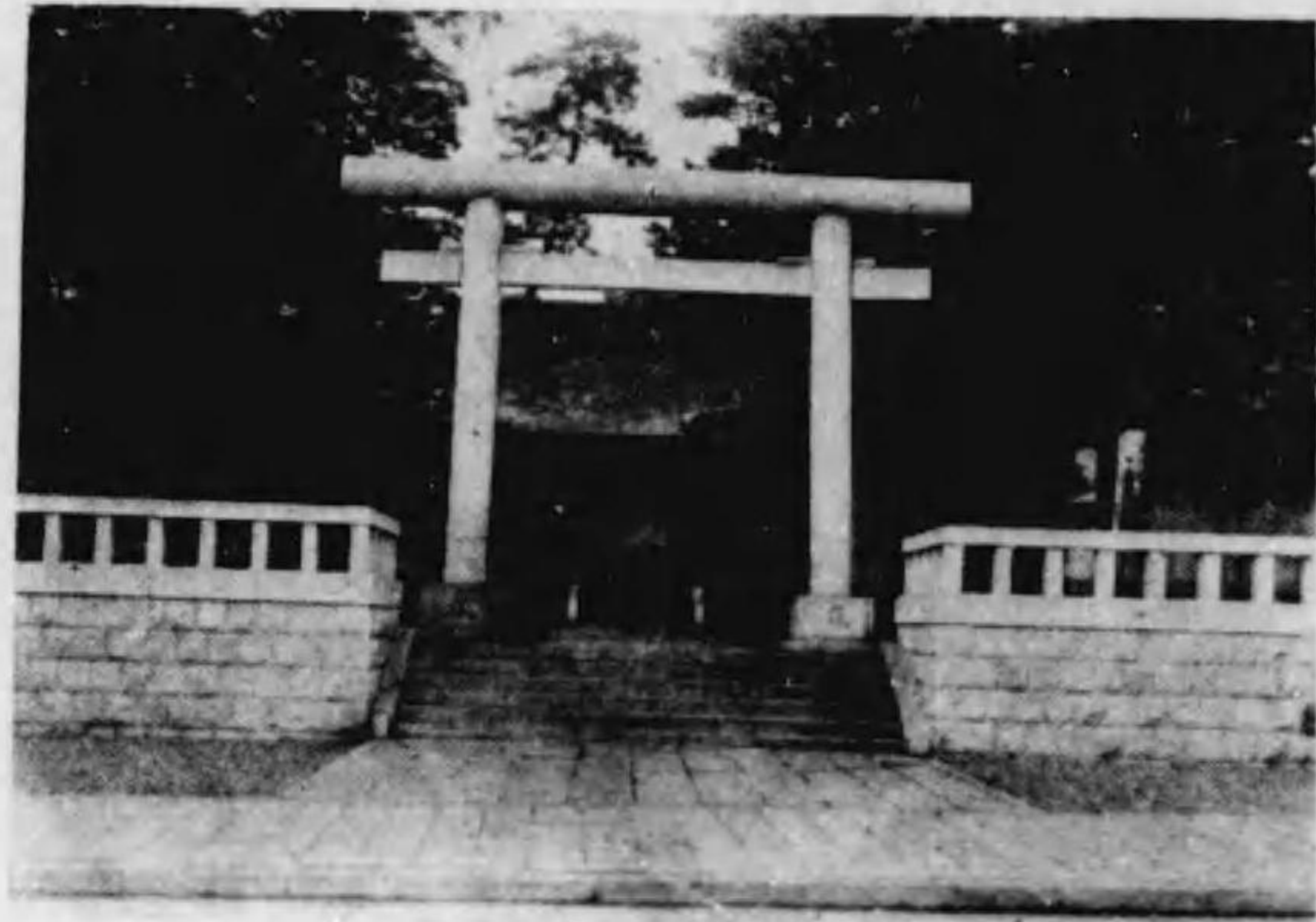
内侍所
古の禁中温明殿の
別名今の實所にあ
たる。



荏 原 神 社

昔と、大東京市品川區の今とを思ひ比べて見ると、誰でも我等の郷土の繁榮と幸福とをお守り下さる、この神様の有難さをしみじみと感ずるのである。
荏原神社 品川區役所の東方目黒川の北岸に近く、このお社がある。こゝには天照大神・豐受大神・高靈神・素戔嗚尊・手力雄命が合祀されてゐる。明治天皇が東京へ行幸遊ばされた時、このお社は内侍所奉安所と定められた。亦 英照皇太后が東京へ御

明治天皇行幸
明治元年 三月二十
七日
明治五年四月十一
日
大 祭
六月七日、八日



鹿 島 神 社

入輦あらせられた際は 明治天皇は御出迎のため、こゝでお休み遊ばされた。このお社の大祭には、潮水を汲んで盛大な式典が行はれる。これはこのお社の寶物である素戔嗚尊の御面が、遙の海を渡つてこの地に流れ着いたからだといはれてゐる。又神輿が海の中までも入れられるのは、この社のお祭だけで、近郷の名物として昔から名高いものであつたが、今は行はてゐない。

祭 日
九月十九日

天祖神社
南濱川町一八四二

雉子神社
下大崎一七九

鹿島神社 この社は大井鹿島町にあつて、昔から大井郷の
 總鎮守であつた、武甕槌神が祀りしてある。境内は老樹が
 繁つてゐて、まことに神々しい。白木造の立派な社殿が参拜
 者の眼を引いてゐる。これは昭和六年に改築されたもので
 あるが、もとの本殿は鎌倉彫の建築であつて、特別の價値があ
 るので附屬社として大切に保存されてゐる。

天祖神社 この社は南濱川町の立會川口近くにあつて神
 明社と呼ばれてゐる。天照大神・豊受大神が祀りしてある。
 境内には松・榲等（つばき）の老樹が枝を交へてゐて、神々しく、眞夏でも
 涼風があふれてゐる。

雉子神社 五反田驛を下りて市電に沿ひながら白金猿町
 の方へ行く坂の中腹にあつて、雉子の宮と呼ばれてゐる。日

祭 日
十月三日



社 神 子 雉

本武尊・手力雄之命・大山祇命が合祀されてゐる。境内は戸隠
 山といはれてゐて、目黒川沿岸の低地や、荏原臺地を一目に見
 渡すことが出来る。昔徳川
 家光が放鷹をした時、白い雉
 が一羽飛んで来てこの山に
 入つたので、その後を追つて
 社前に來た。参詣の後、
 「これは何といふお社か。」
 とたづねると、里人が、
 「大鳥明神でございます。」
 と言つた。家光は「奇特なお
 社である。これからは雉子

の宮と申せ。」と言つたので、それから雉子の宮と言ふやうになつたといはれてゐる。

我が品川區には尙これ等の外に、次のやうな神社がある。

神社	主神	所	在	祭日
貴船神社	高龍神・素戔鳴尊 倉稻魂命・大山祇命	西品川三丁目八二三		六月七日
八幡神社	磐田別命	大井林町五四		八月十五日
氷川神社	素戔鳴尊	西大崎桐ヶ谷二一八		九月十三日
居木神社	日本武尊	東大崎三丁目二〇三		九月十七日

六、品川寺の鐘

先週の日曜日に、私はおぢいさんに連れられて品川寺へ行

品川寺(眞言宗)
南品川三丁目

海晏寺(臨濟宗)
北品川三丁目



岩倉具視公とその墓

つた。品川寺には有名な釣鐘がある。おぢいさんは若い頃から、深く佛様の教を信じていらつしやるので、これまでも度々諸國を巡つてお寺詣りをされたことがあるさうだ。

私も區内のお寺では岩倉具視の墓のある海晏寺、澤庵和尚や賀茂眞淵の墓のある東海寺へ

お詣りしたことがある。優しいお顔をした佛様の前に立つて、靜かに手を合はせた時、私には、まだそのお教はわからないが、何かしらありがたいやうな心持がして来る。

京濱電車を青物横丁で下車して、舊國道に出ると間もなく品川寺だ。途中私はいろ／＼おぢいさんに釣鐘についてお伺ひした。

「おぢいさん。その釣鐘は、どうしてそんなに名高いのですか。」

「それはね。まだおぢいさんが子供の頃であつた。さうだ、それは明治四年であつたと思ふが、この釣鐘が洋行したのだ。そして迷子になつてしまつたのだ。」

「おもしろいですね。釣鐘が迷子になるなんて。どこへ洋

行したのですか。」

「それは、その頃オーストリアの首府ウインで萬國博覽會が開かれて、日本からも立派なものや珍しいものがえらばれて出品された。中にはお前も知つてゐる名古屋の金の鯰、浅草觀音様の大提燈もあつた。ところが釣鐘だけ



品川寺の釣鐘

行方がわからなくなつて、かへつて來ないものだから、寺の

方では心配した。何しろ釣鐘は、寺にとつても、町にとつても大切なものだからね。」

「それで、釣鐘はどこにありましたか。」

「スキスのヂュネーブ市のアリアナ博物館にあることがやつとわかった。寺でも大喜びで、早速手紙をやつたり、人に頼んだり、外務省にも頼んだりなどして、やつと昭和五年に歸つて来たのだ。」

その時、ちやうど品川寺の門の前に来た。門を入ると左に大きな地藏様の坐像がある。前には「東京府史蹟」と書いた立札がある。おぢいさんは前に行つて數珠をかけて拜まれたので私も拜んだ。

おぢいさんは私の方を振りかへつて、



江戸六地藏

「この地藏様は、江戸六地藏の一つで名高いものだよ。」

「江戸六地藏つて、何ですか。」

「東京が江戸と言はれた頃、江戸を極樂と見たてて、江戸に通ずる主な道六つをえらんで「六道の辻」として、それぞれ地藏様を安置したものだ。これは江戸の南の入口の東海道に立てたのだ。」

お地藏様は優しいお顔をして、ちつと私達を見守つて居られる。少し進むと朱塗の美しい鐘樓の前に来た。

私はおちいさんと石段をのぼつた。釣鐘は下で見た時とはちがつてなか／＼大きい。釣鐘のまはりには佛様の浮彫があつて、一面に細かくお經の文字がきざまれてゐる。

話好きのおちいさんは、いつのまにかそこにもた人と話をされてゐる。おちいさんは釣鐘を見ながら、

「たしか昭和五年の五月のことでした。この釣鐘がヂュネーブから歸つた時、日比谷公園の新音楽堂で歓迎會がありました。それは／＼にぎやかなものでしたよ。」

「それにしても、よくヂュネーブ市が返してくれたものですね。すでに市のものとなつて居たものを。」

「さうです。全くこれは、國際上のめづらしい美談ですよ。」

ヂュネーブ市會は満場一致で日本へ送りかへすことにしたさうです。これといふのも、スキス國民が、佛様を信仰する日本人のまごころを、本當にわかつてくれたからです。」

「本當によいお話を伺ひました。ありがたうございました。」

その人は軽く頭を下げると、石段を下りて本堂の方へ行つた。私はそれからおちいさんに、この二千疋もある釣鐘が、牛車にのせられ、舊東海道を、數百人の可愛らしいお稚兒に引かれ、勇ましい木やりの音頭もにぎやかに、六十年振て、二萬軒の旅から歸つて来た時の模様などを聞いてから、觀音様を拜んで門を出た。

本區の寺院			
善福寺	時宗	北品川一ノ	七二
法禪寺	淨土宗	同 二ノ	八
養願寺	天台宗	同 二ノ	八八
正徳寺	眞宗	同 二ノ	九五
本照寺	日蓮宗	北品川二ノ	一四三
清徳寺	臨濟宗	同 三ノ	二三八
高源院	同	同 三ノ	二二八
東海寺	同	同 三ノ	二五六
春雨庵	臨濟宗	北品川三ノ	二九三
清光院	同	同 三ノ	二六〇
海徳寺	日蓮宗	南品川一ノ	二四五
本覺寺	天台宗	同 一ノ	二八三
本榮寺	顯本法華宗	同 四ノ	二八九
蓮長寺	日蓮宗	同 四ノ	二九四
妙蓮寺	顯本法華宗	同 四ノ	二九九
心海寺	眞宗	同 一ノ	三九一
願行寺	淨土宗	同 四ノ	三七八
本光寺	顯本法華宗	同 四ノ	三〇六
清光院	同	同 四ノ	三二一
大龍寺	黄檗宗	同 四ノ	五四五
天龍寺	曹洞宗	同 四ノ	五三九
海藏寺	時宗	同 四ノ	三三五
常行寺	天台宗	同 二ノ	四〇三
長徳寺	時宗	南品川二ノ	四〇七
妙國寺	顯本法華宗	同 二ノ	一四二
眞了院	同	同 二ノ	一六七
品川寺	眞言宗	同 三ノ	一四三
海雲寺	曹洞宗	同 三ノ	一三八
海晏寺	同	同 三ノ	一五七
妙光寺	日蓮宗	西品川四ノ	一〇二四

不動堂	眞言宗	北品川二ノ	一二	常光寺	淨土宗	上大崎一ノ	七九四
安養院	天台宗	西大崎四ノ	七六〇	了眞寺	曹洞宗	下大崎一ノ	八八
徳藏寺	同	五反田三ノ	一七三	本立寺	日蓮宗	五反田六ノ	一九三
寶塔寺	同	下大崎二ノ	一八三	行元寺	天台宗	西大崎四ノ	七八〇
安樂寺	同	西大崎二ノ	二二三	觀音寺	同	東大崎三ノ	二一三
靈源寺	淨土宗	同 二ノ	一五一	西光寺	眞宗	大井倉田町三二八一	
壽昌寺	臨濟宗	五反田六ノ	二〇九	光福寺	同	大井鹿島町二一四二	
高福院	眞言宗	上大崎二ノ	五六三	嶺雲寺	曹洞宗	大井北濱川町一〇〇二	
最上寺	淨土宗	上大崎一ノ	七六五	泊船寺	臨濟宗	大井林町二二五ノ一	
本願寺	同	同 一ノ	七八七	來福寺	眞言宗	大井元芝町 八二八	
戒法寺	同	同 一ノ	七八四	養玉院	天台宗	大井伊藤町五九六三	
清岸寺	同	同 一ノ	七七九	大福生寺	同	大井關ヶ原町一二〇二	
專修寺	同	西大崎一ノ	一〇七	來迎院	同	大井鹿島町三〇二四	
光取寺	同	上大崎一ノ	七六九	地藏堂	眞宗	大井倉田町三二九五	
隆崇院	同	同 一ノ	七八二	荒神堂	眞言宗	大井森下町四〇一六	
寶藏寺	同	同 一ノ	八〇七				

七、品川名所寫眞帖

兄さんは寫眞を撮るのが大層好きだ。日曜日などには、寫眞機を肩にして、よく出かけることがある。此の間兄さんの机の上を見ると、表紙に「品川名所」と白い繪具で書いてある寫眞帖があつた。

見ると、區内の名所やいろ／＼由緒ある所の寫眞が澤山張つてあつて、その下には、それ／＼説明が書いてあつた。

御殿山（北品川三丁目）

昔は櫻の名所として知られ、其の上、東を見れば、東京灣の眺がよく、西ははるかに富士を望むことが出来て、まことによい眺望であつた。殊に花の頃は花見客でにぎはつた。



今 御 殿 山

こゝは又、月見の名所でもあつた。澤庵和尚の歌に、

夕暮を惜しまむ花の木
の間より早さし昇る海
越の月

まこと、袖ヶ浦に金波銀波
を浮かべる月夜は又格別
であつた。

江戸城を築いた太田道灌の館のあつたのもこの地であり、其後徳川將軍狩獵休息所として御殿が設けられた

こともある。



御成橋

此の名所も、安政の頃異人館の建築のため、樹木が伐られ、又明治五年初めて新橋横濱間の鐵道が敷かれた時、山の東部を南北に横斷されたりして、今では全山が殊ど住宅地となつてゐる。

御成橋（東大崎二丁目）

徳川將軍は度々この方面に狩獵に來られた。そして此の地の名主であつた松原庄左衛門の家に立寄つて、茶

を所望されたといふことである。



今谷山

當時目黒川は度々大水が出て、この橋が流失してゐることも少くなかつた。松原氏は將軍のお成りの度毎に道路を清め、又橋をかけた。これが御成橋のいはれである。

谷山古戰場（大崎本町一丁目）

曾我新三郎等に命じて品川で敵を迎へ撃たせた。敵の先鋒戸を攻めた。城主上杉朝興は、大永四年正月北條氏綱が江

北條氏綱
早雲の子氏康の父

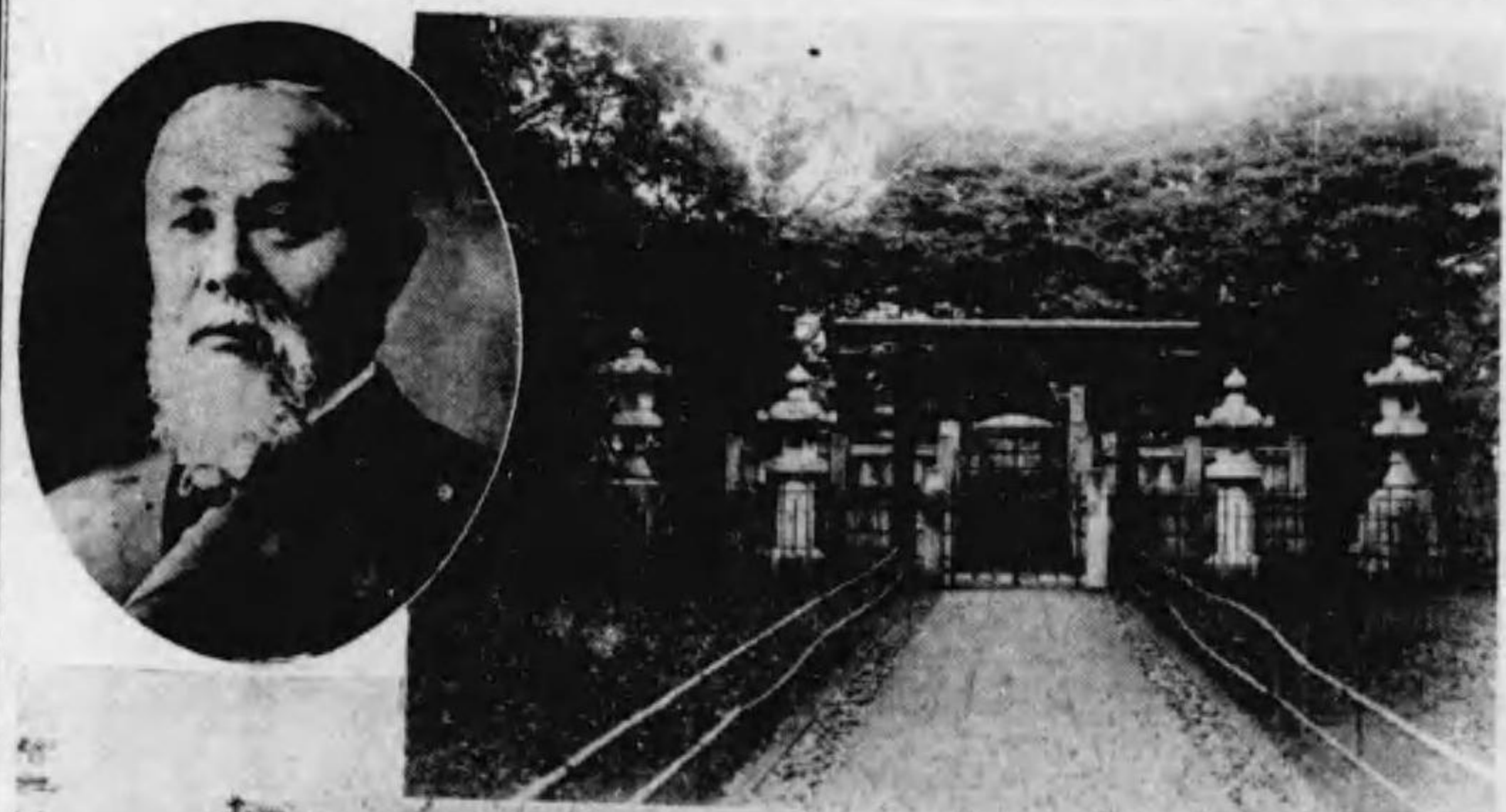
れて城に歸つた。

伊藤公の墓と恩賜館跡（大井伊藤町・大井山中町）

従一位大勳位公爵伊藤博文は、明治天皇に仕へ、國家の柱石として最も御信任の厚かつた人である。

然るに明治四十二年歐洲視察の途中ハルビン驛頭に於て、一兇徒の爲に狙撃され遂に薨去した。行年六十九。當時大井山中町の邸内には、明治天皇から下賜せられた建築物が保存されてあつた。これはかつて憲法の編纂所として宮城内にあつて、明治天皇が屢々臨御あらせられた誠に由緒あるものであつた。其後、大正六年八月明治神宮に獻納され、今は青山の神宮外苑に移され、憲法記念館と呼ばれてゐる。今の上杉伯爵邸と鐵道官舎は、この恩賜館の跡に出來たもので

ある。



上 伊藤公とその墓地
左 憲法記念館

明治四年

岩倉具視公の副使として歐米の文物を視察した。

明治十八年

帝國の全權として天津條約を結んだ。

明治廿二年

我が大日本帝國憲法を起草した。

明治廿三年

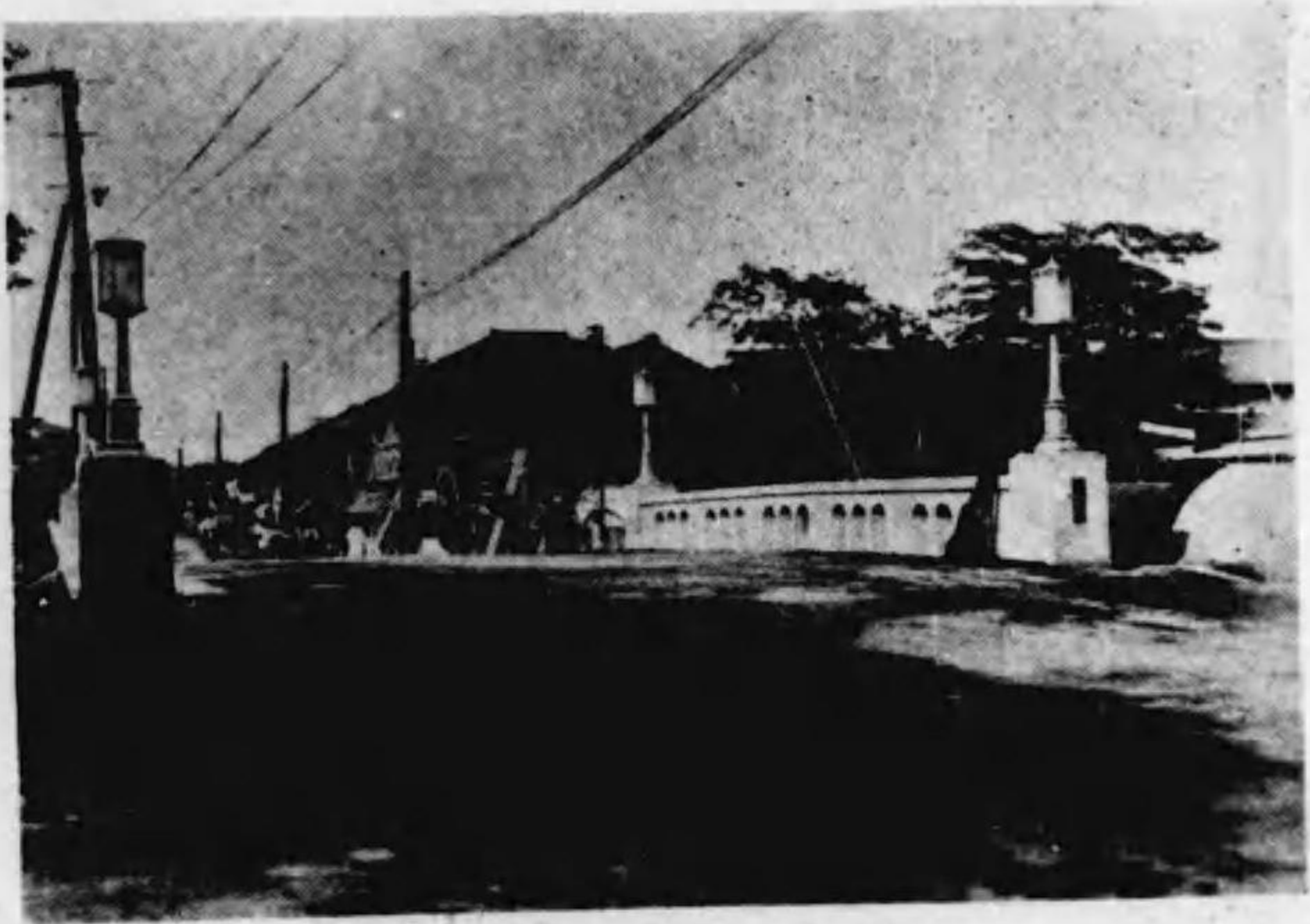
國會が開設された時、初代の貴族院議長となつた。

明治廿八年

下關條約を締結した。

明治卅八年

韓國統監となる。



橋渡と川洗槍

鈴ヶ森刑場跡(大井鈴ヶ森町)
 この刑場は初め高輪如
 來寺前にあつたが、徳川四
 代將軍家綱時代に此の地
 に移されたものである。
 徳川氏にそむいた丸橋忠
 彌・天一坊や、又尊王論のさ
 きがけをした山縣大貳等
 も此處で刑せられたのあ
 る。

刑場で磔はりつけ又は斬罪さくざいに使
 用した刀・槍等の血潮を洗つたと傳へられる槍洗川は、この附

近にある。昔は此の小川に生ずる葦は、其の葉が一方にのみ
 ついてゐて、これを片葉の葦といはれてゐたといふ事である。
 涙橋は今の濱川橋のことで、刑場へ送られる罪人の親族知
 人等が、ひそかに此處まで見送りに來て、送られる者、送る者が
 涙を以て別れを告げたといふことである。

權現山公園(北品川三丁目)

權現山の名は、かつて東照大權現が祀つてあつた爲である。
 又この附近の井戸は鹽分を含み飲み水とならぬのに、この權
 現山だけは清水が湧出るので、數百年來附近の人々は勿論、出
 入する船舶もこれを汲んでゐたと傳へられてゐる。この名
 水は權現水と呼ばれてゐた。

明治初年には、軍艦に飲料水を供するため海軍用地であ

つた。大正七年九月この由緒古き名所を保存するために、權

現山公園としたのである。

この公園の裏手は、今は深く掘割られて、省線が通じ御殿山と向ひ合つてゐる。

八、交 通

品川區の地圖で、交通機關を見ると、區の北東部に隣接してゐる品川驛から、南西部に續く大森驛へ、東



權 現 山 公 園

海道線が縦に走つてゐる。又品川驛から山手線が東海道線に沿つてしばらく南に進み、中途でまがつて北西に向かひ、目黒區方面に走つてゐる。これ等の省線と、それに接續してゐる電車線が、本區交通機關の骨格をなしてゐる。

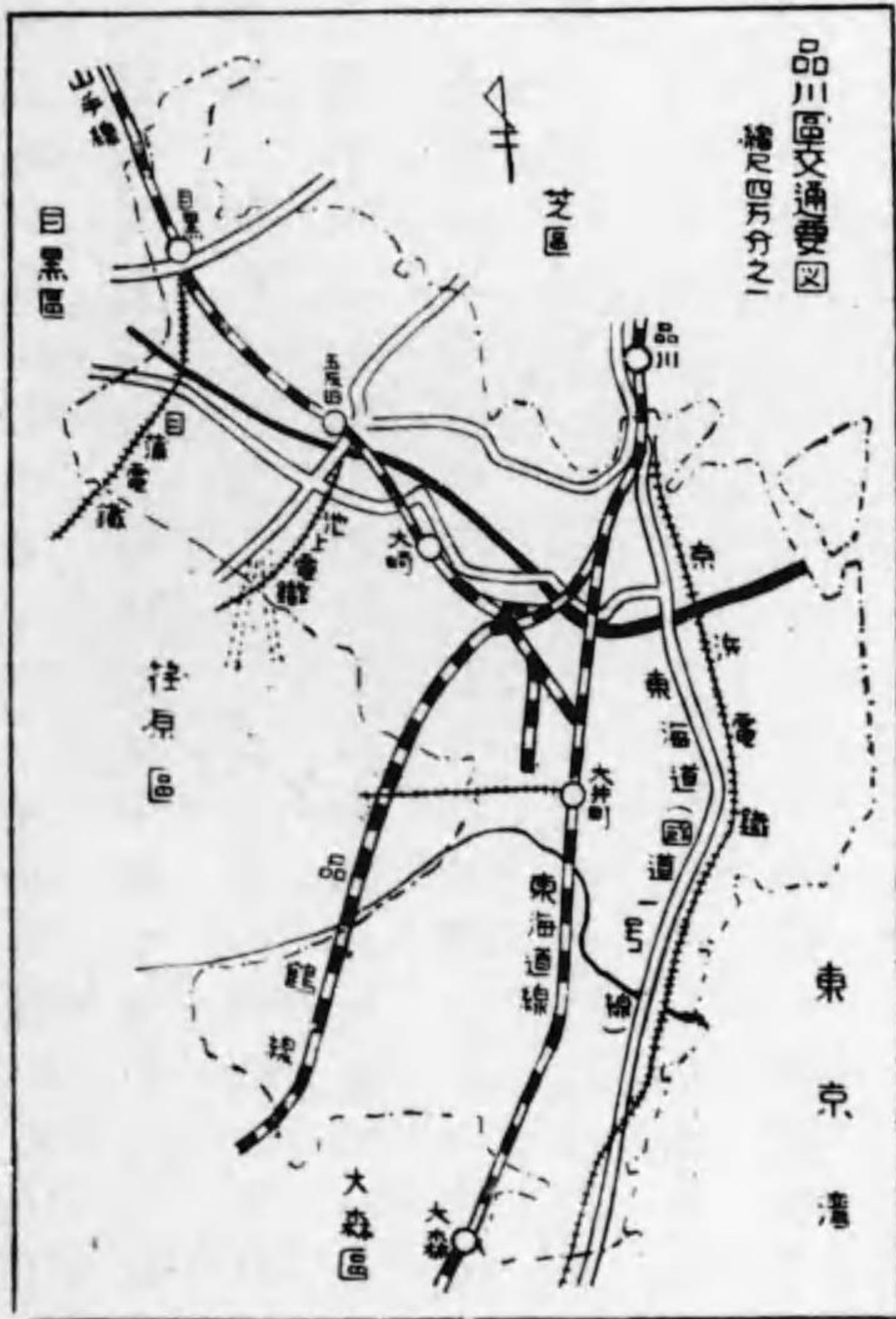
道路は、京濱國道環狀道路放射道などの幹線道路を始め、大小の道路が血管の様に通じ、主な道路にはバスが通つてゐる。

これ等の交通機關について、くはしく知りたいと思つてゐた折、お祖父さんが、目黒のお不動様へ參詣なさると、お母さんから聞いたので、同行をお願いした。

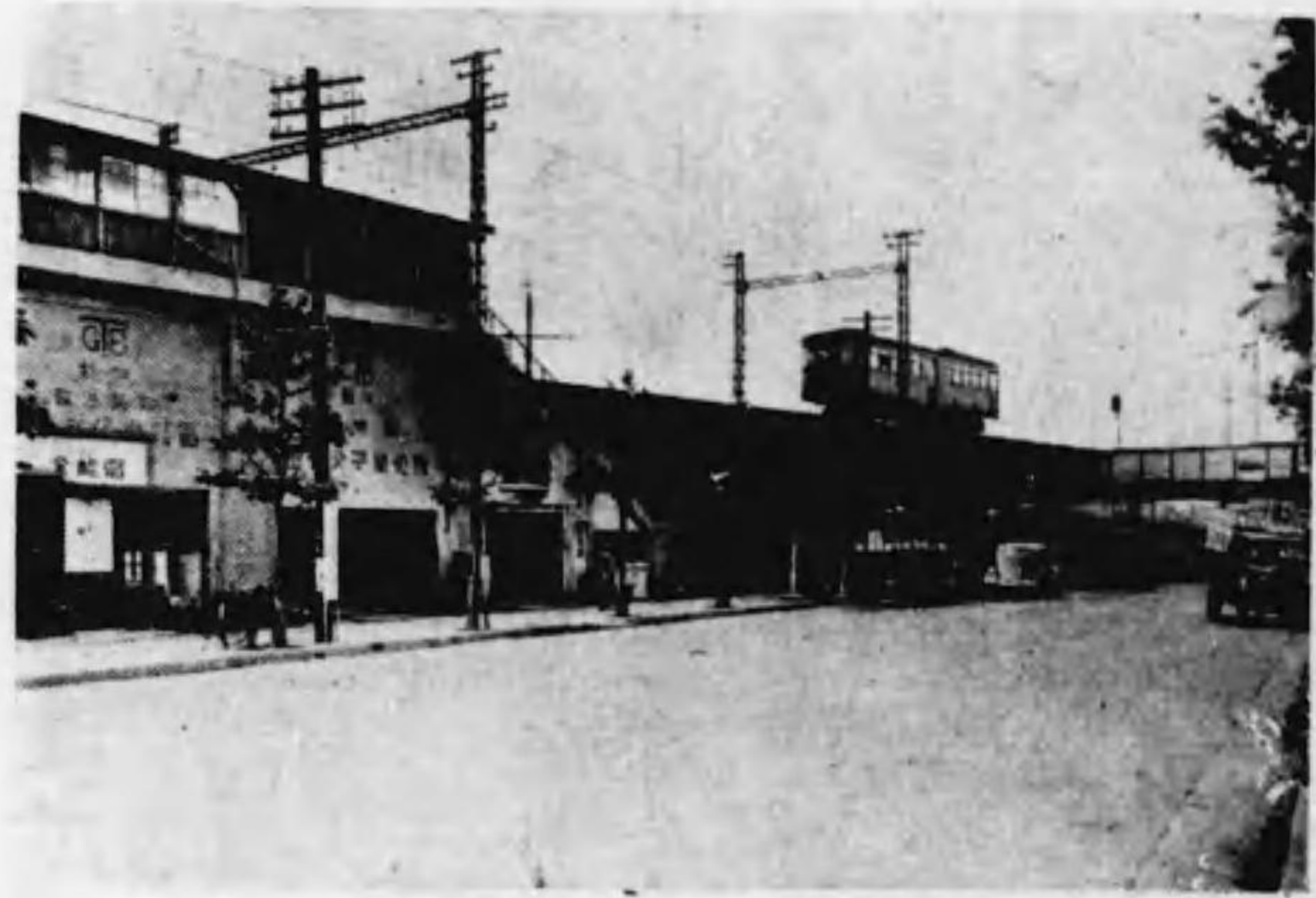
お祖父さんは、

「それはよいところへ氣がついた。こゝから目黒區のお不動様まで往復すれば、やり方によつては區内の交通機關は

大體見學出来る。今日はひとつ、お前の見學に都合のよい道順を選んでやらう。」とおつしやつた。



大井坂下町の家を出て、京濱電車の鈴ヶ森駅に行くみちへ、お祖父さんは、道路の歩行や、横断の心得、電



京濱國道及京濱電鐵

車・バスなどの乗り降りについて、注意をして下さつた。

鈴ヶ森驛の高架線のホームから、京濱國道を見下すと、車道はまるで自動車や自転車の洪水のやうだ。傍のお祖父さんが、

「この國道は元は道幅が七米位で砂利道だつた。それを今日の様に、二十二米幅の舗装道路に改修したのは、十數年前であつたが、東京や横濱の發展につれ、

京濱電線

現在では交通がこんなに激しくなつたので、事故が絶えな
いさうだ。」
とおつしやつた。

品川行きの電車に乗つて、立會川・濱川・鮫洲を過ぎると青物
横丁だ。向かふ側に電車が停車してゐる。あれに乗つて、夏
休に、羽田へ海水浴に行つたことを思出す。府立第八高女へ
通ふお姉様は、毎朝此處で降りるのだ。南馬場・北馬場・北品川
を経て、八ツ山の陸橋にかゝる。橋の下を、東海道線・山手線・品
鶴線などの省線が通り、上には京濱電車線や京濱國道が通じ
てゐる。

橋を渡ると、もう芝區の高輪南町である。こゝから高架線
で京濱品川驛に入る。この驛は、京濱デパートの二階を利用

品川驛
明治五年五月設置



品川驛前廣場

乗つて、五反田に向かつた。

したもので、驛のホームから、
陸橋で品川驛へ連絡してゐ
る。

品川驛前の廣場は、市電淺
草行・四谷鹽町行や、バス(市營
バス・青バス・目蒲バス・目黒バ
ス・京濱バス)や、圓タクなど次
々に發着して、實にめまぐる
しい交通風景である。

お祖父さんにうながされ
て、荏原町行きの目蒲バスに

環状道路

八ツ山橋際から国道に別れを告げ、バスは御殿山の坂にさしかゝる。坂の上からは東京灣が一目に見える。お祖父さんは、

「此の道は品川から目黒澁谷方面に行く環状道路で、東京市の中央から郊外へ出る多くの放射道路と交叉してゐる。道幅も廣く、舗装も完全で、京濱国道や放射道路と同じ様に、東京市の道路の幹線である。これ等の道路には歩道や車道の外に、植樹帯になつてゐるところもあつて、交通の安全のためにも、健康上にも、又都市美の上から見ても、大へんよい。」とおつしやつた。

五反田驛前でバスから降りた。環状道路はこゝで、市電の

通る放射道路と交つてゐる。お祖父さんは、

「こゝは、山手線と池上線の連絡驛で、市電は築地行が出る。又品川・田町・荏原町・目黒不動・大橋方面へバスが通つてゐて、交通上の中心地だ。」

と、説明して下さる。電車やバスの發着する度に、人波が動くが誰も皆信號をよく守つてゐる。

にぎやかな五反田通を歩

水上の交通



いて行くと、目黒川にかけられた大崎橋がある。橋の直ぐ下手に、船の荷揚場が見える。お祖父さんは、

「この外に、まだ二三箇所荷揚場があるが、達摩船や傳馬船が、一日に二三十杯出入する位で、水上の交通はあまり振はな
5.1

とおつしやつた。

頭上でがうく〜といふ音がしたので、見上げると、それは高架線の上を池上電車が白木屋の四階に續く終點へ走つて行つたのだつた。此の終點から階段を下りると省線五反田驛である。

大崎廣小路に出ると、こゝは環狀道路と放射道路の分れ路だ。品川區役所の横から東大崎橋を経て来た改正道路が、こ

池上線

大崎廣小路



大 崎 廣 小 路

ゝて合流するので十字路になつてゐる。十字路の中央には、循環式の交通整理の設備があつて、四方から来る自動車は、秩序正しく無停車で通過する。五反田を出た東横バスは、環狀道路を目黒方面に向かひ、品川から来た目蒲バスは、放射道路を荏原方面へ走る。お祖父さんは、

「こゝから洗足を経て丸子の渡に出る放射道路は、此の先の西大崎一丁目附近で、大井

原町・矢口方面に至る放射道路と交つてゐる。又新京濱國道も其附近で、この放射道路に連絡する。」

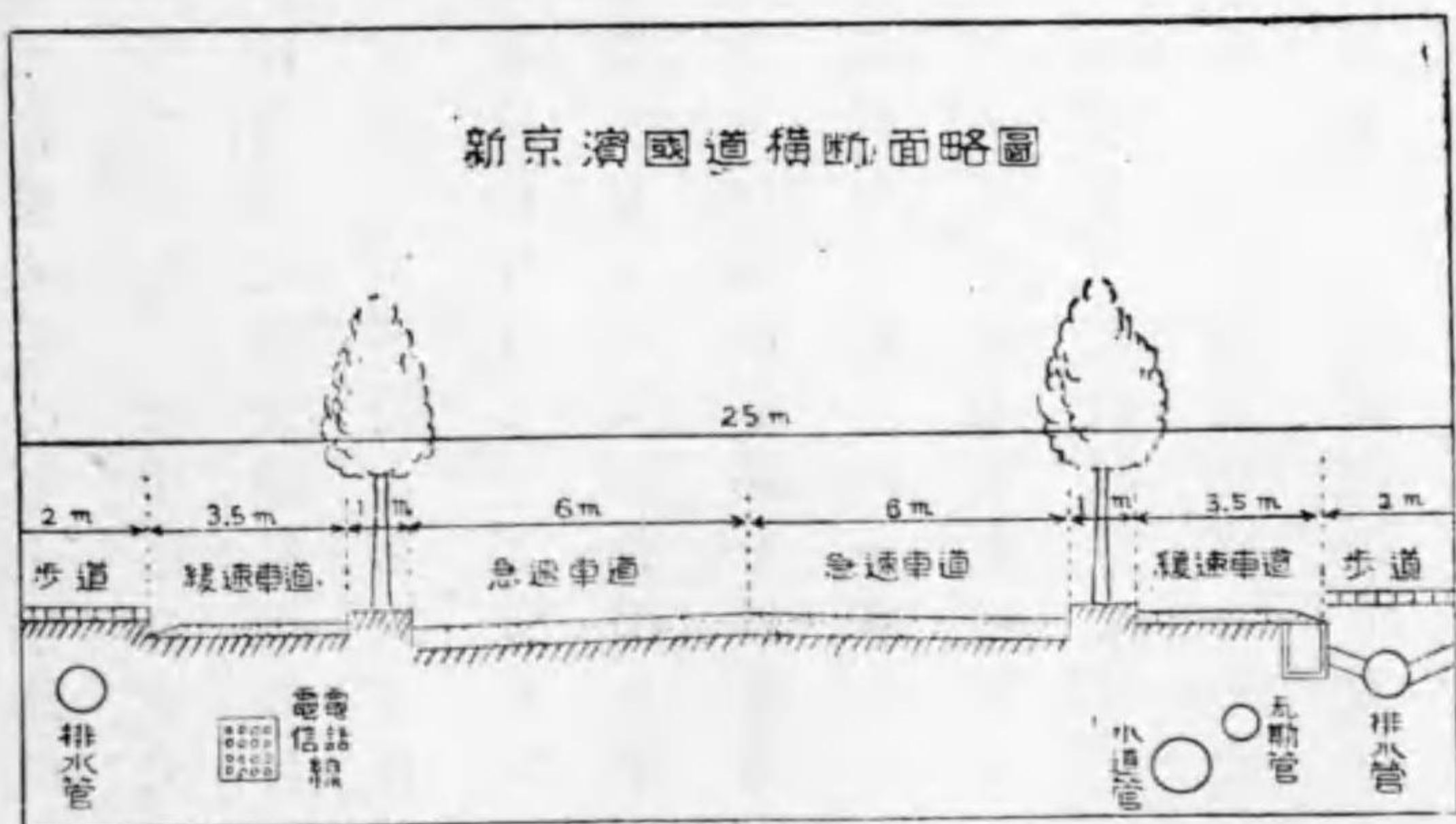
とおつしやつた。

新京濱國道についてお尋ねすると、

「さつき見た通り、京濱國道もあんなに交通が激しくなつたから、それを緩めるために、今の國道の西方二三軒のところにも、う一筋國道を造らうといふの

新京濱國道

新京濱國道横断面略圖



目蒲電鐵

だ。それは、横濱市から蒲田區を経て此の放射道路と會ひ、櫻田門までの道幅二十五米の道路で車道を急速車道と緩速車道に分け、電線は總べて地下に埋設するのが特徴で、昭和十六年には完成する見込ださうだ。」

と詳しく説明して下さいました。

大崎廣小路の街角で、目黒不動行きまぐらのバスに乗り、桐ヶ谷をまはつて目黒區に入り、終點で下車して、お祖父さんについてお不動様に參詣した。

歸りは不動前驛で目蒲電車に乗つて目黒驛に向かつた。

目黒で降り、驛前の交通を見ると、東京驛行きの市電の後を追つて、銀座・三越方面へ市營バスが出る。品川驛から来た目黒バスは、放射道路を五本木・祐天寺方面すてんじに走つてゐる。こゝ

は品川區では五反田に次ぐ交通上の要地だ。

省線各駅乗客比較表
昭和十二年度一日平均乗客数



こかの小學生が、席をゆづつて下さった。

五反田驛を経て、大崎驛の廣い構内を横斷する東大崎橋の

「この少し先の市電の恵比壽終點も區内にある。」

とお祖父さんは語られた。

目黒驛の出札口に並んで、大井町行き切符を買ひ、階段を下りて、山手線のホームへ出る。こゝは土地が高いため、掘割になつてゐる。お祖父さんが車内へ入るとど

山手線

下を過ぎると、直ぐ大崎驛だ。乗客はあまり多くないが、區内唯一の貨物驛で、貨車のホームには、工業の原料や製品が山と積まれてゐる。

品川驛で京濱線櫻木町行に乗換へる。折から地響を立て、下り列車が通過して行つた。

「富士だ。」

と僕が叫ぶとお祖父さんは、

「さうだ。あの列車は、東京驛を午後三時に出で、今夜の十二時に神戸へ着き、明日の朝の九時二十五分には下關へ着く。」と説明して下さつた。お祖父さんは、品川驛の廣い構内に澤山置いてある客車を指しながら、

「この廣い構内が、東海道本線の貨車の操車場に使はれた頃

東海道線

品 鶴 線

は、澤山の貨車があつたが、こゝの操車の仕事が、品鶴線の新鶴見驛に移されてからは、東京驛の客車をこんな澤山あづかつてゐる。今東京驛から品川驛迄線路の増設工事を急いでゐるが、それが出来れば、下關と青森をむすぶ直通列車が、こゝを通るやうになる。」

と話して下さつた。

大井町へ走る電車の中で、

「明治五年に、明治天皇が新橋驛に行幸になつて、京濱間に始めて汽車が開通した當時は、一日に僅か二回しか運轉しなかつた。それが今では一時間に何十回となく發着してゐる。實に日本の國も立派になつたものだ。こんなに立派になつたのは皆 天子様のおかげだ。ほんたうに有難

い世の中だ。」

とお祖父さんはお話し下さる。

目蒲大井支線

大井町驛で下車して、階段を上つて、目蒲大井支線の連絡口から外へ出た。繁華な商店街の三ツ又方面へは本屋口から出るのが便利で、品川方面へは大井支線口とは反対側の東口からが便利である。お祖父さんは、

「此の驛附近へは、四方から道幅十五米の道路がいく筋も集り、省線と連絡する乗物には、目蒲大井支線の電車、目蒲バスをはじめ、大井原町方面や、品川の青物横丁から来る城南バスもあるの、こゝは此の方面の交通上の要地だ。」と話して下さる。

何時かお母さんと、二子玉川へ行つた歸りに、大井町驛から

大森驛まで省線に乗ったことがあるが、今日は馬込町行き
城南バスに乗って、南濱川で下車し、夕暮近く家に歸つた。

九、通 信

日曜日の午後、叔母さんのお宅で、花子さんや三ちゃんと、航

東京市品川区大井鹿島町三二六九番地

奥 田 花 子 様

東京市品川区南品川五丁目三三四番地

松 平 雪 子

昭和十二年十月二十七日

父さんがお歸りになつた。

空郵便双六をして遊んだ。東京から振出して、
花子さんは臺北、三ちゃん
は札幌、私が新京まで
行つた時、郵便局にお勤
めになる花子さんのお

叔父さんにお目にかゝる度に、花子さんや三ちゃんと郵便
ごっこをして遊んだ時のことが思ひ出される。たしか二年
の時だつた。郵便切手料金の計算も、切手の貼り場所も、正し
く出来たので、叔父さんにほめてい
たゞいたことがある。

御挨拶をすますと、叔父さんには
こゝしなながら、

「郵便の種類や料金のことは此の
前話したね。今日は約束によつ
て、通信のお話をしよう。」
とおつしやつた。

「品川区には品川・大崎の二等郵便



大崎郵便局

通常郵便

局と二十一の小さい郵便局がある。その中で、品川・大崎の二等局だけが集配局で郵便物を取集めたり、配達したりしてゐる。



品川郵便局で郵便物を整理してゐる處

品川局は大崎の郵便物を集配してゐるのだ。ポストへ入れたり、郵便局へ頼んだ郵便物は、一日の中に八回きまつた時間に、集配人の手で二等局へ集められる。それを一時間位のうちに種類別にして、消印を押し名宛地に分けて、送り出さなければならぬから、其の時は目

がまはる程いそがしいよ。」

「品川區の人は、一年にどの位手紙を出しますか。」

「通常郵便物だけでも、一人平均一週間に一通宛出す割合になつてゐる。」

「局から送出した郵便物が、先方へ届く迄どの位時間がかかりますか。」

「名宛地までの距離や、交通の便否によつて、時間がきまつてゐるよ。」

「といひながら、靴の中から次のやうな表を出して見せて下さつた。」

◎品川區(品川局・大崎局)から近縣及全國主要都市へ郵便物を送り届ける時間

東京 二・三〇分 横濱 三・二〇分 浦和 四・三〇分 千葉 五・五〇分

宇都宮	六・〇〇	静岡	八・〇〇	甲府	八・五〇	水戸	九・一〇
前橋	九・〇〇	名古屋	一一・〇〇	仙臺	一二・五〇	京都	一三・三〇
大阪	一五・〇〇	神戸	一五・四〇	富山	一七・〇〇	松江	二四・〇〇
青森	二五・四〇	廣島	二七・一〇	福岡	三二・〇〇	函館	三三・〇〇
鹿児島	三五・一〇	長崎	三五・五〇	札幌	三六・〇〇	京城	五七・〇〇
豊原	六二・〇〇	大連	七一・二〇	臺北	九一・〇〇	那覇	一三一・〇〇

「品川區内て出した郵便物の中で、東京市内宛のものはいつ頃先方へ届きますか。」

「市内宛のものなら、其の日のなか翌朝の一號便で届く。しかし宛名を詳しく書かなかつたり、届先の標札の文字が不明瞭だつたり、又郵便受のポストがなくて不在勝な家などは、配達が遅れることがある。」

「品川區では一日中に何回配達されますか。」



「皆さんのお宅へ配る通常郵便物は、午前七時頃から午後七時頃までの間に、時間をきめて三回又は四回配達されてゐる。」

「それでは、電報は何時間位で配達されますか。」

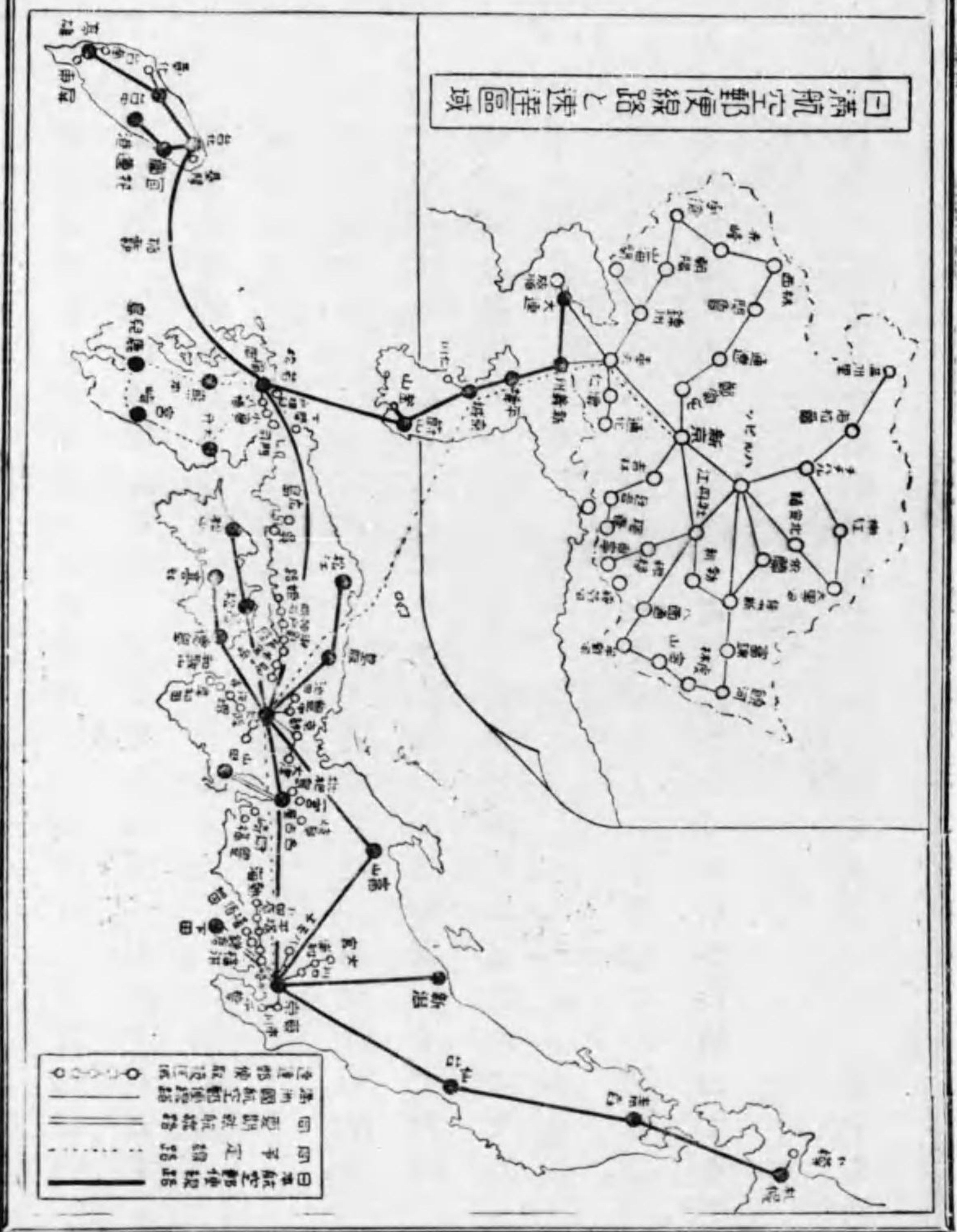
「電報を郵便局へ頼んでから、先方の配達局へ到着するまでの時間は、近いところまで五分、遠い局でも一時間位だ。名宛人の手に渡るまでには、それに配達時間が加はるわけさ。東京市内宛の電報なら、凡そ四十分もたてば、

航空郵便と速達

先方に届くよ。」
 と聞いて其の早いのに驚いた。
 其の時、玄關のガラス戸ががら／＼とあいて、一通の速達郵便が届いた。叔父さんは、お手紙の用件を見終ると、すぐ私に見せて下さった。

「普通郵便なら三十二時間もかゝる福岡から、速達では僅か八時間で来るよ。電報では届けられない郵便物が、こんなに早く着くからなあ。」

と、おつしやつて、さつきの航空郵便双六を指さしながら、
 「速達は、航空機の利用出来るところは之で空輸するから、こんなに早く着くのだよ。速達は日本全国何處にでも出せるが、航空機の發着する局の附近は殊に早く着いて便利だ。」



電 話

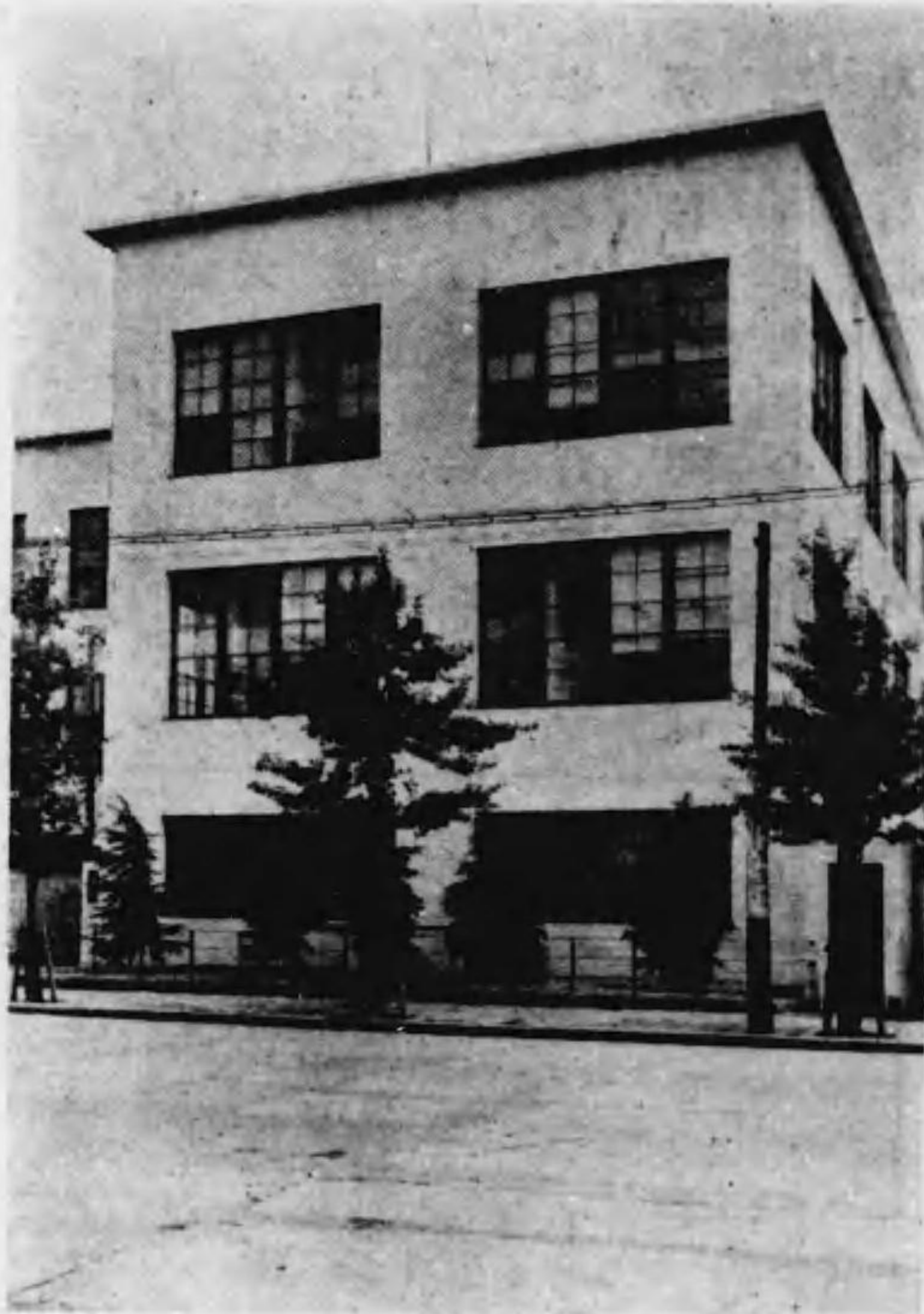
東京市内相互の速達は、一時間乃至三時間位で、先方へ届いてゐる。速達郵便は電報と同じやうに局へ到着するとすぐ配達されるからなあ。」

と説明して下さつたので、なるほどとうなづいた。

其の時電話のベルが、けたましく鳴つた。叔父さんは急いでたつて「はい、はい」と應答なさつた。お話の御様子で、大崎の電話局に勤めていらつしやる花子さんのお兄さんのやうだ。お話がすんだ後で、

「雪子さんがうちへ遊びに来て居るよ。今通信のお話をし
てゐたところだ。区内の電話について、お前から話してく
れ。」

といひながら、私を電話機のそばへ招いて下さつた。花子さ



大 崎 電 話 局

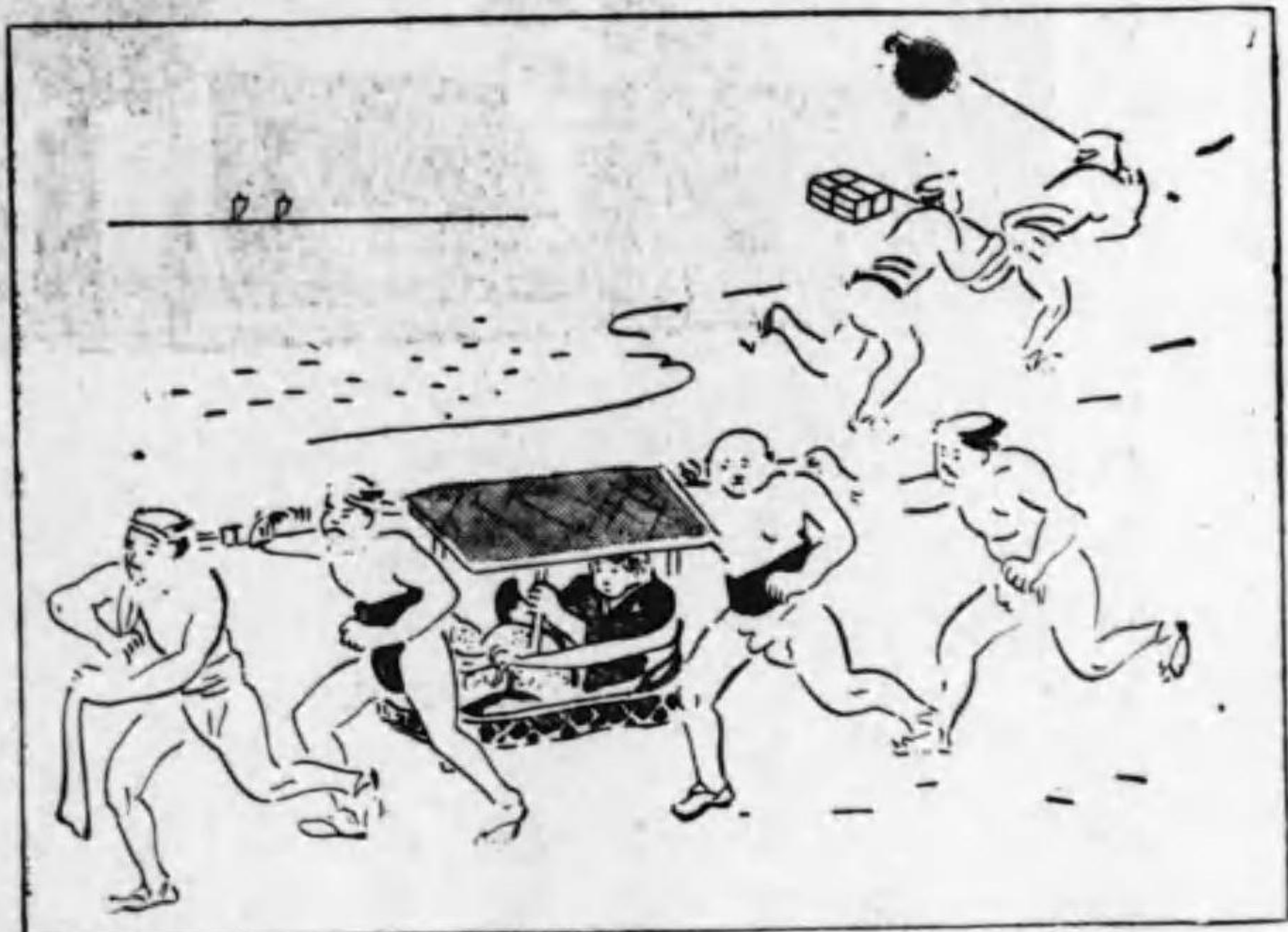
んのお
兄さん
のお聲
が、受話
機を通
つては
つきり
と聞え
る。

「電話で長話は他人に迷惑をおかけするから、簡単にお話し
よう。」

とおつしやつて、

「品川局の電話の事ですか。雪子さんのお宅は南品川ですから高輪局でせう。私のうちは大井鹿島町ですから大森局で、こちらは大崎局です。近頃高輪局から分れて大崎局となつたわけさ。」

区内の電話数は三局合せると、六千二百程だ。一臺一日平均の通話度数は三十回で、急ぎの通信には大へん役立つてゐる。尙



脚飛と打早の代時戸江

公衆電話は、交通の要所や、各郵便局にあつて、一般の人々になか／＼利用されてゐるよ。」とおつしやつて、お話をむすばれた。四時のラヂオニュースが終つた後で、叔父さんから昔の飛脚と今の郵便法についてお話をうかゞつたので、文化の進んだこの大御代をしみ／＼有難いと思つた。

◎品川区内ラヂオ聴取者数 (昭和十二年十二月現在)

品川区内世帯数 四一、七五四 全世帯数に對する聴取者の割合
同 聴取者数 二八、九八四 六九・四パーセント

◎品川区内の郵便局

局名	所在地	電話	局名	所在地	電話
品川	南品川一ノ五五八	高輪一、〇〇六 六四、〇六五	北品川	北品川三ノ一九五	高輪六、三四二
品川鈴ヶ森	大井水神町二、一三四	大森七、三一六	南品川一	南品川一ノ二一六	高輪一、〇七七

品川水神	大井水神町二、〇	大森七、三一五	南品川二	南品川二ノ六八	高輪五、九七一
品川立會	大井立會町四八四	高輪四、二一八	西品川	西品川三ノ八四〇	大崎四、二四五
品川原町	大井原町五、三三	大森七、三一四	大崎	大崎本町一ノ六五	大崎四、二〇二
品川森	大井山中町四、三〇〇	大森七、三一八	上大崎	上大崎二ノ五七九	大崎四、四六三
品川倉田	大井倉田町三、四一八	大森七、三一二	大崎廣小路	東大崎五ノ一	大崎三、二四二
品川鹿島	大井鹿島町三、〇五五	大森七、三一三	西大崎	西大崎一ノ二九八	大崎四、二五一
品川山中	大井山中町四、三六三	大森七、三一七	五反田	五反田一ノ二八三	大崎四、二四六
品川北濱川	大井北濱川町一、一四九	高輪八六三	大崎本町	大崎本町三ノ五七	大崎四、二五二
品川御殿山	北品川六ノ三七四	大崎四、二二〇	東大崎	東大崎二ノ四二四	大崎二、五四五
南品川四	南品川四ノ三三二	高輪六、七六三			

◎品川區關係電話分局 (昭和十二年十二月現在)

局名	所在地	全加入者	品川區内の管區	區内の加入者數
高輪分局	芝區田町九ノ一〇	四、八九四	品川町、大井町	一、六四四
大森分局	大森區入新井五ノ三四九	六、一九七	立會川以西の大井町	一、七〇〇
大崎分局	品川區大崎本町一ノ四二	三、九二七	大崎町及品川一部	二、八二九

一〇、工場の話

品川區は東京市でも指折の工業地で、京濱工業地帯の一部をなしてゐる。

目黒川兩岸の低地・海岸の埋立地・立會川附近・大森驛の東部等には、大小の工場が一帶に立並んでゐる。

したがつて區内の工場數は甚だ多く、従業員五人以上の工場は千近くもあり、五人以下の工場を加へると二千以上



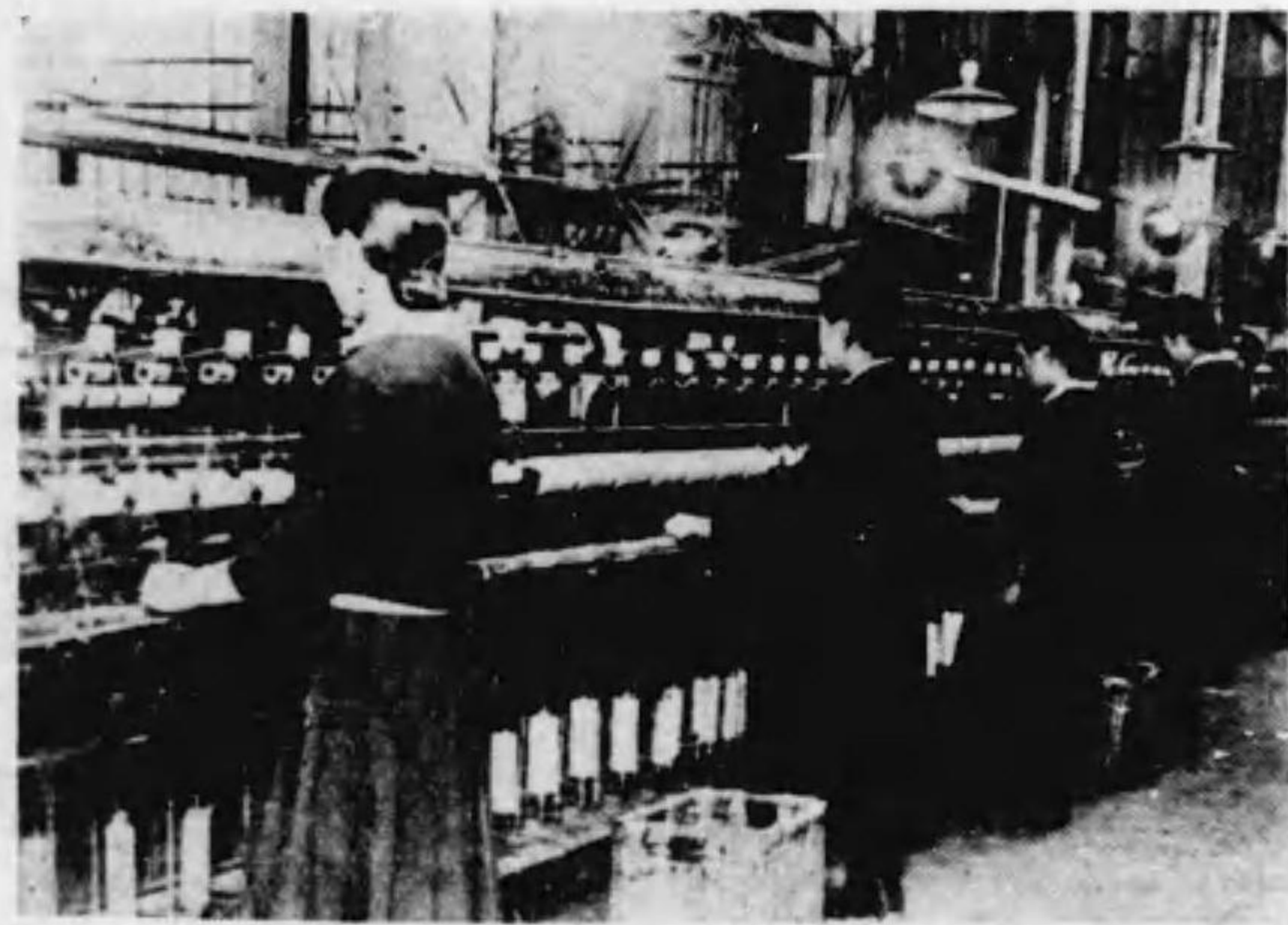
(む望な流上りよ橋海東)

工業生産額
昭和十一年
億圓
芝品本向城
川所島東
區區區區區

になる。又従業員千人以上の工場が七つもある。従業員総数は、三萬人を超え、その中女工が七千人程ある。

工業生産額は一箇年約一億四千萬圓といふ大きな額で、東京市三十五區中第四位である。

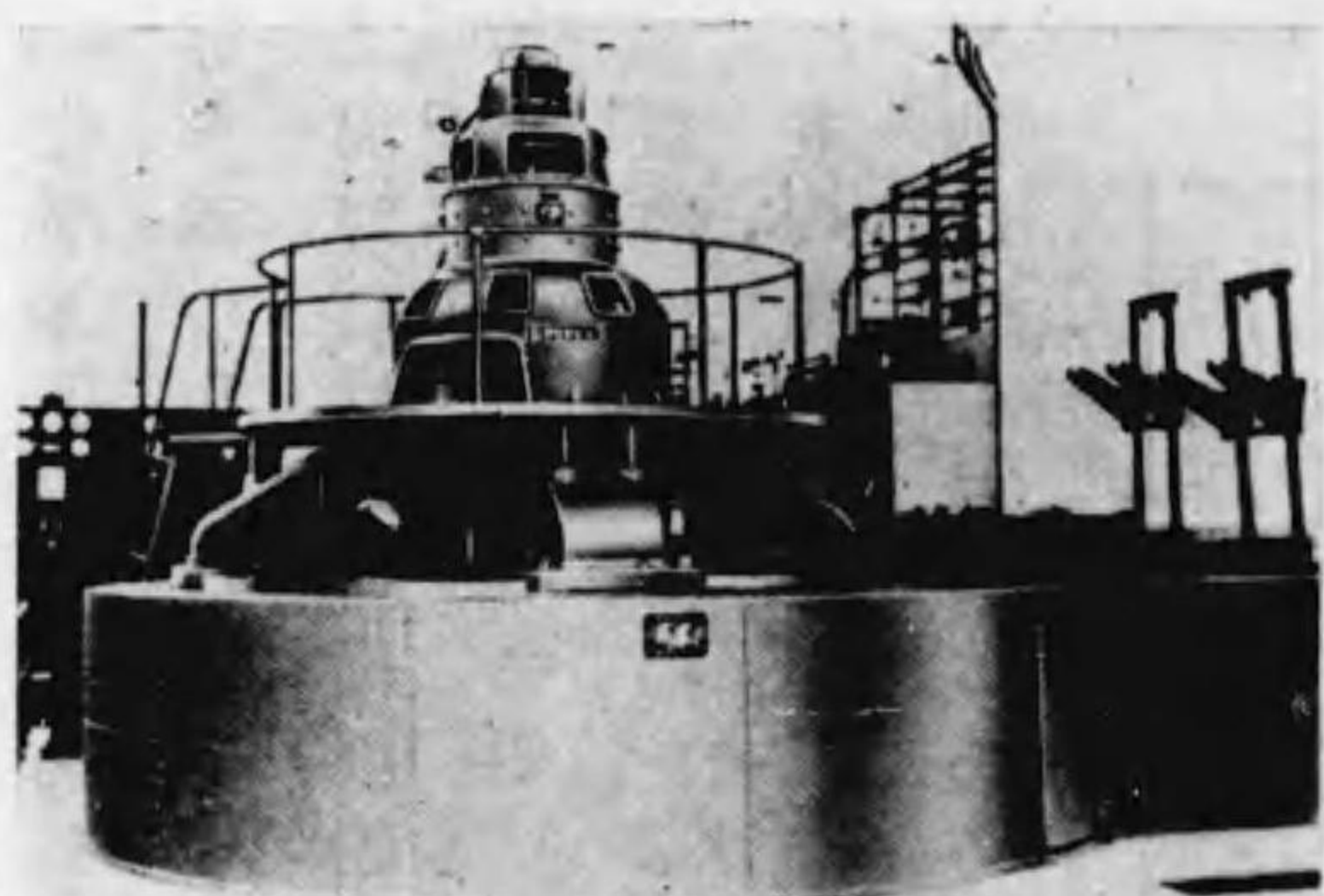
工業生産額は本區諸生産高の殆ど全部で、これが區民經濟生活の一つの大きな基礎となつて居り、又これが品川區發展の最大原因をなしてゐる。



(場工井大紡織) 場工織紡

工業の種類

る。



(造製合電明) 機電發

工業の種類は甚だ多いが、一般に重工業と呼ばれてゐる機械器具工業及び金屬工業が最も多く、これが本區工業の特色である。次は化學工業で又印刷製本・紡織・食品・窯業等も少くない。

機械器具工業製品は、發電機・電動機・發動機・航空機・戦車・自動車・小型自動車・オート三輪車のやうなものから、望遠鏡・探照燈・無線電信機・電氣時計・乾電池・衡器類・防毒面・ストープ・其他諸

種の鑄物類に至るまで種類は甚だ多い。

化学工業製品は、薬品・ゴム製品(自動車タイヤ・ゴム引防水布等)諸種の塗料等が多く、印刷は一般印刷の外ブリキ印刷が大工場で行はれ、紡織は毛織物が首位を占め、食料品は軍用パン等の製造が盛である。

区内の主な工場を挙げると次の通りであるが、この中で特に東京鐵道局大井工場と東京地方專賣局品川工場とは國營で、他は全部私營である。

工場名	創立年月	所在地	従業員	主な製品又は事業
三共株式会社品川工場	大正二・七	西品川一ノ八八八	七五〇	薬品(セ・オキシフル・プロチン等)
株式会社明治ゴム製造所	明治三三・二	北品川三ノ二五八	六五〇	自動車タイヤ其他ゴム製品
東洋製糖株式会社東京工場	大正九・九	北品川五ノ四八四	五五〇	罐詰用糖其他一般製糖

株式会社花原製作所	大正九・五	西品川二ノ七五〇	七〇〇	風車、ポンプ類
小島印刷株式会社東京工場	大正七・二	北品川四ノ六五五	四五〇	ブリキ印刷・チープ製
株式会社明電舎	明治三〇・二	東大崎二ノ二七六	一、二〇〇	發電機・電氣諸機械
藤倉工業株式会社	大正九・四	五反田三ノ一三二	四、八〇〇	ゴム引防水布・防毒面
高梨製作所	大正九・一	大崎本町三ノ五六	六〇〇	無線電信機・電氣抵抗器
日本光学工業株式会社	大正六・七	大井森前町五、四	二、二〇〇	光學及電氣機械器具
三菱重工業株式会社	大正一一・二	大井森前町五、六	一、二〇〇	電氣機械器具
東京自動車工業株式会社	昭和一一・二〇	大井坂下町二、六	二、一〇〇	自動車
鐘淵紡績株式会社大井工場	昭和一一・一二	大井權現町三、六	六〇〇	毛織物
芝浦マツダ工業株式会社	昭和一一・五	大井權現町一、三	五〇〇	電氣時計・電氣洗濯器
東京鐵道局大井工場	大正四・七	大井權現町三、七	二、〇〇〇	客車・電車・貨車製造並に修繕改造
東京地方專賣局品川工場	昭和一二・八	東品川五ノ七二	六〇〇	新車(パット)を一ヶ年四億本

(昭和十二年十二月調)

一一、商店街

(一) 五反田通

大勝祝賀の旗行列は、
五反田通を熱狂あつぱさせた。
軍歌をうたひ、旗をふり、
ばんざい、ばんざい
僕達は力強く歩道をふんだ。
すると歩道が答へた。

「君、この道を勇士がふみしめて行つたんだよ。」
すると、車道がことばをはさんだ。

「この道を輜重隊や砲兵隊が通つたんだよ。」

街路樹のプラタナスが一ばいに葉をひろげ、
濃い蔭を作つてゐた頃から、
来る日も来る日も、日の丸の小旗の群が、
五反田驛へ殺到した。
又、ある時は輜重兵の軍用自動車^{自動車}が堂々とあたりを拂つて進
んで行つた。
今は中支戦線に活躍して居られるその勇士の方々。その方
々とは、再び慰問文で知合ひになつた。
「君達は第二の國民だ。」と、
却つて僕達をはげます手紙をくれる兵隊さん方だ。
あのやさしい兵隊さんたち。
あのやさしい小父さんたち。

それがすべての日本軍なのだ。
ああ、鬼部隊長、一番乗の勇士たち。

大勝祝賀の旗行列は、
五反田通を熱狂させた。

軍歌をうたひ、旗をふり、
ばんざい、ばんざい

僕達は力強く歩道をふんだ。
すると、歩道がまた答へた。

「君達の足取りは一致してゐる。それが市民の足取りだ。
それが國民の足取りだ。」
すると、車道がまたことばをはさんだ。

「君達のまごころは、大地にひびきわたる。それはかつて聞いたことのある君達の祖先の足取りであり、永遠につよく日本精神なのだ。」

(二) 大井三又通

大井三又通の縁日は、毎月十四日と晦日^{みそか}で、この日には、大井町驛近くまで夜店が出て、とてもにぎやかである。しかし此の頃は、改正道路の方に、毎晩のやうに夜店が出てゐて、これもなかく、繁昌してゐる。

此處の縁日は、三又交番前の突當りにある地藏様が元である。この地藏様は、今から凡そ四五十年前は、さびしい畠の辻の地藏様で、お堂などは無く、近所の悪い子供たちにいたづらなどされていらつしやつたが、今は立派なお堂が出来てゐる。



現在は鐘紡大井工場となつてゐる

の通る道になつてゐたこと、以前から近くに毛織工場があつ

大井三又通

三十年程前縁日の始まつた當時は、商人は飴屋さん、蠟燭屋さんなど、わづか二三人で、せつかく店を開いても賣上高が少いので、附近の有志の人達が、辨當代を出してやつたのださうだ。

それを思ふと今日の發展は、全く驚く程である。この通が發展した理由は、古くから池上本門寺御會式の萬燈



南品川通

たこと、後に大井町驛が出来て南西部一帯が住宅地帯として發達したこと等であるが、忘れてならないのは、土地の有志の方々が郷土發展の爲に盡くされた努力である。

(三) 南品川通

南品川通は、舊國道即ち昔の東海道で、今も尙多少昔のおもかけを残してゐる。十數年前までは、通の片側だけに家がならんで、一方は海になつてゐたところもあつたが、今では埋立が出来た爲に、海とはすっかり遠くなつてしまつた。

そして道の兩側には銀行・商店等が軒を並べて、其の前を自動車やオートバイがひつきりなしに往來してゐて、ほんとに目が廻るやうである。

この賑やかな町も、昔は大名行列が、嚴めしく通行したのかと思ふと、今更世の變遷の甚だしいのに驚くの外はない。

一一、中央卸賣市場荏原分場見學

この前の日曜日に、松島君と二人で、五反田四丁目の中央卸賣市場荏原分場の見學に行つた。知合の人に頼んで、前以て願ひして置いたので、向かふへ着くと直ぐ守衛さんの一人が、「やあ、坊つちゃん方いらつしやい。」と言つて、喜んで案内して下さつた。

市場の構内は全部コンクリート舗装で、中央の大きな建物の中は、卸賣人賣場と仲買人賣場とに分れてゐる。冬の朝はまだ七時だといふのに、一方の隅では、もう地方荷のせり賣が始まつてゐる。守衛さんの話では、築地本場の魚類部では午前四時から始まるのださうだ。買出人が意外に少いので、不思議に思つて守衛さんにお尋ねすると、

「いや、此處に集つてゐる人達は皆、仲買人ばかりですよ。この人達が仲買して、あちらの仲買人賣場へ運んで、其處でせりのある前や後に、小賣商人に賣るのです。一般の小賣商人がせりに参加するのは、午前九時から近在荷のせり賣の時で、其の時には坊つちゃん方のお宅の近所の八百屋さんも來ますよ。」

「では、今あそこでトラックに、里芋や玉葱の俵を積んでゐる

のは何故ですか。」

と、松島君が尋ねた。

「あゝ、あれですか。あれはね、蒲田と世田谷の二箇所にあるこの分場の配給所へ運ぶのです。この二つの配給所からも今此處へ仲買人が來てゐますよ。ついでにお話しますが、この分場では、野菜や果物即ち青果ばかりを取扱つて



(景全場分原菴場市賣卸中央中)

ゐるのです。今、大森海岸にある魚貝類市場が、間もなく東京市の經營になつて、この分場の魚類部になりますよ。」

「それでは、此處は東京市の經營ですか。」

と松島君は、今初めて知つた様子で尋ねた。

「さうですとも、東京市では坊つちやん方のお宅のお臺所の心配だつてしてゐますよ。何しろ、野菜や果物や魚類・肉類などは、直に腐つたり古くなつたりするものですから、かういふ生鮮な食料品を必要に應じ、良い品を安く、しかも早く、坊つちやん方のお宅へお届けするには、中々骨が折れますよ。」

といつて、守衛さんは、今迄あちこちの小さな私設市場に分れてゐたのを、東京市南西部七區の分は全部此處に集つてしま

東京市南西部七區
品川・大森・蒲田

荏原・目黒・澁谷
世田谷

つたので、生産者も當業者も消費者も大層利益になつてゐることを話して下さつた。

それから守衛さんは、傍の白菜の俵の荷札を調べて、

「これは茨城産の上等品です。白菜や大根は、此處で取扱ふものでは、一番金高の多いもので、年額三十萬圓以上ですよ。」
と言はれた。僕達も荷札を調べた。馬鈴薯は福島・宮城等の奥羽地方から来て居り、里芋は群馬や千葉など關東産のものが多いやうだつた。温室栽培の胡瓜やトマトなどは、静岡から来てゐるものが多かつた。其他調べてゐると、色々なものが殆ど全國から来てゐることが分つた。

芋洗場は構内の一隅の小さな建物で、モーター仕掛の大きな洗ひ槽の中で、土の附いた里芋が見てゐる間に白い芋に洗

はれて行く有様は、實に見事であつた。他の一隅には荷捌場があつて、午後一時からのせり出される和歌山産の蜜柑や、青森産の林檎の箱が澤山積まれてゐた。荷捌場の裏にはバナナの醗酵室があつた。東京港で陸揚げされた青いバナナがトラックで運ばれ、此處の地下室でガスの温度であたゝめられて、おいしい黄金色のバナナになるのださうだ。

午前九時になると、チリン／＼と鈴が鳴り響いた。もう構内は、近在荷買出人のリヤカー・自轉車・手車・トラック等で一ぱいである。近在荷といふのは、主として東京府や近縣の出荷で青物が多い。

せり賣は二箇所に分れて始まつた。地方荷の時とはちがつて、今度は買出人は黒山のやうで、その人々に圓く圍まれた

せり賣人は符牒ていふ呼値と同時に突出す手指の一齊射撃を受けながらも、手早く賣渡して、次々と青物の山を征服して行く。

「坊つちゃん、面白いでせう。」

と、守衛さんに言はれて松島君は、

「まるで喧嘩してるみたいだね。」

といった。守衛さんは笑ひながら、

「今は霜枯れ時で、野菜は一番出廻りの少い時ですが、五月頃から次第に出盛つて、西瓜の出る頃になると、此の廣い構内は建物の外までぎつしりと、緑色の高い山になつてしまひますよ。」

とおつしやつた。

僕は其の有様を想像して、其の頃是非もう一度来て見たいなと思つた。

其の時不意に松島君が大きな聲で、

「あ、居る〜。何時も家へ

来る八百屋さんが。」

と叫んだ。

「さうだ〜。あの小父

さんが。」

と僕もその方を見たが、八百屋さんはせりに夢中で、僕達の來てゐるのに氣が



近在荷せり賣り状況

附かなかつた。買出人は、やはり地元の品川區や、荏原區、目黒區などの人が多いさうだ。

一三、貯金と利息

さつきから郵便貯金通帳を見てゐた三郎君は、

「お母さん。をかしいね。」

「何がですか。」

「だつて、お金を預けると利息がつくつて、變じやないですか。」

「それは預けて置くんですもの、利息のつくはあたりまへですよ。」

「でも、お母さん。僕たちがお金を預けると、銀行や郵便局では、それを金庫に入れてしまつて置くでせう。それを僕た

郵便貯金(貯金局)
 普通貯金
 特別貯金
 規約貯金
 月掛貯金
 預金(銀行)
 信用組合
 當座預金
 小口當座預金
 定期預金
 通知預金
 通貯預金
 別貯預金
 別貯預金

ちが何かの時におろしますね。さうすると、本當は僕たちから預かつてもらつたお禮を出さなければならぬぢやありませんか。それを反對に向かふからお禮をいたゞくんだもの。」

「あら、三郎さんはさう思つてゐたの、それはね、銀行や郵便局や信用組合などは、多くの人々からお金を預かりますが、それをいつも金庫にしまつて置くのではありません。そのお金を別の人に貸してあげるのです。」

「別の人つてだれにですか。」

「それは商人の方や、工業家の方や、いろく事業をやりたい方で、資本がなくて困つてゐる人たちです。」

「ぢや、お金がなくて困つてゐる人には、誰にでも貸すのです

か。

「いやそれは誰にでもといふわけにはいきません。色々よ

く調べた

上で、この

人なら立

派に事業

をやつて

行けて、約

束の日ま

でに必ず

お金を返

三菱銀行品川支店



大崎信用組合



市設大井町質屋



すと思ふ人だけに、お貸しするのです。」

三郎君は、しばらくくだまつて考へ込んでゐたが、やがて、

「あつ、わかつた。お母さん。僕、利息のつくわけがわかりました。かうぢやありませんか。郵便局や銀行からお金を借りた人は、それを返す時お禮に利息を拂ふのでせう。それを預けた僕たちに又下さるのでせう。」

「さうです。よくわかりましたね。私達がぜいたくや無駄づかひをしないで貯金すれば、そのお金がお國の盛んになる事業の爲に役立つのです。」

「さうだ、僕これから、うんと貯金しよう。」

間もなくお父さんがお歸りになつた。三郎君は早速今のお母さんとのお話をした。お父さんは、

「三郎は仲々えらいね。」とほめて下さつた。

名 稱	所 在 地	開 業 年 月 日	資 本 金
三菱銀行品川支店	北品川二ノ一四八	昭和 四・五・一	一〇、〇〇〇、〇〇〇
日本晝夜銀行品川支店	南品川一ノ二一七	大正 一四・六	一〇、〇〇〇、〇〇〇
東京貯蓄銀行品川支店	南品川一ノ二一〇	昭和 六・八・二四	一、〇〇〇、〇〇〇
第一銀行大崎支店	東大崎四ノ一三〇	昭和 六・八・一四	五七、五〇〇、〇〇〇
安田貯蓄銀行大崎支店	五反田二ノ三二一	大正 一三・二・一五	五、〇三三、〇〇〇
第百銀行大崎支店	西大崎一ノ三六二	大正 一五・一・一	五、〇〇〇、〇〇〇
日本晝夜銀行目黒支店	上大崎二ノ六〇七	大正 一三・四・一	一〇、〇〇〇、〇〇〇
東京貯蓄銀行目黒支店	上大崎二ノ五七五	大正 一三・八・二五	一、〇〇〇、〇〇〇
安田貯蓄銀行大井支店	大井倉田町三、四一四	大正 一三・三	五、〇三三、〇〇〇
第百銀行大井支店	大井倉田町三、五〇一	昭和 二・二・一〇	三、八、九八八、五〇〇

(信用組合)

信用組合名稱	所 在 地	創 立 年 月
有限責任品川信用組合	北品川二ノ六五	大正 一・一・五
有限責任大崎信用組合	五反田二ノ三七二	大正 八・一〇
有限責任大井信用組合	大井倉田町三、三六〇	大正 一四・七
公 設	一 (市設大井町質屋大井寺下町一五八〇)	私 設
郵 便 局	貯 金 高	七、九五四、九三二圓
數	一 九	(昭和八年) 四四

一四、お 臺 場

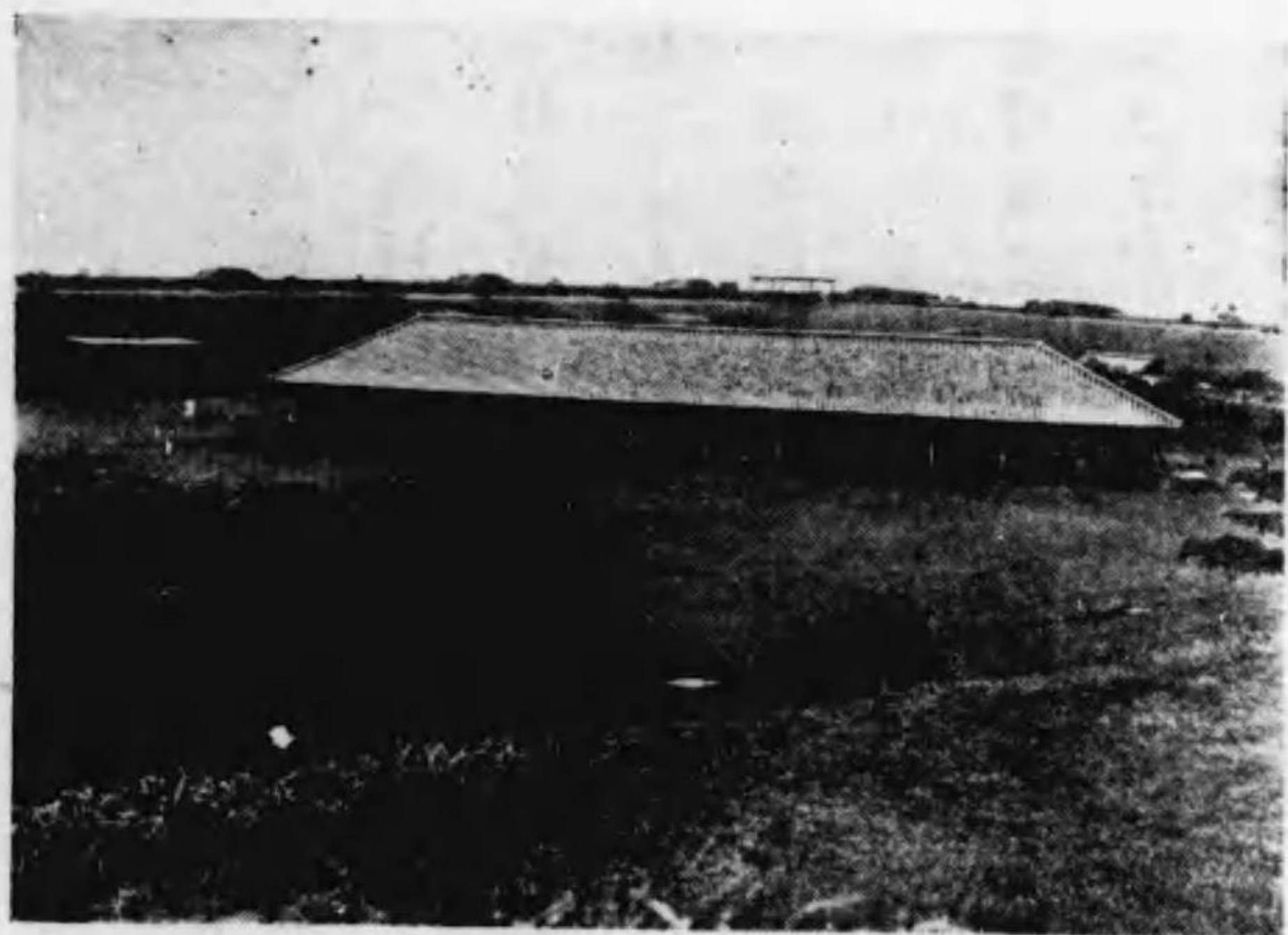
高輪でふりさけ見ればはるかなる

品川沖へ出来し島かも

これは、品川沖のお臺場が出来た時、當時の人が百人一首にまねてよんだ和歌である。

徳川時代二百数十年間の太平の夢は、外國船渡來のために、すつかり打ち醒まされた。幕府は何よりも先づ、江戸の海防を嚴重にしなければならぬと考へ、品川灣内に砲臺を築くことに決めたのは、嘉永六年六月二十二日のことであつた。それから、江川太郎左衛門といふ人が工事の設計監督に當り、最初は十二基を築く豫定で、先づ一二三番の三基に着手して、

之を八箇月で造り上げた。更に五六番と品川獵師町の砲臺



水上公圖

は安政元年正月から取りかゝつて、其の年の十一月出来上り、八番以下は全然手をつけなかつた。

これを造るための材木や岩石は、附近の國々から取り寄せ、土砂は御殿山や泉岳寺等から運び、石工土工は殆ど全國から集つて五千人に達し、土砂運搬用の土船も二千艘に及んだ

と言はれてゐる。それが爲、海も陸も非常に混雜したので、東海道筋に當つてゐる高輪海岸は、人々の通行も禁止しなければならぬ程であつた。

然し、この當時これ程の大工事が、僅かな月日の間に出来上つたと言ふことは、實に驚くべきことである。これこそ我が日本國民の愛國の熱情と犠牲的精神の現れに外ならないのである。即ち一度品川臺場を築く報が傳はると、全國民は唯々其の成功を祈り、色々と金品の寄附を申し出た。又直接にこの工事の手傳ひを申し出る者も甚だ多く、力の強い相撲取なども大いに手傳つた。國家の非常時に當つて、一身一家を忘れて國恩に報いる精神には、今も昔も變りはない。

からして、我等の祖先が心血を注いで築いたお臺場も、間も

なく通商條約が結ばれた爲、實戦に使用することもなく、永久の廢壘となつた。今は四番は埋立地の一部となり、三番は臺場公園といつて、東京市唯一の海上公園として、一般に公開されてゐる。

一五、淺草海苔

お問合せの淺草海苔について、僕の調べたことを一通り申し上げます。

(一) 養殖の由來

これは、お祖父さんから聞いたお話です。徳川氏が江戸へ移つてから、近海の獵師が毎日魚貝を進上することになつてゐましたが、雨風の烈しい日にはとても獵に出る

ことが出来ません。そこで海中に木柵や竹垣で生簀を作り、魚貝を養つて置くことにしました。ところが、其の生簀の木柵や竹垣に、何時とはなしに海苔が生え出しました。これはいゝものが生えたといふので、其の後は海中に眞竹・孟宗竹・檜樫等の簀を立て、どん／＼養殖することになつたといひます。

(二) 淺草海苔といふわけ

色々あつて、はつきりわかりませんが、僕の調べた本には次の三つが記されてゐました。
イ、海苔は最初大森邊に多く採れたのだが、それを淺草へ持つて行つて製造したので、淺草海苔と言ふやうになつた。

口、淺草川(今の隅田川)で多く採れたから、川の名をとつて淺草海苔と言つた。

ハ、大森の野口六郎左衛門といふ人が、淺草へ行つて、淺草紙を製造してゐる様子を見て、あゝ海苔もこのやうにすればよいなあと思ひ、色々工夫をこらして、今のやうな乾海苔を作り、これを淺草海苔と名づけた。

(三) 養殖法

秋の彼岸頃、長さ三米位から八米位までの筵を、根本一米位海底の土砂中にさしこみ、満潮の時海面と一致する程度に立て、筵の小枝に海苔の胞子を附着させるのです。これを地つ子建つこたてといひますが、別に筵を千葉海岸あたりに立て、胞子を付け、それをこちらへ植ゑる移植法もある。

ります。十五年前までは、全部地つ子建だつたさうですが、今は殆ど移植法ださうです。海苔は鹽分が強すぎると色やつやの濃いものが出來ないので、隅田川・多摩川・立會川・目黒川などの流れ込むあたりで、一番品質のよいものがとれるさうです。

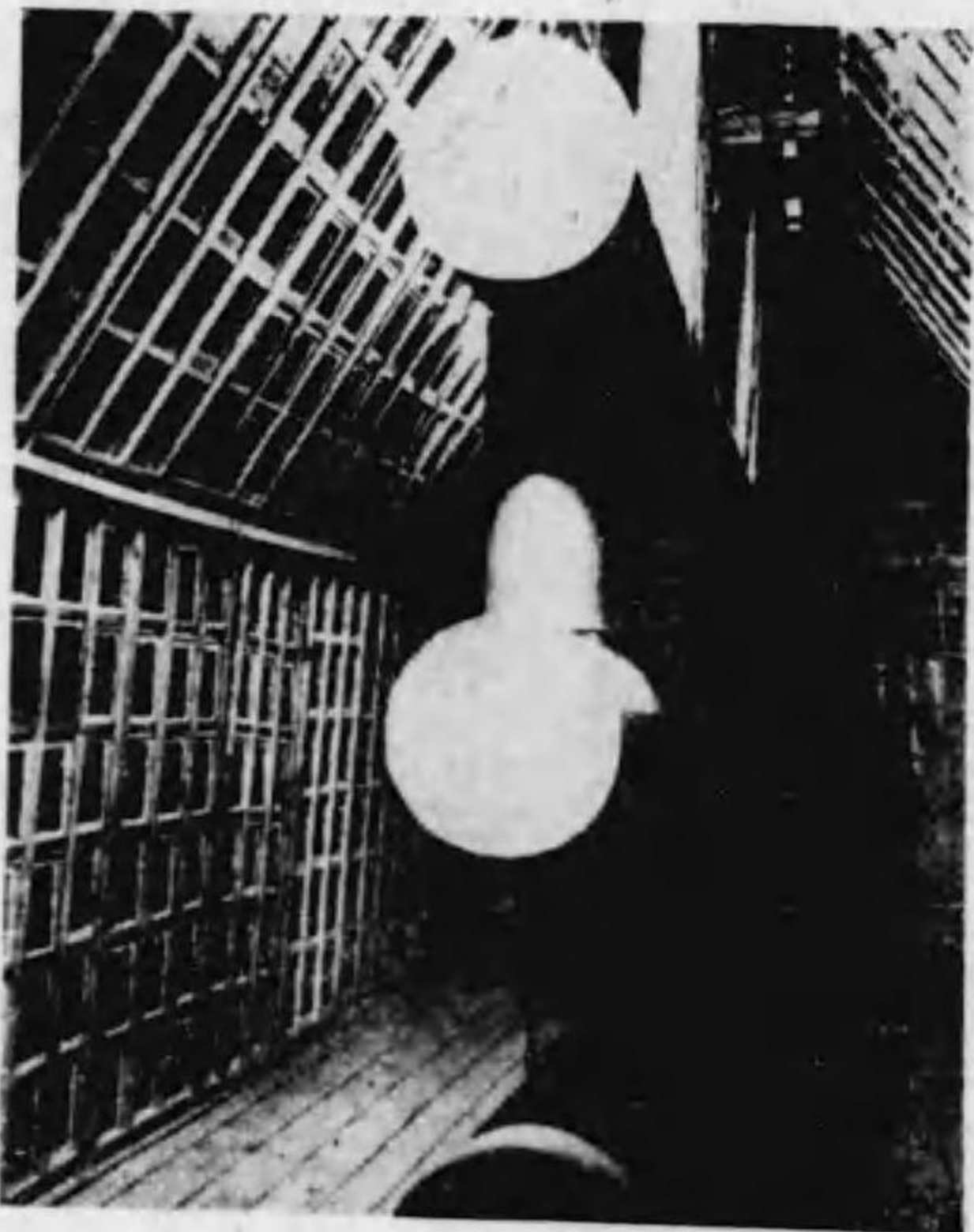
(四) 製造法

海苔は、繁殖の早い時は十二月初、遅い時でも翌年の一月頃になると、芽が二十糎位にのびます。これをベカといふ一人乗の小舟に乗つて摘採するのです。摘採つた海苔は、海水でよく洗ひ、水をきり、叩き臺の上に取り上げて、薄刃うすばの庖丁を五枚から八枚位並べた飛行機庖丁で、良く細断します。細断したもの約二立たて(凡そ六疋)位づゝ淡水と

海水を適當に混ぜた四斗樽の中へ入れ、よく掻きまはします。

別に方三十糎位の簀すいの上に、乾海苔一枚大の杵きねを置き、その中へ柵しほで四斗樽の中の海苔を汲入れるのですが、一度にさつと杵の中へ流し込んだその手がぐるりとかへると、もう海苔は萬遍まんべんなく平に杵の中に廣がつてゐます。これは實に見事です。かうして一人で一時間に三百枚位、一朝に千枚から千五百枚位漉くくのだといひます。又普通四斗樽一箇分を百枚に漉くのださうです。この簀を杵形の障子のやうな乾燥器に、十八枚並べ、これを日當りの良い風の強く當らぬ處で乾かすのですが、雨天などには製造所近くのバラック建の乾燥場かんそうばの中で、ストーブ

海苔生産額
昭和十一年
大森區 二二九萬圓
品川區 一三三萬圓
芝罘區 一三六萬圓
日本橋區 三六八萬圓



海苔乾燥場

をたいて乾燥させます。勿論日光で乾燥させるよりも幾分品質が落ちるさうですが、曇天や雨天でも乾燥出来ること、干場の面積を多く取らない點で、盛に利用されてゐます。實際、製造してゐる處を見ると、一枚の海苔にも随分多くの手數がかゝつてゐることがわかります。

(五) 販路其の他

淺草海苔は、全國到る處へ行きわたり、今では遠く米國か

らの注文さへあるさうです。もつとも東京灣以外の千葉・三重・神奈川・愛知・朝鮮などにも養殖されてゐるさうですが、やはり品質も製法も東京のものに比べて劣るさうです。然し、最近東京灣の海水が汚くなつて來たこと、埋立地が多くなつて淺瀬が少くなつたので、生産高がだん／＼少くなりました。それで此の頃は沖採法など新しい方法が研究されてゐます。

以上は簡単ですが、淺草海苔についてのお答です。別便で味附海苔一罐お送りいたしましたから、御風味下さい。

昭和十四年三月十日

品川 三郎

山田 太郎様

一六、埋立地

今日はお晝御飯がすんでから、お父さんと埋立地へ散歩に出掛けた。

人自動車・電車・自轉車殆ど一秒間の隙もない、八つ山の陸橋を渡り、だら／＼坂を下り切ると、左手には飲食店や料理屋等がずらりと並んでゐる。お父さんは、

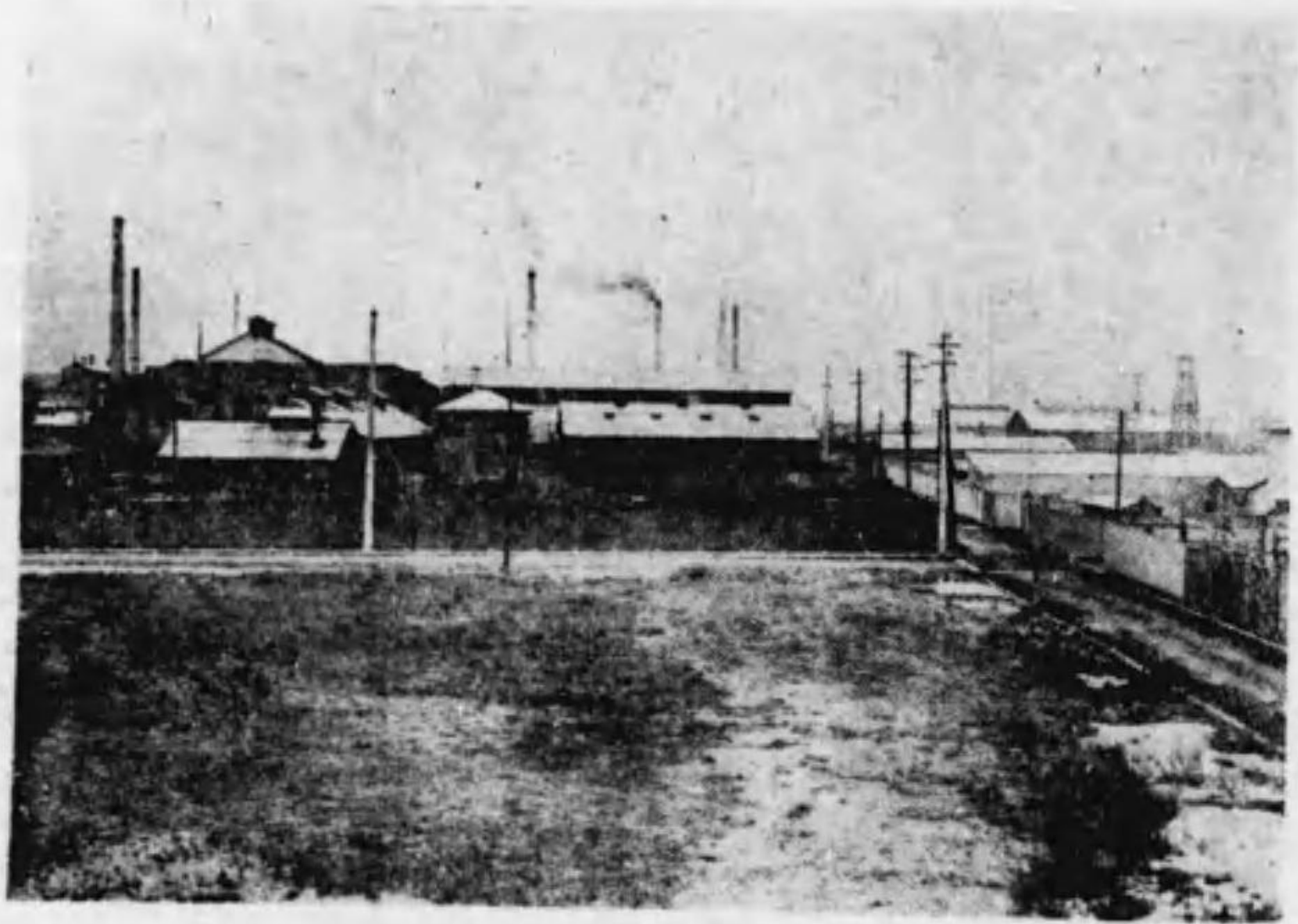
「こゝは、八つ山埋立地といつて、もとの品川町が大正八年四月から昭和二年二月まで、九箇年間の長い年月と六十五萬圓の費用を出して埋立てたのだ。」

と話された。路の突當りを左に折れて、北品川橋を渡ると、こゝにも埋立地が廣く續いてゐる。

「これも品川町で埋立てたのですか。」
 「いや、これは東京府が大正十四年から五箇年の繼續事業としてやり始め、途中色々の差支が出来て仲々出来上らなかつたが、昭和九年まで續けて、とうとうこんなに立派に出来たのだ。」

このやうな話をしながら、右へ曲つて、眞直な路を行くと、あちらにもこちらにも家が大分建つてゐる。右手の方ではまだ盛に埋立工事をやつてゐる。昭和橋までの道路の左側には、品川煉炭原料倉庫が立並び、眞直な道路をトラックが忙しうに往來してゐる。

昭和橋を渡り、今度は左へ曲ると荷揚場が出来てゐて、多くの人夫が石炭などをどん／＼揚げてゐる。發動機船が勇ま



埋立地

しく波を蹴立て、入つて来る。向かふにお臺場が手に取るやうに見え、白い燈臺も見える。その手前の空地には、三四人の子供が凧を揚げてゐる。

こんどは海岸よりの路をぶら／＼南へ進むと、右手に幾本もの煙突が眞黒な煙を吐いてゐる。このあたり一帯は工場が續々と建てられてゐる工場地区である。最近に新築さ

れた東海高等小學校や、府立第八高等女學校、東京地方專賣局品川工場の前を通り、南へ南へと進む道路の兩側には殆ど工場の建物が立盡してゐる。

「しばらく來ない間にずる分建つたなあ。」

と、お父さんは一人で、感心していらつしやる。

「それにしても、こんな廣い埋立地を造る土がどこにあつたのかなあ。」

と、僕がひとり言をいふと、お父さんは

「さつき昭和橋を渡つただらう。あれが目黒川さ。目黒川は北多摩郡の烏山地方から流れ出て、こゝまで二十軒位の長さだが、昔から少し雨が降續くとすぐ洪水ちやぶになるのだつた。中でも、大正九年十月一日の大洪水には四百萬圓の損

害があつたさうだ。そこで、これでは仕様がなから、もつと川底を深くし、川幅も廣くして、洪水にならないやうにしようといふので、改修工事を始めることになつた。その工事では掘つた土をこゝへ運んで、こんな立派な埋立地が出来たわけさ。

東京港も完成し、京濱運河が通ずる頃には、この埋立地には、もつと多くの工場や倉庫が立並んで、東京市の重要地區となるだらう。」

歸りは、京濱線鮫洲驛から電車に乗つた。

一七、水道

顔を洗ひ、口をすすぎ、御飯を炊き、御風呂を沸かし、掃除に使

ひ、道路に撒き、何から何まで水がなければ私達はとても生活が出来ない。

今でも、地方では、井戸水をつるべで汲んだり、ポンプで揚げたりして使つてゐるが、東京では殆ど水道の水を使つてゐる。勿論水道は使用料金を拂はなければならぬが、その使用に便利なことゝ、衛生的であることは、井戸とは到底比べものにならない。

東京市水道の水源は、多摩川と、江戸川と、井荻代々幡の掘井との三種であるが、我が品川区へ引かれてゐる水道は多摩川である。

多摩川の水は、遠く秩父連山の中、多摩峡谷を抱く雲取・大菩薩等の山々から流れて来る。東京市ではこの水源地方一帯

玉川水道株式会社
大正七年二月創立



地 水 貯 口 山・山 村

の廣いところへ植林を行ひ、水源林を作り、何時も水が涸れないやうにつとめてゐる。

多摩川の清流は、西多摩郡羽村の取入口から、一旦は村山・山口の貯水池へ導かれ、此處から境浄水場と淀橋浄水場に送られ、此處で幾度も幾度も濾されたり消毒されたりして、きれいな飲料水となつて市中

本区内水道栓数	昭和十二年
使用栓数	二九、六八
不使用栓数	四、七三
計	三四、四一

へ送り出される。

品川區の水道は、羽村の取入口よりずっと下流にある調布取入口から導かれる。こゝには八臺の大きなポンプがあつて河水を玉川調布兩淨水場に送つてゐる。尙取入口附近は、川口から約十三軒の處であるから、満潮の時には流水が逆流して海水が水道へ流れ込むおそれがあるので、多摩川を横切る防潮堰せきも造られてゐる。

一滴の水でも、かうした多くの手数のかゝつてゐることを思ふと、決して粗末に使つてはならない。

一八、電氣と瓦斯

今日は、僕たちの學校の學藝會である。朝からたくさんの

人が講堂に集つてゐる。

今、理科電氣と瓦斯・六男武田明といふプログラムの紙が出された。武田君は壇へ上つてお辭儀をした。拍手が一せいに起つた。

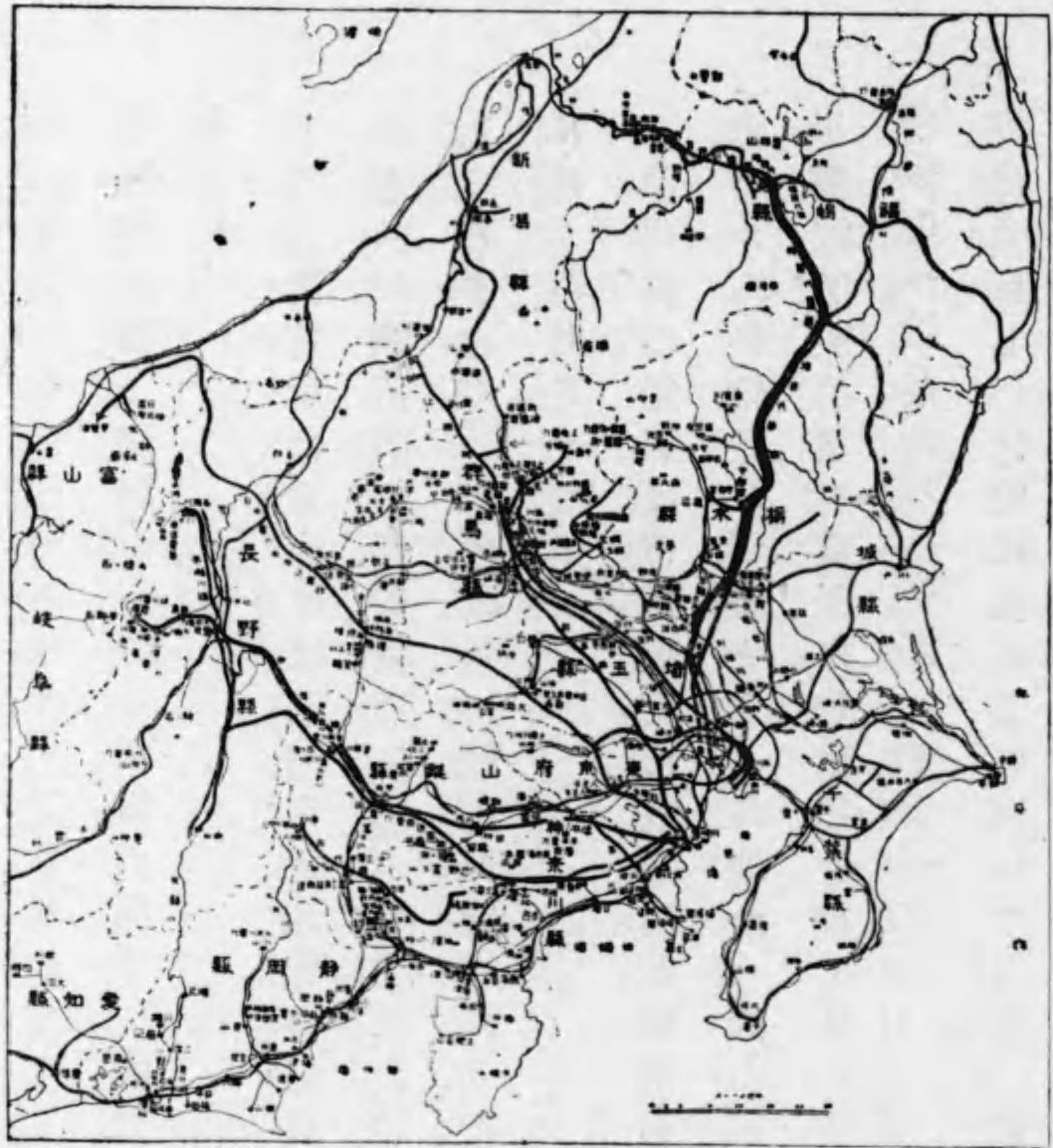
「僕たちは生まれた時から明かるい電燈の光を受け、ラヂオを聞きながら育ちましたが、電氣のなかつた昔の人達ほどんなに不便で不自由なことだつたでせう。あの暗い行燈の前で本を讀んだり、仕事をしたりしたことは、今の僕たちには想像も出来ない程です。」

武田君は、はきはきした口調で元氣に話を進め、電氣がどんなに便利なものであるかといふ説明をしてゐたが、間もなく自分の研究したことを発表し始めた。

「ところが、此の間山田君と僕が學校の歸りに電氣について色々話をしてゐて、一體僕たちの家へ來てゐる電氣のもとは何處だらうと考へたのです。ところが、二人ともわからなかつたので、後で電燈會社の出張所へ行つて聞きますと、會社の小父さんは「お二人ともよく勉強しますね、自分達が使つてゐる電氣がどこからどうして來るのか知らない人が、この東京市にどれ程あるかわかりませんね。」と話しながら、抽斗から送電系統圖を出して、くはしく説明して下さいました。」

武田君は、後に掲げてある自分で大きく書いた送電系統圖を指さしながら、話を續けた。

「懐中電燈や呼鈴よびかねに使ふ乾電池は別ですが、電氣は水力と火



送電系統圖

力とによつて起され
ます。東京へ
は御覽の様に、
東日本の殆ど
すべて水力
の発電所

から電力を送られてゐます。送電線の主なものは、猪苗代
舊線・同新線・上越線・群馬線・日本電力線・甲信線・大同線等であ
ります。

火力発電所は、東京には芝浦市電經營、千住(東電經營)尾久
赤羽共に鐵道省經營四箇所にありますが、之はふだん使用
してゐません。水力電氣に故障が起つたり、不足した場合
に補ふのさうです。

品川區の電氣は市電(東京市電氣局)と東電(東京電燈株式
會社)から供給されてゐます。各地から送られた電氣は、品
川變電所や目黒變電所の變壓器を経て、それらの工場や
各家庭へ送られるのであります。

一同は、くはしい研究に感心して聽いてゐる。武田君は更に

本区内電氣供給
昭和八年
電燈 二五、〇八六
市電 三三、〇二〇
東電 一、〇一〇
電力 一、〇一〇

話を進めた。

「次に電氣と同様、僕たちの生活になくはならない瓦斯に
ついてお話しします。

電氣のもとには主に水の力でしたが、瓦斯のもとには石炭であ
ります。處々に大きな瓦斯タンクを見かけますが、あれは
石炭を乾溜して採つた瓦斯を貯へて置くものです。東京
瓦斯會社は鶴見大森千住などで製造した瓦斯を東京全市
へ送ります。従つて皆さんの家に使はれる瓦斯もこの會
社で作つたものです。最近本區で使用される瓦斯量は、一
箇月七七八〇〇熱位で、使用戸數は三五〇〇〇戸ですか
ら、本區全戸數の八割二分に當つてゐます。私達はかうし
た便利な電氣や瓦斯を無駄のないやう、出来るだけ有効に

使用したいものです。」

武田君が一禮すると、又拍手のあらしが起つた。

一九、衛生施設

たとへにも「薬より養生」とあるやうに、病氣になつてから騒いだのではもう遅い。平常から養生して、健康に注意しなくてはならぬ。このために品川區では、區民の保健衛生については係を置いて、町會や警察署と協力して、人々が安心して住めるやうに骨折つてゐる。

私達の生活に、水は一日も缺くことの出来ないもので、この良否は衛生上にも重大な關係がある。しかしこの水は今では大部分が水道を使つてゐるし、たとへ井戸を使ふ家でも、そ

の井戸は閉鎖式に改造されてゐるから、之によつて悪い病氣の傳染するやうな心配は先づないと言つてよい。

ところが、家々の使ひすてた下水の始末は、まだまだうまくいつてゐない。下水道は段々と改良されては來たが、まだうす汚い水の流れてゐる溝が町の處々にあつて、不潔なばかりでなく危険な病菌の巢になつてゐる。これは附近の家では、區役所や町會の指圖がなくても、進んでこの掃除をしだり、消毒劑を撒くやうにしたい。品川區で現在下水道の改良されてゐる部分は延長約一萬五千米で、下水道全長の約五割にあつてゐる。

又日毎に家々から出る塵芥も非常に澤山なもので、區内三萬八千餘戸から一日に出る量は、十萬疋以上である。

塵芥の處分

そこでこの塵芥は係の人によつて、其の大部分は大崎と大井との二箇所にある塵芥焼却場で焼却されるが、その他の分は遠く芝浦深川までも運び出されて始末されるのである。し



塵芥焼却場

かしこの塵芥も心がけ一つで、之を少くすることは容易なこと、たとへば自分の家で焼棄するなり埋めるなりするこの出来るものは、之を自分で處分して、なるべく塵箱へ入れないやうにするのである。

町會で清潔法を施行したり、撒水車で水をまいて道路を清掃したり、夏溝に消毒剤をまいたり、蠅取デーを定めて驅蠅を奨励することや、時々種痘を施行することは、チブス・コレラ等の豫防注射と同様に、悪い病氣の發生を豫防するために行ふものである。

しかしこれらの諸施設も、區民の各自がその必要を感じ、その目的を理解して、眞剣に當局と協力するやうにしなければ其の効果はあがらないのである。大掃除の時に、人の目につき易い所ばかりを清潔にし、人の目に見えない隅々や、床下などを不潔にして、平氣であるやうな人があるやうでは、ほんたうに残念である。そして、二十餘萬人の區民全體が同じ心になつて、保健衛生の効果をあげるやうにしたいためである。

尙区内には各種の良い醫院・病院が澤山あるから、萬一病氣にかゝつても其の手當に困るやうなことはない。

品川健康相談所では、種々の設備をして、醫員の方が區民の健康について親切な相談相手になつてゐる。又生活に困る人には其の治療費を免除する手續などをとるやうになつてゐる。そして、特に恐しい肺結核の早期診断や、豫防については非常な努力をはらつてゐる。

品川區には現在公園が四つある。それは權現山公園・八つ山公園・坂下公園・聖蹟公園である。しかし何れも二十餘萬人を有する本區の公園としては、狭いものである。もつと広い公園が多く設けられることが、保健上から考へても必要なことと思ふ。公園は多人數の庭園であるから、こゝに遊ぶもの

品川健康相談所
北品川三ノ二四八

は、殊に公德を重んじて、他人の迷惑にならぬやうに愉快に運動し、たとひ一本の花、一本の枝でも折るやうなことがあつてはならぬ。

次に便所のことであるが、これは傳染病の傳播に大きな關係がある。各戸で平常から其の清潔に注意すべきはいふまでもないが、蠅の出入が出来ないやうに便所の窓には細かい金網をとりつけること、驅虫劑を撒くことなどが大切である。尙下水道の完成と相俟つて、其の構造を水洗式に改造することが急務である。

道路の舗装も着々進行して、國道・府道は殆ど全部が剛質舗装か簡易舗装のいづれかになつてゐる。これは交通上はいふまでもなく、衛生上から考へても喜ぶべきことである。市

父さんがよく知っていていらつしやるよ。」

「お祖父さん。品川區ではどこの學校が古くからあつたのですか。」

とお尋ねすると、お祖父さんは今まで読んでゐた新聞を下に置きながら、

「それは品川尋常小學校だよ。何でも明治七年の七月かな。城南尋常小學校も同じ頃に出來た。其の次の明治八年になつて利雄たちの大井尋常小學校が建てられたのだ。」

「その次は。」

「その次は鮫濱尋常小學校だ。鮫濱の學校はそれまでにあつた鮫州小學校と、濱川小學校との二校を明治九年の九月に合併して一校にしたのだ。最初の校舎は、今の八幡神社

の境内にあたる所にあつた。」

「では、昔も濱川小學校といふ名前の學校があつたわけですね。」

お祖父さんはうなづかれた。

「お父さん。お父さんの小さい時には小學校がいくつあつたのですか。」

「七つだつた。今お祖父さんからお話のあつた四つの學校の外に、舊大崎町には第一日野と第二日野の二つの學校が出來てゐたし、舊品川町にも東海小學校が出來てゐた。何でも東海小學校の建てられたのは、戊申ま詔書の下賜された明治四十一年の九月頃だつたとおぼえてゐる。」

「そんなら、お父さんの頃は、随分遠くから生徒が通つて來た

のですね。だからお父さんには、遠くの町の方にも澤山知つてゐる人があるのですね。」

「さうだ。利雄はなか／＼よいところに氣がつくね。では、一番よい學校はどこか知つてるかね。」

これをきいてゐた妹の幸子さんが、

「兄さん。それはきまつてゐるのねえ。誰だつて自分の學校が一番よいと思つてゐるんですもの。」

するとお母さんが、

「さうさう。幸子のいふ通りですわ。自分の學校が一番よいと思つてゐるから、しつかり勉強もするし、お行儀もよくするのね。生徒全體が心を合はせて、自分達の學校の名譽をあげようとする學校が一番よいのです。校舎が立派だ

とか、生徒数が多いとかいふことで、その學校の良い悪いはきめられるものではないのですよ。」

この時大學生の兄さんは、

「お父さん。この品川區二十二校の小學校の中でも、芳水小學校は他の學校と創立の由來が違つてゐるといふことを、此の間友達が言つてたが、ほんたうですか。」

「さうだ。故人になられた明電舎社長重宗芳水氏の遺志によつて、夫人のたけ子さんが、校舎・校地から校具まで一切を寄附されたので、學校の名稱もそれに因んで芳水尋常小學校と名附けたのださうだ。それで、その當時雨風のはげしい日に、ぬかるみを遠くの第一日野尋常小學校へ通つてゐた子供たちは、とても大助かりだつた。」

重宗芳水
明治六年七月十一日
山口縣岩國町に
生れた。我國電氣
工業界の權威者、
大正七年十二月三
十日逝去。十五
享年四十五歳。

尋常夜學校
修業年限
自第一期至第六期
三箇年

「さうですか。たけ子さんといふ方は實に立派な方ですね。そんな人々が多かつたら、どの學校でも現在よりもつと設備が良くなるでせうね。」

兄さんは深く感心していらつしやつた。利雄さんは又、

「お父さん。この間の夕方、僕が山中小學校のそばを通つたら、裏門から大人が大勢本包を持って入つていつたが、あんな大人も生徒でせうか。」

「それは尋常夜學校の生徒だらう。お家の都合で、小さい時に小學校へ行けなかつた人達が勉強する學校で、三箇年で卒業が出来るさうだ。」

するとお母さんが、

「それではいつか仲田の叔父さんが『女中さんでありながら、

夜學校へ通つて、成績が優等で市長賞とかを戴いた。感心なものだ。』とお話をなさつてゐたが、その生徒だつたのですね。」

夜學校の生徒の事などを考へると、自分達は一層しつかり勉強しなければならぬと、利雄さんは考へた。

「お父さん。尋常夜學校は山中小學校だけにあるのですか。」

「いや。鈴ヶ森小學校と城南小學校と第二日野小學校と合はせて四つある。」

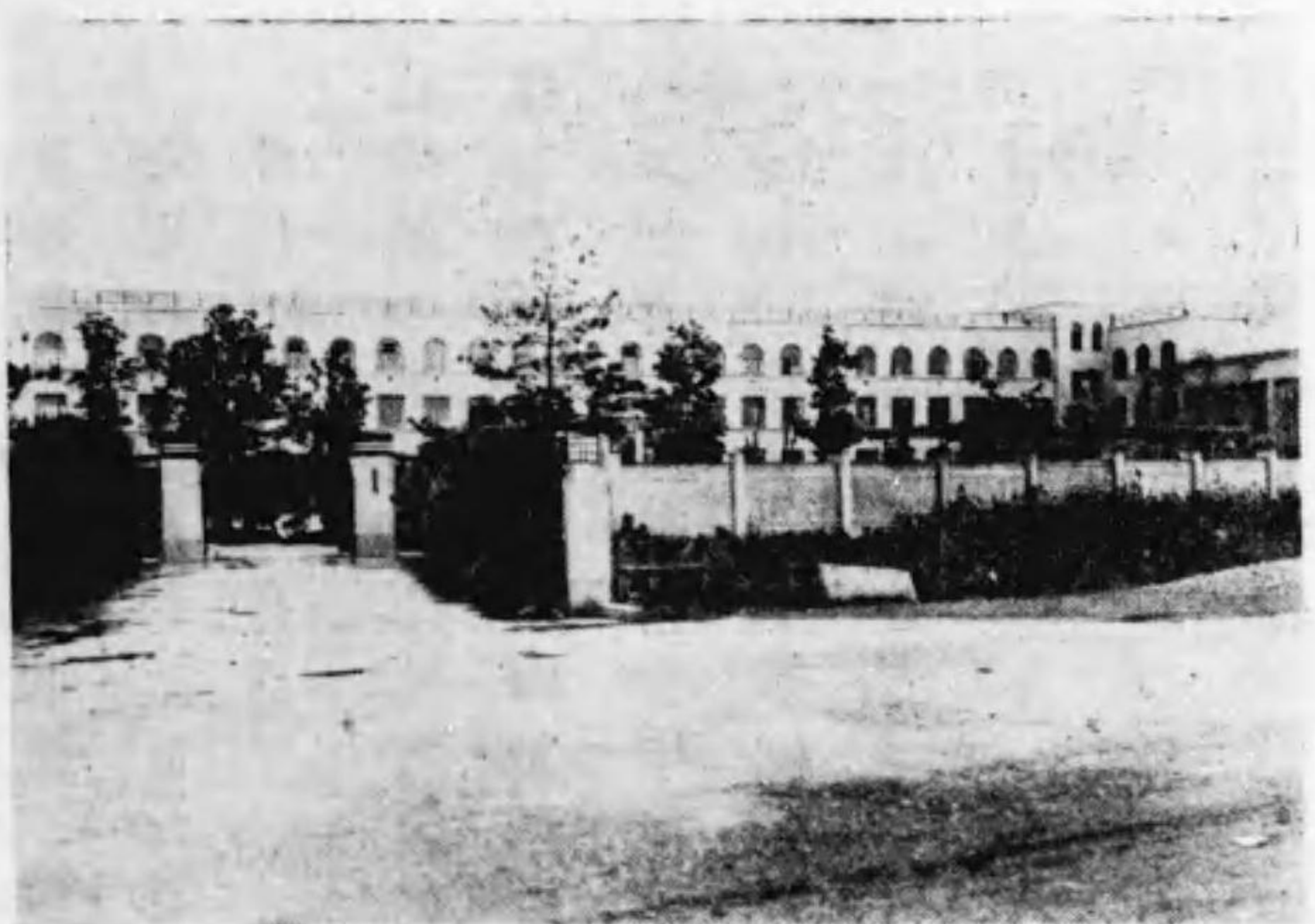
「では、お隣の民藏さんの通つてゐるのも、尋常夜學校ですか。」

「いや、それは違ふ。あれは青年學校だよ。」

「青年學校つて、どういふ學校ですか。」

「青年學校といふのは、小學校を卒業したものが入る學校で、

青年學校
修業年限
普通科二年
本科二年
研究科二年



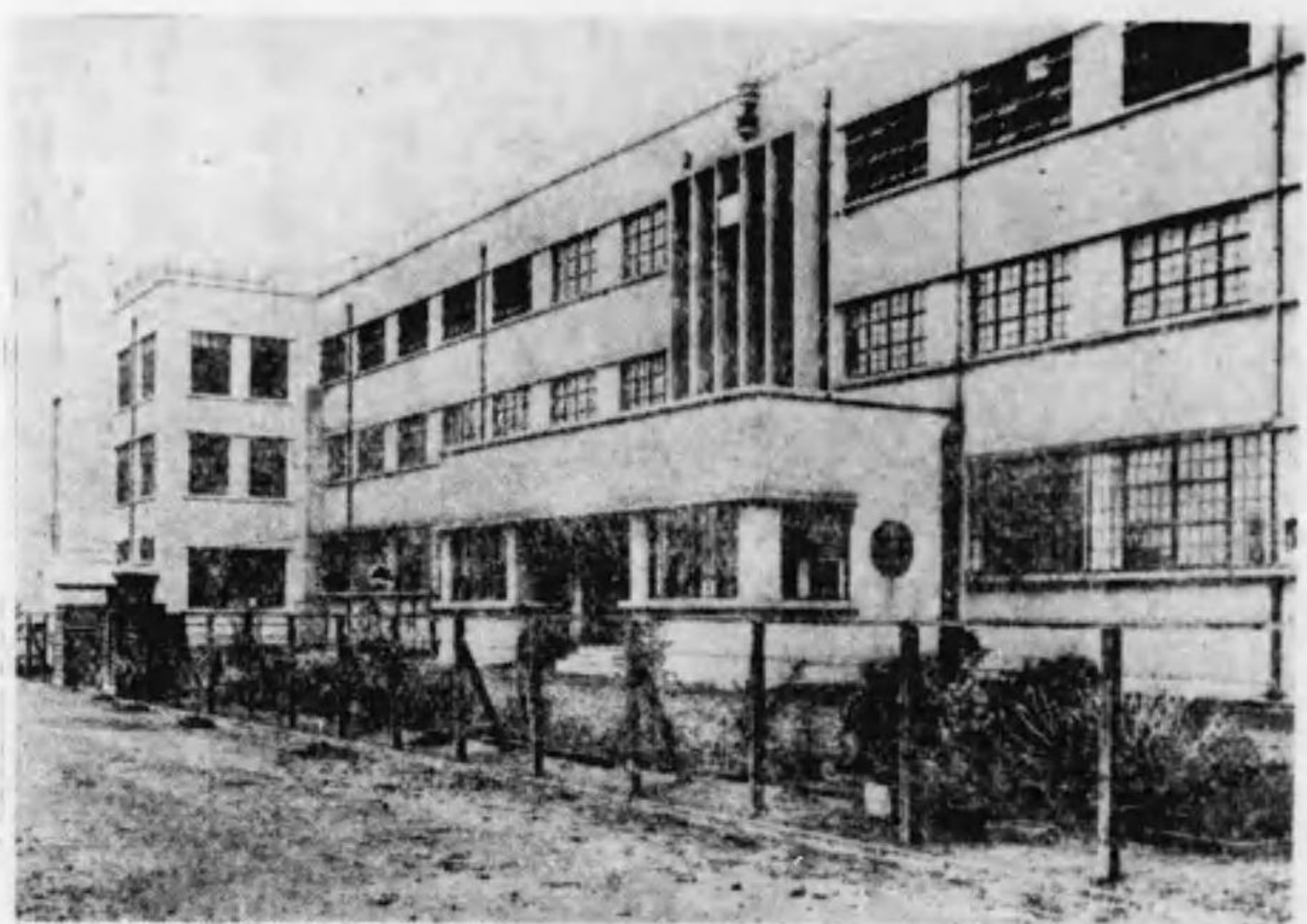
府立第八高等女子學校

普通科・本科・研究科に分れ高等小學校と同等以上の學科や

教練を教へてゐる。青年學校は大井小學校にある外に、鮫濱・品川・東海・第一日野・第二日野小學校等皆で六校ある。

兄さんは尙

「この區には公立の中等學校は、府立第八高等女子學校・府立電機工業學校市立大崎高等實修女子學校の三校だけです。人口二十餘



府立電機工業學校

萬の廣い品川區に、公立中學校が一つもないといふことは、

田舎の町に比較しても、實に恥づかしいことですね。」
兄さんはいかにも憤慨したやうな顔つきだ。お父さんは、

「まあ、さういつたものでもない。その中には、公立の中等學校も増すだらうし、通學區域の設定といつたあんばいに、調子よくいかぬとも限らぬからな。」

に、築地から大崎町へ移轉したことをきいてゐるから。」

「さうですよ。」

と、兄さんはお父さんの言葉をうけて、

「目黒驛といつても、あそこは品川區の領分だから、あの近くにある海軍大學校は、品川區の一番北の細くとんがった部分にあるのですね。それから、國民精神文化研究所もその近くにあるはずだ。」



海軍大學校

國民精神文化研究所
上大崎長者丸
昭和七年八月設立
文部省直轄

學校の話はなかく盡きない。それから私立の學校のこと

になつて、先づ立正大學の話になり、「立正」といふ名前は日蓮上人の有名な「立正安國論」から取つたものだと言ひが話して下さつた。その後で立正中學、立正商業、攻玉社中學、品川高女、東京女子商業などの話が出て、お父さんや兄さんの話は、なかく終らなかつた。



立正大學

附表
(一) 小學校一覽表附表

(昭和十三年十二月現在)

番號	學校名	創立年月日	學級數	男	女	計	所在地	設置
1	品川尋常小學校	明治七・三・二	二四	七三	六九	一四二	北品川三ノ二	1
2	城南尋常小學校	明治七・二・五	一九	五三	五四	一〇七	南品川二ノ四〇	2
3	東海高等小學校	明治四・一・〇	二四	七三	四三	一一六	東品川四ノ一二	7
4	淺間臺尋常小學校	大正九・一・二八	二五	七四	六九	一四三	南品川六ノ一四	10
5	三木尋常小學校	大正一・一・二〇	二九	八五	八二	一六七	西品川三ノ八一	13
6	御殿山尋常小學校	昭和三・一・六	二二	四九	三六	八五	北品川五ノ四三	18
7	城南第二尋常小學校	昭和一三・一・一	一〇	三〇	二九	五九	東品川四ノ一〇	22
8	大井尋常小學校	明治八・五・一五	二六	八〇	七〇	一五〇	大井鹿島町三一	3
9	鯉濱尋常小學校	明治九・九・二〇	一八	四七	四八	九五	大井元芝町九四	4
10	山中尋常小學校	大正五・一〇・一八	二六	七九	七七	一五七	大井山中町四一	8
11	鈴ヶ森尋常小學校	大正九・四・一五	二四	七〇	七〇	一四〇	大井南濱川町一	11
12	原尋常小學校	大正一・二・七	二四	六七	五八	一二五	大井鹿島町五一	14
13	立會尋常小學校	大正一・五・九	二五	七七	七〇	一四七	大井立會町五六	17
14	濱川尋常小學校	昭和九・四・二五	二七	四七	四〇	八七	大井南濱川町一	19
15	伊藤尋常小學校	昭和一一・四・一	一八	五五	五五	一一〇	大井伊藤町六七	20

16	大井高等小學校	昭和一三・九・一	二二	五九	六三	一二二	北濱川町一一四	21
17	第一日野尋常小學校	明治一・三・三	二五	七六	七三	一四九	小崎木町二ノ三	5
18	第二日野尋常小學校	明治三・六・一	二四	六二	六六	一二八	五反田五ノ一〇	6
19	芳木尋常小學校	大正七・二・二一	二四	七〇	六八	一三八	東大崎三ノ一九	9
20	第三日野尋常小學校	大正一・一・五	一八	五二	五五	一〇七	上大崎一ノ五一	12
21	第四日野尋常小學校	大正一・四・一〇	二四	六九	六三	一三二	西大崎四ノ五六	15
22	第五日野尋常小學校	大正一・五・一〇	一八	四六	四八	九四	五反田一ノ四六	16
計			四七六	一三六三	一三二六	二六八九		

附表 (二) 尋常夜學校一覽表

(昭和十三年十二月一日現在)

番號	學校名	創立年月日	學級數	男	女	計	附設學校名
1	城南尋常夜學校	大正七・四・二〇	三	七七	二	七九	八九城南尋常小學校內
2	大崎尋常夜學校	大正八・四・一	二	五四	二	五六	七九第二日野尋常小學校內
3	山中尋常夜學校	大正一〇・四・六	二	三八	七	四五	四五山中尋常小學校內
4	鈴ヶ森尋常夜學校	昭和三・四・一八	九	一九	七	二六	五二鈴ヶ森尋常小學校內
計			九	一六四	二二	一八六	

附表 (三) 青年學校一覽表

(昭和十三年十二月一日現在)

番號	學 校 名	創 立 年 月 日	現 在 生 徒 數	附 設 學 校 名
1	大崎實業青年學校	明治四三・一一・一一	五五	第二日野尋常小學校內
2	大井青年學校	大正七・五・二九	二四〇	大井尋常小學校內
3	鮫濱青年學校	大正七・五・二九	一九五	鮫濱尋常小學校內
4	品川實業青年學校	大正八・四・八	五五	品川尋常小學校內
5	品川青年學校	大正一五・七・一	一〇四	東海高等小學校內
6	大崎青年學校	大正一五・七・一	一七六	第一日野尋常小學校內
計			八三二	

附表 (四) 官公立學校表

學 校 名	創 立 年 月 日	所 在 地	學 校 名	創 立 年 月 日	所 在 地
東京府立第八高等女學校	大正七・六・四	東品川四丁目	東京府立聾啞學校	昭和九・三・三	南品川六ノ一五〇二
東京府立電機工業學校	昭和二・一・七	大井鮫洲町二三	海軍大學校	明治三・七・	上大崎長者丸
東京市立大崎高等實修女學校	明治四・四・三	大崎本町二ノ三九三			

附表 (五) 其他私立諸學校表

學 校 名	所 在 地	學 校 名	所 在 地
立 正 大 學 學	東大崎四ノ一九九	荏 原 女 學 校	北品川三ノ二二四
立 正 中 學 學	東大崎四ノ一六〇	大井高等家政女學校	大井寺下町一四〇
攻 玉 社 中 學 校	西大崎三ノ四七七	日 本 高 等 洋 裁 學 院	右に同じ
立 正 商 業 學 校	東大崎四ノ一六〇	荏 原 裁 縫 女 學 校	西品川三ノ八九七
攻 玉 社 商 業 學 校	西大崎三ノ四七七	東 海 産 婆 看 護 婦 學 校	北品川三ノ二二四
品川高等女學校	北品川三ノ一九五	品川自動車學校	南品川一ノ二四
東京女子商業學校	西大崎四ノ八一五	第一文化自動車學校	東品川一ノ一八
東京家庭學院	五反田六ノ四七六	昭和保姆養成所	大井原町五二〇八

附表 (六) 幼稚園表

幼稚園名	所 在 地	園 長	幼稚園名	所 在 地	園 長
品川幼稚園	北品川三ノ二二四	濱浦 鍊子	萩野幼稚園	北品川二ノ九三	萩野 茂
東英幼稚園	西品川三ノ八七四	益川 廣子	聖美幼稚園	西品川五ノ一〇〇	二内山一三夫

大崎幼稚園	西大崎一ノ二七三	藤田ミツエ	五反田幼稚園	下大崎二ノ一八三	浦木ゆきこ
知本幼稚園	大井元芝町七四九	松永利子	瑞穂幼稚園	大井原町五二〇	八土川 五郎
大井幼稚園	大井北沼川町九六九	遠藤 泉			

二、區 政

品川區は、東京市といふ地方自治團體を組織する三十五區の中の一區で、法人區としての品川區と、東京市の學區としてのそれと二様の意味を持つてゐる。

東京市は、教育勸業・土木・衛生等、市民の福利増進のための公共事業を經營し、是等に要する費用を市自らが支辨する組織になつてゐるが、區ではその中特に區に關係する事項を行ふのである。

區役所事務組織
 庶務課 選挙課 衛生課 教育課 社会課 福利課 戸籍課 保甲課
 保 戶 社 教 庶
 保 籍 籍 會 學 選 庶
 保 籍 籍 會 學 選 庶
 保 籍 籍 會 學 選 庶



品川區役所

東京市が東京市會で、公共事業の方針を決定し、東京市長が之を實行するやうに、區に關係した事項は、區會で之を決定し、區長が之を實行するのである。

品川區役所は品川區に關する事務を執るのであるが、市政に關する

事務が多く、其の他、東京府、或は國家から委任された事務もあつて、實に仕事が多い。

會	稅	土
用支收計	滯訓雜家稅務	第第事木
度拂納課	理整査稅	二工工務課
係係係	係係係係係	係係係係

先づ、區政に關する事務としては、區に屬する市稅の徵收、區會議員の選舉、區に屬する營造物の管理、會計等があり、學區としての事務に、小學教育の運営等があり、市政に關する事務としては、市稅の徵收、傳染病の豫防、道路の管理、小學校營造物の管理、その他、社會勸業に關する細かい事務が非常に多い。尙、戶籍、徵兵、選舉、國稅、府稅の徵收等國家或は東京府から委任された事務がある。

此のやうな複雑な事務を處理するために、事務を分類して八課に分け、更に各課を、その事務の繁簡によつて數種の係に分け、各課に課長を置き、各係に主任を配し、二百數十名の吏員が各々の事務を分擔して、區長を助け、區政を圓滑に行つてゐる。

區長は市長の命を受けて是等の事務を執行する。従つて、市町村長のやうに選舉するのではなく、市長から任命されるのである。然し、區會で議決した區政に關する事項は、執行機關として之を實行する。尙その上、東京府や國家から委任された事務も掌るので、三重の機關となつてゐる。

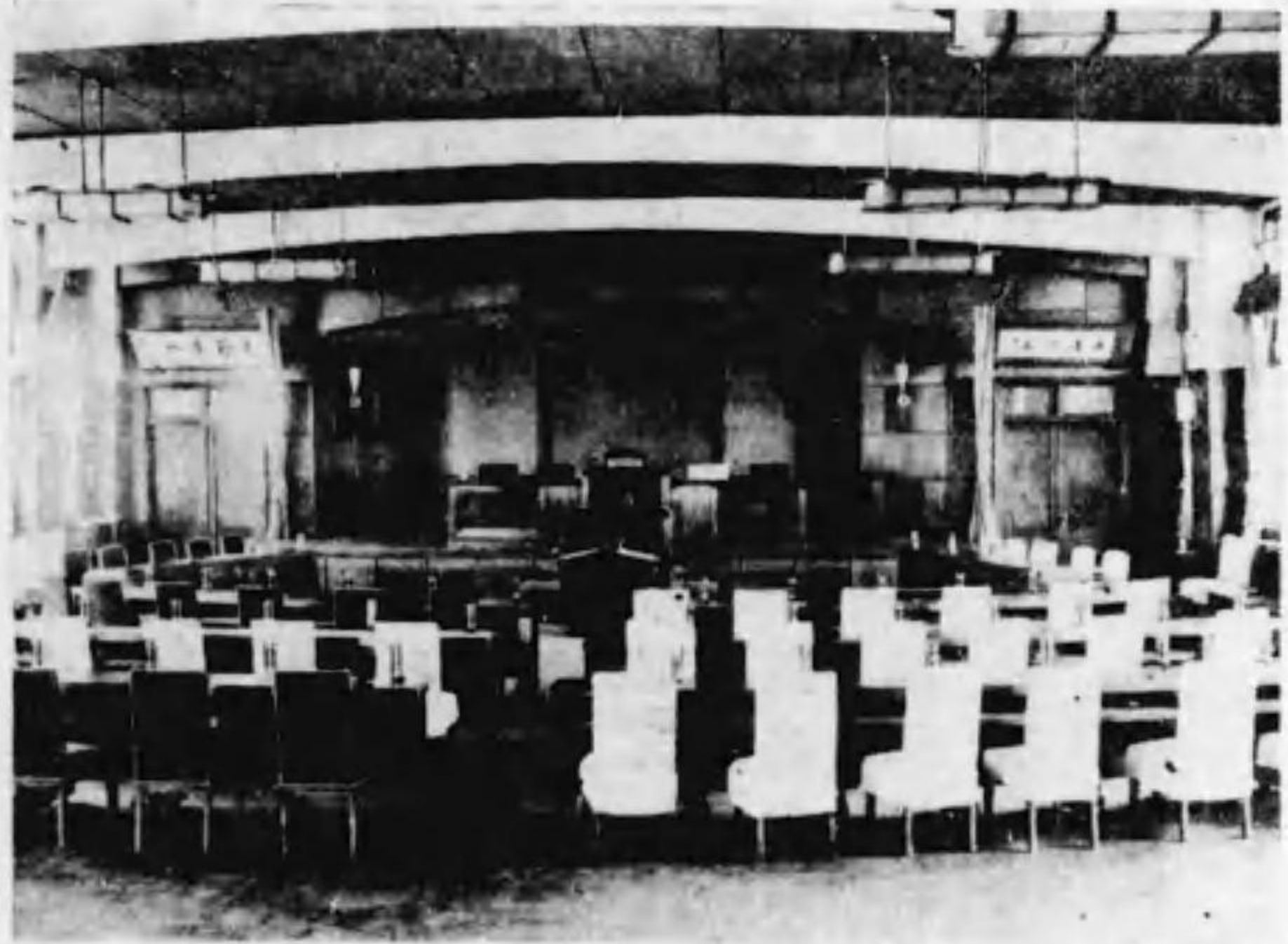
區會は區に關する事項に就いて協議決定する議決機關で、品川區會は、現在四十四名の區會議員を以て組織してゐる。區會議員は、區民から選舉され、その任期は四箇年で、市の名譽職を以て遇されるのである。

區會で議決される事柄は、市制といふ法律に規定せられてあるが、その中重要なものは、區政の根本である區の歳出歳入の豫算、區に屬する市稅の割當、區費で行ふ事業等に關するこ

とて、その議決の土臺となる議案は、普通區長が提出すること

になつてゐる。事情によつては議員からも發案することが出来る。

區會は區長が召集するのが普通で、區役所三階の會議室で行はれる。會議の形式は市町村會と同じで、議員の半數以上の出席がなければ開會することが出来ないし、議事は出席者の半數以上の賛成を得な



品川區會議場

ければ決定出来ない。

區會で決定したことを實行したり、或は調査するために、區會議員で、常任委員會が設けられる。又、豫算決算に就いて、特別委員會が設けられる場合もある。是等は共に、區政が慎重に審議されるための機關である。他に學區として、區には十名の區學務委員が置かれてゐるが、これは、小學教育の運営のための區長の諮問機關である。

選舉は公民の權利義務中最も大切なものである。次の條件を有する區民は、概ね區會議員の選舉權及び被選舉權を有する。

- (一) 帝國臣民であること。
- (二) 年齢滿二十五年以上の男子であること。

學務委員
 區會議員 三名
 公會議員 六名
 小學校教員 一名
 計 十名

(三) 東京市に二年以上住居し、現在品川區に住居する者であること。

その選舉の方法は、府縣市町村會議員の選舉の場合と同様である。

選舉に當つては、自分の投ずる一票が實に區の將來の運命にかゝつてゐることを考へると、候補者の人格・識見・節操・手腕等に就いて公正な判斷をして、みだりに私利私欲の爲に動かされるやうなことがあつてはならぬ。

選舉權は、畏くも明治天皇の立憲政治の大御心により、國民に與へられた權利であるから、之を正しく行使することは勿論、みだりに棄權するやうなことがあつてはならぬ。さうして、明かるく正しく區政が行はれるやうに努めねばならぬ。

い。

區政は唯單に區會や區長等、區當局のみでは明かるく圓滑に行はれるものではない。區當局は常に區内の各種團體を援助し、これと密接に聯絡して、是等の機關による區政の助長をはかつてゐる。その中で最も活動範圍の廣いものは町會である。町會は、もと町内住民が相互扶助の目的で結成したものであるが、品川區が出来てからは、舊品川・大崎・大井の約八十の町會が聯合して、品川區町會聯合會を組織し、益々本來の目的を發揮し、着々その實績を擧げてゐる。その他、在郷軍人會・品川區防護團・大日本國防婦人會・愛國婦人會・青年團或は女子青年團等、國防に産業助成に、或は修養に、各々團體の目的に向かつて事業をなし、常に區當局と聯絡して、區民の福利増進

のために活動してゐる。又一方、市によつて設けられてゐる健康相談所・職業紹介所或は方面委員等と協力して、社會事業に深く意を用ひてゐる。

我等の品川區が輝かしい發展をなし、區民が幸福に生活出来るためには區當局と、區民との眞の融和が必要で、區長・區會議員等公職にある者は勿論、區民各自が區政に對する自覺を持ち、進んで之が圓滑に行はれるやうに協力せねばならぬ。

區關係區内團體一覽表

名	稱	事務所所在地	創立年月	員數
品川區町會聯合會		品川區役所	昭和一一・四	三八、一九二
品川區青年團		同	七・一二	一、六五〇
品川區女子青年團		同	七・一二	八六四
品川區聯合少年團		同	昭和九・一	六〇〇

社會事業施設一覽表

帝國在郷軍人會	品川區役所	昭和八・一	三、四九一
品川區防護團	同	八・六	一一、〇〇〇
愛國婦人會品川區分會	同	九・七	二、三七七
品川區婦人會	北品川三ノ二二四	大正八・一	五〇〇
大日本國防婦人會	品川區役所	昭和八・一二	一一、〇〇〇
品川區社會事業聯合會	同	九・五	
品川區教育會	同	七・一二	二、一九八
品川區教育研究會	芳水小學校	七・一二	五二〇
品川區防火協會	品川消防署	一一・一〇	二二二
品川區銚後授會	品川區役所	一二・八	

種別	施設數	備考
方面事業	三	品川方面事務所(區役所)、大井方面事務所(大井關ヶ原町)、大崎方面事務所(五反田五丁目)
職業紹介	三	品川職業紹介所(北品川三丁目)、大井職業紹介所(大井關ヶ原町)、五反田職業紹介所(五反田五丁目)

公設質屋	一	市立大井公設質屋(大井關ヶ原町)
施療並に輕費診療	四	品川診療所(南品川二丁目)、大崎診療所(五反田二丁目)、大井診療所(大井鐵町)、三木出張所(西品川三丁目)
施療並に輕費病院	一	養育會大井病院(大井森前町)
結核相談及診療	四	品川健康相談所(北品川)、大井・大崎・品川各診療所
連絡調査研究機關	一	
司法保護事業	一	東京佛敎慈善會(北品川一丁目)
職業補導	一	社會課(區役所)
健康相談	一	品川健康相談所(北品川)
妊産婦保護	一	愛生病院(大井出石町)
幼兒保育	一	品川託兒所(南品川三丁目)
少年保護	一	品川少年保護協會(區役所)
隣保事業	一	大井隣保館(大井鐵町)
兒童健康相談	一	品川健康相談所(北品川)

二二、財政の話

楽しいお夕飯がすむと、保雄君はいつものやうに、今日一日の出来事を、父母にお話した時、松太郎君とお休時間にまりぶつけをして、過つて講堂の硝子をわつたことをお話した。

「先生は『今度から過のないやうに、よく氣をつけなさい。』といはれたただけだったので、僕はほつとした。あの硝子は學校で買つて下さるのですか。」

するとお父さんは、

「今度から氣をつけるんだな。硝子は學校で買つて下さるが、學校には別にお金があるわけではない。みんなお役所で出して下さるのだ。」

保雄君はちよつと考へてゐたが、

「それでは、学校の机や黑板や、理科の時の標本や體操器械等も、みんなお役所で買ふのですか。お役所つてどのお役所ですか。」

「區役所だ。勉強の道具ばかりでなく、水道料もいるし、冬になればストーブも焚くし、學校がいたれば修繕もするし、それ等の費用はみんな區役所から出るのだ。何でも學校だけに使ふお金が年々二十萬圓以上もかゝるといふことだ。」
「今度東海高等小學校・大井高等小學校・城南第二尋常小學校が新築されたが、さういふお金もその中から出るのですか。」
「いやそれは違ふ。學校の建築費は一學校だけで十萬圓も二十萬圓もかゝる。それは市で出してくれるのだ。だが、

品川區歳入豫算 (昭和十三年度)

財産より生ずる収入	二、〇〇〇、〇〇〇
使用料並手数料	四、〇〇〇、〇〇〇
市補助金	二、〇〇〇、〇〇〇
寄附金	二、〇〇〇、〇〇〇
雑収入	二、〇〇〇、〇〇〇
區に屬する雑収入	三、八〇〇、〇〇〇
市税	四、七〇〇、〇〇〇
合計	一、〇、〇〇〇、〇〇〇

歳出豫算	二、八〇〇、〇〇〇
神戶市費	二、〇〇〇、〇〇〇
社會費	二、〇〇〇、〇〇〇
學務委員費	二、〇〇〇、〇〇〇
小學校費	二、〇〇〇、〇〇〇
尋常夜學費	一、〇〇〇、〇〇〇
大高等學費	一、〇〇〇、〇〇〇
修女學校費	一、〇〇〇、〇〇〇
青年學校費	一、〇〇〇、〇〇〇
事務費	一、〇〇〇、〇〇〇
選舉費	一、〇〇〇、〇〇〇
表立費	一、〇〇〇、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇、〇〇〇
雜支費	一、〇〇〇、〇〇〇
雜常計	一、〇〇〇、〇〇〇
經常計	一、〇〇〇、〇〇〇

その後、學校のいろ／＼な道具をこしらへたり、修繕したりするのは區でやるのだ。」

保雄君があまり熱心に聞くので、お父さんは、新聞を下に置いてお話を始めになつた。

「話が半分こみ入つてくるが、區で行ふ事業の費用の大部分は税金だ。税金は國稅・府稅を本稅といつて、市町村稅はその附加稅である。區の税金は、市稅の區に屬する分である。この税金で區全體の事業をやるのだ。その事業も、法律で決められて居り、自治團體のやうに廣い範圍に亘つてはならない。一番重要なのは、何と言つても小學校に關することだ。その他社會事業選舉などにも費用がかゝるし、區吏員の給料も拂はねばならない。是等の年々きまつて入用な

臨時部	皇太子殿下御誕生奉祝記念事業費	六、〇〇〇
小學校	小學校費	三、六〇〇
小學校	小學校費	三、四〇〇
小學校	小學校費	一、五〇〇
大崎高等女學校	修女學校費	三、〇〇〇
補助費	補助費	三、〇〇〇
雜費	雜費	四、五〇〇
校地買収	校地買収	八、〇〇〇
臨時部計	臨時部計	三七、九〇〇

お金を經常費といつてゐる。このお金は四十萬圓近くだらう。この外に、臨時にやる事業の費用を臨時部といつてゐるが、これは年によつて違つてゐる。少い年で九萬圓、多い年は二十萬圓に達することがある。品川區の各小學校にある皇太子殿下御誕生奉祝記念プールは、臨時部の費用で出來たものだ。」

お父さんは煙草に火を點けて、なほ話をつゞけられた。

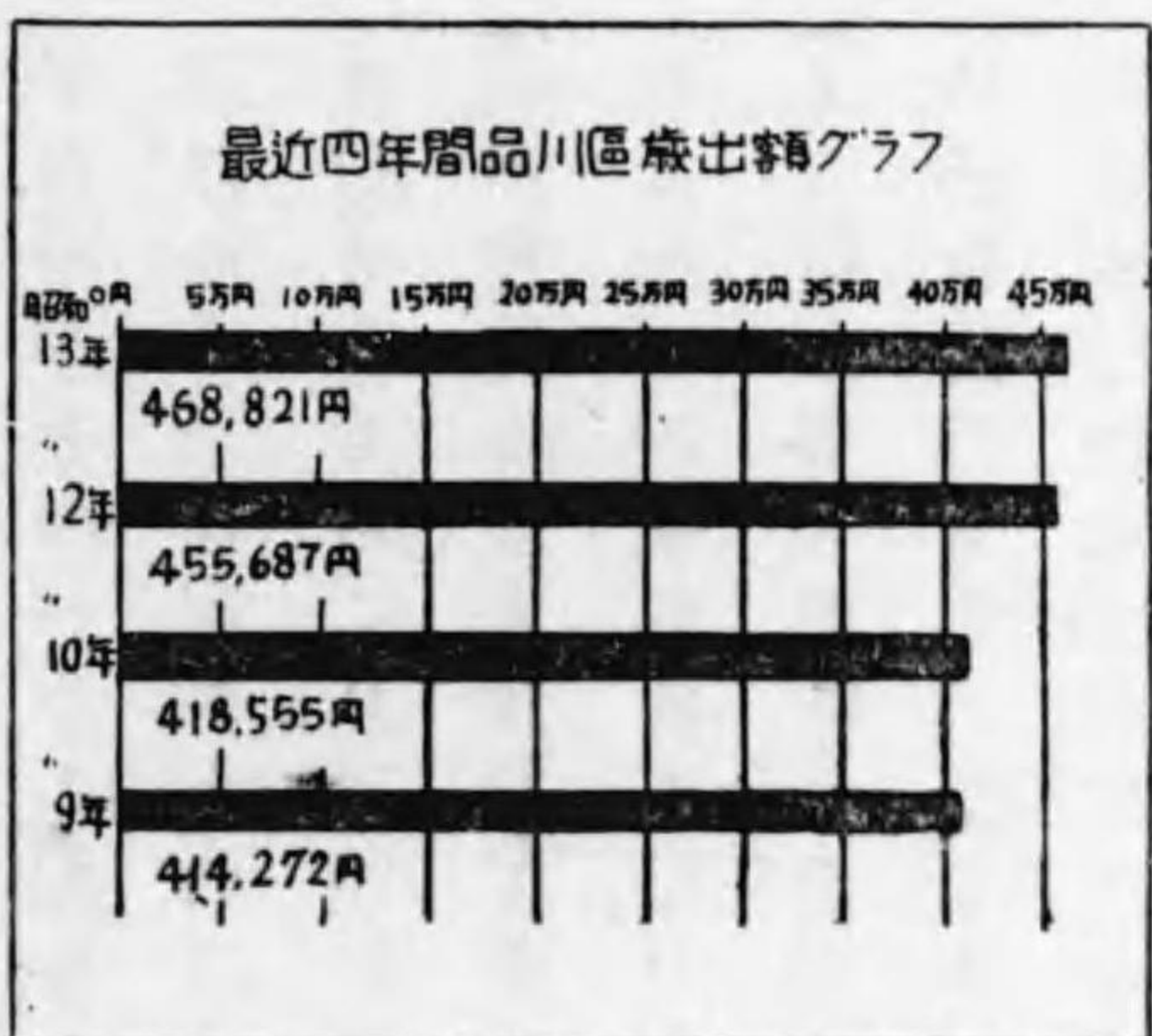
「保雄によくわかるやうに話すことは、なか／＼むづかしいが、よくきいてみてごらん。一箇年間に使ふお金の豫定のことを歳出豫算といふのだ。歳出豫算に對して、その入用なお金をどうしてこしらへるかといふ豫定が歳入豫算である。歳入豫算の大部分は税金であるが、その他に區の基

金といふものがあつて、年々それから二千圓位収入がある。その他建物の使用料とか、いろ／＼な證明書や謄本の手數料等を加へると、税金と合はせて全部で四十六七萬圓位になる。尙市から、約二十萬圓位は補助金といふものが交付されるが、これは年によつて違つてゐる。」

「歳出豫算と歳入豫算ですね。ちよつとお父さん、もし事業のことでお金が足りなくなつたらどうしますか。」

「さういふ事も時にはあるだらう。さういふ時市町村だと、公債を發行する。つまり一般から借金するのだ。しかし區ではそれが出來ない。その時には豫備費といふのを使ふのだが、それは大體二萬圓位はあるだらう。しかし、澤山なお金を借りてもやらねばならないやうな事業は、市でや

つてくれることになつてゐる。
「うまく出来てゐるのですね。」



「何でも品川區では、租税が一人
當り二十圓程になり、一軒で平
均約百四五十圓位の負擔にな
るのださうだ。もちろんこれ
は國税も府税も全部いれてだ
が、これだけのお金を一べんに
納めるのは大變だし、さうかと
いつて納期が遅れては困るの
る。これに入れば便利だし、又、區民としての義務も立派に

はたすことが出来るわけだ。」

「税金は總べて區役所へ持つて行けばよいのですか。」

「さうだ、市税も、府税も、國税も皆區役所で取扱つてゐる。し
かしその額を決めるのは、國税は品川稅務署で、府税は府廳
にその係があつて決めるのだ。區役所はたゞそれを徴收
するだけだ。區に屬する市税の割合は、區會で決めること
になつてゐる。」

もう時計は九時すぎたので、妹や弟はいつの間にか床に入
つて眠つてしまつた。

二三、逓信省電氣試験所

逓信省電氣試験所
上大崎二丁目五三

今日は、工業大學に通つてゐる兄さんに連れられて、僕は四年生の妹と一しよに逓信省電氣試験所を見學した。お父さんも一度見たいといつて居られたので、お夕飯の後でお話して上げた。

「お父さん。所員の方はとつても親切でしたよ。僕にはあまりむづかしいので、よくわからない所もあつたけれど、大層面白かつた。この試験所は明治二十四年に創立されたのだが、こゝに移つたのは昭和五年だ。もとは逓信省へ納める電氣用品を検査をしてゐたのだが、だん／＼各方面に電氣が用ひられるやうになつて、その検査も複雑になり、研

究も組織立つて来て、今では一部から五部迄に分れてゐる。尙その他にも二つの課があると、説明して下さいましたよ。」
これを聞いて兄さんは、

「よく覚えてゐるね。今日見た所は何部だつたかね。」

「第四部ですよ。軍艦のやうな恰好をした白い建物の中にありましたね。とても明かるい感じのよい建物、あれが本館でしたね。」

「さう、あたし、あの建物、とても氣に入つたわ。」

妹もあの明かるい建物がなつかしいらしく、口をはさんだ。

お父さんは、さつきからにこ／＼して煙草をすつていらつしやる。

「お父さん。初はね、ラヂオのセットの試験をする所。」

「お家にあるやうなセットが澤山箱から出して、はだかのまゝで置いてあつたわね。」

「真空管や、トランス、抵抗器等の部分品に、適当なものが使つてあるかどうかを試験するのです。」といつて、マグネ……何と言つたつけなあ。」

「マグネチックスピーカー・ダイナミックスピーカーさ。」

「さう、その二種のセットの聲をくらべて聞かせてくれましたよ。」

「随分音が違つたわねえ。片方は何だかきん／＼した音だつたわ。あの方がマグネチックねえ。」

「ダイナミックの方が高級といふ譯だらう。」

とお父さんがおつしやつた。そして、

「花子は四年のくせに、なか／＼しやれたことを覺えたね。」

とおつしやつた。それから兄さんが、

「防音室も見せてもらつたぢやないか。」

「お父さん、防音室といふのはね、天井も壁も床もズツクの様な布ではつてあつて、反響がないから、入つたら變でしたよ。しやべつてもとても小さい音がして、遠く



通信省電気試験所

の方で話してゐるやうでしたよ。」

「さうか。それは面白いね。お父さんも一度入れてもらひたいね。」

「それから、兄さん、部屋の真中にラヂオのセットがあつたでせう。びーつて音を出して。」

「あれは純音と言つて、少しも混り氣のない音を出させてゐるわけだ。隣の室で、低い音から段々に調子の變る音を出させて記録してゐるのだ。」

「その次のは、兄さん、何といひましたか。むづかしい名でしたね。天文臺から送られる時報を元にして、ラヂオの出してゐる電波の周波數が幾つかを測る機械——。」

「あれか、周波數の精密測定装置。」

「その次はね、お父さん。テレビジョンだつたわよ。私テレビジョンはじめてだつたわ。お隣の室に電話と一しよに置いてあつて、向かふの顔を見ながら話すのよ。兄さんの顔可成りはつきり見えたわ。」

「それからあれは、お兄さん、アイスクリームとか何とかいふの。」

「は、は、アイスクリームはよかつたな。アイコースコーフさ。あれはまだ研究中なんだ。あれは機械的走査法といふのさ。」

「ね、お兄さん。テレビジョンの自動車もあつたわねえ。あれがあると、お相撲だつて野球だつて、お家で見られますよつて、所員の方がおつしやいましたのよ。」

かつて、区内のある巡査は、數年の間、自分の給料を割いて、擔當區域内の貧困な家庭に恵んでゐた。この美しい一巡査の行爲などは、實に警察精神の花と言つてよい。

警察署の仕事は種類が大層多いが、消防署の仕事は割合に簡單である。しかし品川区内の火災損害は年々約百萬圓程もあつて、火災の度數も七十件といふやうな多數に上つてゐる。又最近は空襲に對する用意もあつて、消防署の活動は益々重要となつて來た。

現在品川消防署で、管内に十二臺の自動車ポンプと約八十名の消防手とを、各出張所に配置し、平時は防火協會と連絡して、防火に苦心してゐる。

一度、出火といふ場合には、消防司令の命令一下、直ちに、赤い

救急自動車

設置 昭和十一年一月二十日

設備 酸素吸入器、擔架、應急處置用器、手働式人工蘇生器、應急處置用藥品

救急自動車は、交通事、故や火災、水災各種、運動競技場、工場、非常事變等の場合、何時でも出動して、何れの手當の上病院まで無料で輸送することに努めてゐる。

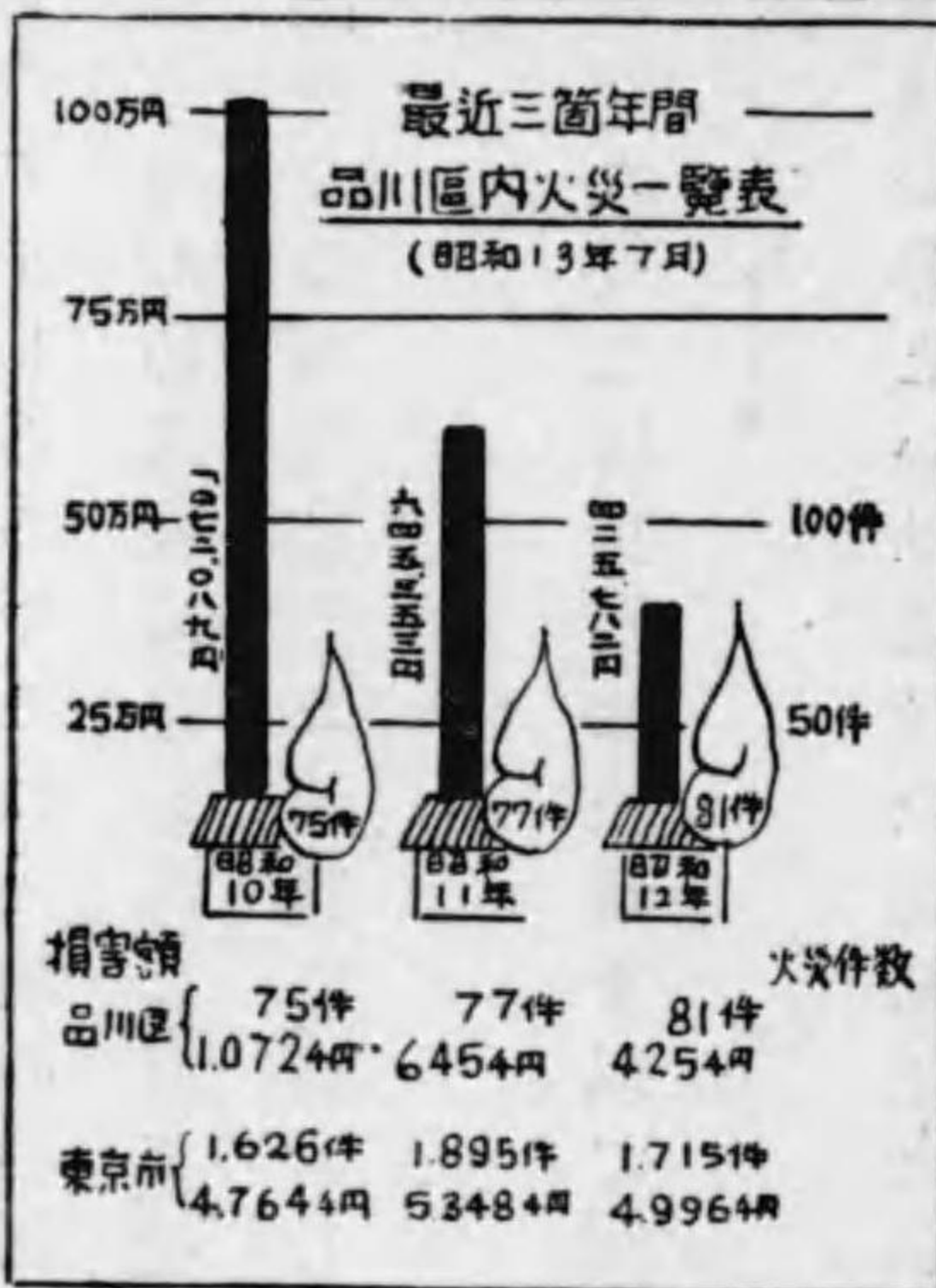
第二救急隊

(品川消防署内)

出動區域 品川區、目黒區の全部、荏原區の一部
電話 自動一一九番
手働救急車



品川消防署



自動車ポンプがうなりをあげて、火災現場に向かつて出發する。消防署長は司令として出動するが、各出張所で

は、所長の指揮の下に、一絲亂れぬ規律のもとに、迅速な活動を

開始する。或者は、出水口を握つて、猛火の中に突入し、或者は、破壊作業のために、梯子を傳つてましろのやうに火煙の中に姿を消す。或者は救出作業のため、防火服に身をかためて、猛火の中に進入する。ああ、誰かこの勇敢悲壯な活動に感謝しないものがあらうか。

又震災・空襲等の非常時には、火災とは特別な組織を以て、萬一の場合に備へることになつてゐる。

消防手は、あの緊張した望樓勤務といひ、迅速な連絡係といひ、實に一分一秒の隙もなく、吾々の日夜を守つてゐて下さるのだ。又火災の時には、しばし、殉職される方さへもある。それを思ふと、我々區民はよく火の用心をして、火災損害の少いやうにし、又いざといふ場合にうろたへないやうな訓練を

經てゐなければならぬ。

二五、品川區の將來

(一) 京濱運河

日曜日の午後のことである。僕が「第十九パナマ運河。世界地圖を見て、誰でもちよつと、不思議に思ふのは……」と讀んで居ると、

「良一、京濱運河を知つて居るかね。」

と、後でお父さんの聲がした。僕は驚いてふりかへつた。

お父さんは何時の間にこゝへ姿をあらはしたのか、和服のまま、で立つていらつしやる。

「お父さん、今日はお休ですか。」

汽船航路	延長	三三〇〇米
但し鶴見地先	五九〇米	
水深	九米	
船航路	延長	一〇〇〇米
水深	五米	
防波堤	延長	三〇〇〇米
小運河	幅員(自)	一〇〇米
	幅員(至)	一五〇米
幹線道路		五米

「さうだ、今日は現場の方も休だ。ひさしぶりで、お前の勉強の様子を見ようと思つて、一寸のぞいたわけさ。」

僕は京濱國道京濱電車などを思ひ浮かべて見たが、京濱運河といふのはまだわからなかつた。

「お父さん、わかりません。でも、京濱ですから、東京と横濱を連絡するものでせう。」

とお答すると、

「さうだ、東京港と横濱港とを連絡するものだ。しかし一般の人は、このことをあまり知つてゐないね。お父さんは土木が仕事だから、よく知つてゐるんだ。」

とおつしやつて、

「京濱運河は、明治三十年頃から話題に上つてゐたのだつた



京濱運河地帯圖

が、計畫の決定したのは、ずつと後の昭和二年のことだ。あれが完成すると、運河には一萬噸級の汽船がどんく入つて來ることになる。さうなると、附近の臨港工場では、安い運賃で原料品を購入することが出來て、大助かりだ。現在貨物は、横濱に入港すると一旦陸揚げして、倉庫に入れ、それから船又は汽車

自動車等で東京の工場に送られてゐるので、中々手數がかゝり、費用もかさんでゐる。運河が出来たら、其の心配は殆ど無くなる筈だ。それに掘上げた海底の土や砂を、京濱國道に沿つて埋立て、約六百三十萬坪の土地を造らうといふのだから大したものだ。この埋立地は工業地として發展させる豫定なのだ。運河に入つて來た汽船の甲板から、原料品をはふり出すと、どの工場でもそれを見事に受取る事が出来るやうになる。」

「便利になるのですね。」

と僕はうなづいた。お父さんは更に、

「汽船航路の外に、舩船航路や、其他の小さい運河を縦横に造つて、連絡する仕組になつてゐる。汽船航路は東京港から

出て、多摩川を横斷して、神奈川縣に入り、鶴見川口で横濱港と連絡するやうになる。これが完成して、運河に沿つて臨港工場がぎつしりと立並んだ有様を想像してごらん。實に愉快だらう。かうして、品川區の將來は、昔は海であつた東京灣の沖へ沖へと發展して行くのだ。」

と、さも愉快さうに話して下さつた。

(二) 都 制 案

市制の將來に關して叫ばれてゐるのが、東京都制案である。宮城をいただき人口六百萬を數へる東京市は、他の小都市と、自ら事情を異にするから、特別な制度、即ち都制によつて將來の建設に進まうとする計畫である。市民のこれを要望する聲は年毎に大きく、政府でも昭和八年には東京都制案を議